

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリウダ`ホ`カク`シ`ン`ホ`カク`ホ`ク 国立大学法人 名古屋大学								
フリガナ大学の名称	ホ`カク`ホ`カク`ホ`ク`シ`ン 名古屋大学大学院 (Graduate School of Nagoya University)								
大学本部の位置	愛知県名古屋市千種区不老町1								
大学の目的	名古屋大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者の養成を目的とする。								
新設学部等の目的	<p>近年の医学・医療の進歩と生活環境の改善による平均寿命の延長と出生率の低下は、生産年齢人口の減少と従属人口の増大をもたらし、そのため、国民の健康維持と疾病・障害からの速やかな回復・社会復帰は今や重大な課題となっている。このような社会情勢の下で、より一層健全な未来社会を構築するための医学と医療関連科学の進歩・発展及び専門分化は目覚ましく、医療技術も日毎に高度化・複雑化している。</p> <p>本研究科は、これらの情勢に対応するため、医療技術の理論と実践を科学的に追及する医療技術科学を学問領域として確立させ、その科学、技術学及び実践技術を研究・教授し、幅広い基礎と高度な専門知識及び問題解決能力、感性ある人間性豊かな資質を備えた医療技術者、教育者及び研究者を育成することを目的として設置された。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学系研究科 (Graduate School of Medicine)  総合保健学専攻 (Department of Integrated health Sciences) (博士前期課程)	年	人	年次人	人	修士(看護学) 【Master of Nursing】  修士(医療技術学) 【Master of Radiological and Medical Laboratory Sciences】  修士(リハビリテーション療法学) 【Master of Physical and Occupational Therapy】	令和2年4月 第1年次	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

新設学部等の概要	(博士後期課程)	3	20	—	60	博士(看護学) 【Doctor of Nursing】 博士(医療技術学) 【Doctor of Radiological and Medical Laboratory Sciences】 博士(リハビリテーション療法学) 【Doctor of Physical and Occupational Therapy】	令和2年4月第1年次	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	14条特例の実施
	計		90	—	200				
同一設置者内における変更状況(定員の移行, 名称の変更等)		医学系研究科 <del>看護学専攻(廃止)</del> <del>(博士前期課程) (△18)</del> <del>(博士後期課程) (△6)</del> <del>医療技術学専攻(廃止)</del> <del>(博士前期課程) (△20)</del> <del>(博士後期課程) (△7)</del> <del>リハビリテーション療法学専攻(廃止)</del> <del>(博士前期課程) (△10)</del> <del>(博士後期課程) (△4)</del> ※令和2年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学系研究科 総合保健学専攻	講義	演習	実験・実習	計				
		57科目	12科目	16科目	85科目	30単位	博士前期課程		
		15科目	18科目	1科目	34科目	8単位	博士後期課程		
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	医学系研究科 総合保健学専攻 (博士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
	計	25 (30)	21 (21)	4 (6)	22 (22)	72 (79)	0 (0)	29 (29)	
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	既設分	人文学研究科 人文学専攻 (博士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
			46 (46)	50 (50)	1 (1)	7 (7)	104 (104)	0 (0)	16 (16)
		教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士課程)	13 (13)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	6 (6)
心理発達科学専攻 (博士課程)		7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	
法学研究科 総合法政専攻 (博士課程)	29 (29)	10 (10)	15 (15)	2 (2)	56 (56)	2 (2)	7 (7)		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)		

学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
	教授	准教授	講師	助教	計		助手
経済学研究科							
社会経済システム専攻 (博士課程)	10 (10)	11 (11)	1 (1)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	1 (1)
産業経営システム専攻 (博士課程)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
情報学研究科							
数理情報学専攻 (博士課程)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
複雑系科学専攻 (博士課程)	12 (12)	6 (6)	2 (2)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	2 (2)
社会情報学専攻 (博士課程)	2 (2)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
心理・認知科学専攻 (博士課程)	5 (5)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
情報システム学専攻 (博士課程)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	10 (10)
知能システム学専攻 (博士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	5 (5)	13 (13)	0 (0)	10 (10)
理学研究科							
素粒子宇宙物理学専攻 (博士課程)	8 (8)	14 (14)	6 (6)	12 (12)	40 (40)	0 (0)	27 (27)
物質理学専攻 (博士課程)	16 (16)	13 (13)	8 (8)	18 (18)	55 (55)	0 (0)	18 (18)
生命理学専攻 (博士課程)	9 (9)	8 (8)	12 (12)	10 (10)	39 (39)	0 (0)	16 (16)
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士課程)	58 (57)	48 (49)	24 (27)	48 (43)	178 (176)	0 (0)	0 (0)
医学系研究科							
総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	54 (54)	36 (36)	81 (81)	239 (239)	0 (0)	207 (207)
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	80 (80)	0 (0)	0 (0)
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	80 (80)	0 (0)	0 (0)
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	68 (68)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	78 (78)	0 (0)	0 (0)
医科学専攻 (修士課程)	36 (36)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)
工学研究科							
有機・高分子化学専攻 (博士課程)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	7 (7)	22 (22)	0 (0)	2 (2)
応用物質化学専攻 (博士課程)	6 (6)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	19 (19)	0 (0)	2 (2)
生命分子工学専攻 (博士課程)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	5 (5)
応用物理学専攻 (博士課程)	8 (8)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	25 (25)	0 (0)	3 (3)
物質科学専攻 (博士課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	10 (10)	23 (23)	0 (0)	4 (4)
材料デザイン工学専攻 (博士課程)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
物質プロセス工学専攻 (博士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	15 (15)	0 (0)	6 (6)
化学システム工学専攻 (博士課程)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	7 (7)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
電気工学専攻 (博士課程)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	12 (12)
電子工学専攻 (博士課程)	6 (6)	4 (4)	2 (2)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	8 (8)
情報・通信工学専攻 (博士課程)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	5 (5)
機械システム工学専攻 (博士課程)	9 (9)	12 (12)	1 (1)	12 (12)	34 (34)	0 (0)	2 (2)
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士課程)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	1 (1)

教員組織の概要

既設分

学部等の名称	専任教員等					助手	兼任教員等
	教授	准教授	講師	助教	計		
工学研究科							
航空宇宙工学専攻 (博士課程)	6 (6)	2 (2)	4 (4)	7 (7)	19 (19)	0 (0)	4 (4)
エネルギー理工学専攻 (博士課程)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	5 (5)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
総合エネルギー工学専攻 (博士課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	2 (2)
土木工学専攻 (博士課程)	6 (6)	7 (7)	1 (1)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	12 (12)
生命農学研究科							
森林・環境資源科学専攻 (博士課程)	8 (8)	7 (7)	4 (4)	3 (3)	22 (22)	0 (0)	3 (3)
植物生産科学専攻 (博士課程)	6 (6)	5 (5)	2 (2)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	14 (14)
動物科学専攻 (博士課程)	6 (6)	7 (7)	3 (3)	6 (6)	22 (22)	0 (0)	7 (7)
応用生命科学専攻 (博士課程)	17 (17)	16 (16)	9 (9)	10 (10)	52 (52)	0 (0)	7 (7)
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻 (博士課程)	48 (48)	44 (46)	14 (17)	26 (23)	132 (134)	0 (0)	0 (0)
名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻 (博士課程)	40 (40)	45 (45)	17 (17)	23 (23)	125 (125)	0 (0)	2 (2)
国際開発研究科							
国際開発協力専攻 (博士課程)	10 (10)	7 (7)	2 (2)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	14 (14)
多元数理科学研究科							
多元数理科学専攻 (博士課程)	24 (24)	20 (20)	1 (1)	8 (8)	53 (53)	0 (0)	1 (1)
環境学研究科							
地球環境科学専攻 (博士課程)	18 (18)	10 (10)	2 (2)	7 (7)	37 (37)	0 (0)	31 (31)
都市環境学専攻 (博士課程)	12 (12)	10 (10)	1 (1)	5 (5)	28 (28)	0 (0)	3 (3)
社会環境学専攻 (博士課程)	11 (11)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
創薬科学研究科							
基盤創薬学専攻 (博士課程)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
計	512 (512)	391 (391)	129 (129)	317 (317)	1,349 (1,349)	2 (2)	- (-)
合計	476 (476)	391 (391)	129 (129)	317 (317)	1,313 (1,313)	2 (2)	- (-)
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計	
	事務職員	674 (674)		1,285 (1,285)		1,959 (1,959)	
	技術職員	1,725 (1,725)		800 (800)		2,525 (2,525)	
	図書館専門職員	51 (51)		-		51 (51)	
	その他の職員	1 (1)		159 (159)		160 (160)	
計	2,451 (2,451)		2,244 (2,244)		4,695 (4,695)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計		
	校舎敷地	617,966 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	617,966 m <sup>2</sup>		
	運動場用地	105,994 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	105,994 m <sup>2</sup>		
	小計	723,960 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	723,960 m <sup>2</sup>		
	その他	2,495,186 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	2,495,186 m <sup>2</sup>		
合計	3,219,146 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	3,219,146 m <sup>2</sup>			

既設分

申請大学全体

申請大学全体  
うち附属病院  
51,789m<sup>2</sup>

校舎		専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計	申請大学全体				
		578,743 m <sup>2</sup> ( 578,743 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	578,743 m <sup>2</sup> ( 578,743 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	申請大学全体				
	234室	240室	1,326室	17室 (補助職員 1人)	14室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		医学系研究科 総合保健学専攻		82 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	医学系研究科総合保健学専攻	39,914 [4,754] (39,914 [4,754])	1,088 [179] (1,088 [179])	8,072 [7,966] (8,072 [7,966])	884 (884)	0 (0)	0 (0)			
	計	39,914 [4,754] (39,914 [4,754])	1,088 [179] (1,088 [179])	8,072 [7,966] (8,072 [7,966])	884 (884)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数	申請大学全体				
		24,829 m <sup>2</sup>		2,031 席	3,140,500 冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			申請大学全体			
		9,229 m <sup>2</sup>		弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1カ所)						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし							

既設大学等の状況	大学の名称	国立大学法人 名古屋大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	文学部	年	人	年次人	人		倍	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	人文学科	4	125	3年次10	520	学士（文学）	1.04	平成8年度		
	教育学部				280			昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士（教育学）	1.09	平成9年度		
	法学部				620			昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士（法学）	1.05	平成9年度		
	経済学部				840		1.05	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
	経済学科	4	140		560	学士（経済学）		昭和24年度		
	経営学科	4	65		260	学士（経済学）		昭和24年度		
	学部共通			3年次10	20					
	情報文化学部				—			平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
	自然情報学科	4	—		—	学士（情報文化学）	—	平成5年度		
	社会システム情報学科	4	—		—	学士（情報文化学）	—	平成5年度		
	学部共通			3年次10	20					
	情報学部				405		1.03	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	自然情報学科	4	38	—	114	学士（情報学）	1.04	平成29年度		
	人間・社会情報学科	4	38	—	114	学士（情報学）	0.98	平成29年度		
	コンピュータ科学科	4	59	—	177	学士（情報学）	1.07	平成29年度		

既設 大学等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	理学部				1,080		1.05	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
	数理学科	4	55	—	220	学士（理学）	—	平成7年度		
	物理学科	4	90	—	360	学士（理学）	—	昭和24年度		
	化学科	4	50	—	200	学士（理学）	—	昭和24年度		
	生命理学科	4	50	—	200	学士（理学）	—	平成8年度		
	地球惑星科学科	4	25	—	100	学士（理学）	—	平成4年度		
	医学部				1,494			昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	3年次編入20人を含む。保健学科については、平成31年度より2年次編入及び3年次編入を廃止。
	医学科	6	107	3年次 5	662	学士（医学）	1.01	昭和24年度		
	保健学科	4	200	3年次 — 2年次 —	832	学士（看護学） 学士（保健学） 学士（リハビリテーション学）	1.03	平成9年度		
工学部				2040		1.02	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止 平成29年度より学生募集停止	
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度			
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度			
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度			
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度			
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度			
化学生命工学科	4	99	—	297	学士（工学）	1.02	平成29年度			
物理工学科	4	83	—	249	学士（工学）	1.02	平成29年度			
マテリアル工学科	4	110	—	330	学士（工学）	1.00	平成29年度			
電気電子情報工学科	4	118	—	354	学士（工学）	1.01	平成29年度			
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	450	学士（工学）	1.02	平成29年度			
エネルギー理工学科	4	40	—	120	学士（工学）	1.04	平成29年度			
環境土木・建築学科	4	80	—	240	学士（工学）	1.01	平成29年度			
農学部				680		1.07	昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町1		
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.08	平成18年度			
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.06	平成18年度			
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.07	平成18年度			
合 計		2,107	3年次 55 2年次 —	7,979						

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)	2  3	—  —	—  —	—  —	修士(文学) 修士(歴史学) 博士(文学) 博士(歴史学)	—  —	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
	人文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)	2  3	104  61	—  —	208  183	修士(文学) 修士(歴史学) 修士(学術) 博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	0.99  0.73	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)  心理発達科学専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)	2  3  2  3	32  16  22  15	—  —  —  —	64  48  44  45	修士(教育学) 修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育) 修士(心理学) 修士(臨床心理学) 博士(心理学)	0.73  0.70  0.88  0.86	昭和28年度 (平成12年度名称変更) 平成12年度  平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)  実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	2  3  3	35  17  50	—  —  —	70  51  150	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学) 博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学) 法務博士 (専門職)	0.38  0.42  0.66	昭和28年度 平成16年度  平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)  産業経営システム専攻 (博士前期課程)  (博士後期課程)	2  3  2  3	30  15  14  7	—  —  —  —	60  45  28  21	修士(経済学) 修士(経営管理学) 博士(経済学) 修士(経済学) 博士(経済学)	1.01  0.51  1.06  0.75	昭和28年度 平成12年度  平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	



	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	情報学研究科							平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
	数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(情報学)	1.13	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	4	—	12	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.91		
	複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(情報学)	1.19	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	24	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.79		
	社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	5	—	15	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.66		
	心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(情報学)	0.73	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	7	—	21	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.99		
	情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(情報学)	1.04	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	27	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.55		
	知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	58	修士(情報学)	1.24	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	10	—	30	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.83		
	理学研究科							昭和28年度	
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.05	平成7年度		
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.88			
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.20	平成7年度		
(博士後期課程)	3	22	—	66	博士(理学)	0.66			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.05	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	54	博士(理学)	0.42			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士(理学)	0.16	平成28年度		

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	医学系研究科							昭和30年度 (平成14年度 名称変更)	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	総合医学専攻 (博士課程) 平成30年度入学定員減(△2人)
	総合医学専攻 (博士課程)	4	151	—	614	博士(医学)	1.12	平成25年度		
	名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	16	博士(医学)	0.31	平成27年度		
	名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.41	平成29年度		
	名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	2	—	2	博士(医学)	0.00	平成30年度		平成30年10月学生受入開始
	医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	0.87	平成13年度		
	医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
	看護学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(看護学)	—	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	令和2年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(看護学)	—			
	医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(医療技術学)	—	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	令和2年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(医療技術学)	—			
	リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(リハビリテーション療法学)	—	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	令和2年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(リハビリテーション療法学)	—			
	工学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度 (平成16年度再編)		平成29年度より 学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.11	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	1.29			
	応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.01	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.24			
	生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	1.03	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(工学)	0.88			
	応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.89	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.33			
	物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(工学)	0.94	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.25			

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.08	平成29年度
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.16		
	物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(工学)	1.33	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.62		
	化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.41		
	電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.15	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.81		
	電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(工学)	1.19	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	13	—	39	博士(工学)	0.66		
	情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	66	修士(工学)	1.09	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.58		
	機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(工学)	1.18	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(工学)	0.44		
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	1.19	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.49		
	航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	76	修士(工学)	1.16	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士(工学)	0.79		
	エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	0.94	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(工学)	0.53		
	総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	0.97	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(工学)	0.58		
	土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	0.87	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.44		

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	生命農学研究科							昭和30年度 (平成9年度 名称変更)	愛知県名古屋市千種区不老町1		
	生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成11年度		平成30年度より 学生募集停止	
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—				
	生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成9年度		平成30年度より 学生募集停止	
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—				
	応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成10年度		平成30年度より 学生募集停止	
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—				
	生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成16年度		平成30年度より 学生募集停止	
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—				
	森林・資材科学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(農学)	1.09	平成30年度		森林・資材科学 専攻(博士後期 課程)平成31年 度入学定員減 (△1人)	
	(博士後期課程)	3	7	—	13	博士(農学)	0.46				
	植物生産科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(農学)	1.11	平成30年度			
	(博士後期課程)	3	9	—	18	博士(農学)	0.60				
	動物科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	0.98	平成30年度			
	(博士後期課程)	3	7	—	14	博士(農学)	0.21				
	応用生命科学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(農学)	1.04	平成30年度			応用生命科学専 攻(博士後期課 程)平成31年 度入学定員減(△ 1人)
	(博士後期課程)	3	17	—	33	博士(農学)	0.57				
	名古屋大学・カセ サート大学国際連携 生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(農学)	0.50	平成30年度			
名古屋大学・西オー ストラリア大学国際 連携生命農学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士(農学)	1.00	平成31年度				

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
既設大学等の状況	国際開発研究科							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成30年度より学生募集停止		
	国際開発専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成3年度				
	(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—					
	国際協力専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学)	—	平成4年度				
	(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	—					
	国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度				
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—					
	国際開発協力専攻 (博士前期課程)	2	44	—	88	修士(国際開発学)	1.13	平成30年度				
	(博士後期課程)	3	22	—	44	修士(学術) 博士(国際開発学) 博士(学術)	0.61					
	多元数理科学研究科							平成7年度			愛知県名古屋市千種区不老町1	
	多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.06	平成7年度				
	(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.49					
国際言語文化研究科							平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止			
日本言語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度					
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—						
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度					
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—						

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
既設大学等の状況	環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	地球環境科学専攻 (博士前期課程) 平成29年度入学定員減(△1人) (博士後期課程) 平成29年度入学定員減(△1人) 社会環境学専攻 (博士前期課程) 平成29年度入学定員減(△9人) (博士後期課程) 平成29年度入学定員減(△5人)		
	地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	106	修士(環境学) 修士(理学)	0.87	平成13年度				
	(博士後期課程)	3	24	—	72	博士(環境学) 博士(理学)	0.57					
	都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.24	平成13年度				
	(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.37					
	社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	0.84	平成13年度				
	(博士後期課程)	3	13	—	39	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.48					
	情報科学研究科							平成15年度			愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
	計算機数理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度				
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—					
	情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度				
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—					
	メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度				
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—					
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度					
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—						
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度					
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—						

既設大学等の状況	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	2	32	—	64	修士(創薬科学)	1.13	平成24年度	愛知県名古屋千種区不老町1
		3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.66	平成24年度	
								平成26年度	
合計 博士前期課程 博士後期課程 博士課程 修士課程 専門職学位課程		1,634 566 161 30 50	0 0 — — —	3,268 1,702 644 50 150					

既設大学等の状況	名称	目的	所在地	設置年月	規模等 (延面積)
					7,397㎡
附属施設の概要	環境医学研究所	教育・研究	愛知県名古屋千種区不老町1	昭和21年3月	7,397㎡
	アイソトープ総合センター			昭和51年5月	2,130㎡
	遺伝子実験施設			昭和59年4月	1,953㎡
	国際教育交流センター・国際言語センター			平成23年4月	2,727㎡
	物質科学国際研究センター			平成10年4月	8,057㎡
	高等教育研究センター			平成10年4月	405㎡
	農学国際教育協力研究センター			平成11年4月	510㎡
	博物館			平成12年4月	2,812㎡
	心の発達支援研究実践センター			平成27年4月	38㎡
	法政国際教育協力研究センター			平成14年4月	2,149㎡
	生物機能開発利用研究センター			平成15年4月	2,619㎡
	未来材料・システム研究所			平成27年10月	11,276㎡
	シンクロトロン光研究センター			平成19年4月	502㎡
	基礎理論研究センター			平成22年4月	1,173㎡
	現象解析研究センター			平成22年4月	
	未来社会創造機構			平成26年4月	6,118㎡
	減災連携研究センター			平成24年1月	2,720㎡
	細胞生理学研究センター			平成24年4月	738㎡
ナショナルコンポジットセンター	平成26年1月	1,987㎡			
予防早期医療創成センター	平成27年7月	585㎡			



附属施設の概要	名 称	目 的	所在地	設置年月	規模等 (延面積)
	宇宙地球環境研究所	教育・研究	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成27年10月	10,634㎡
	トランスフォーマティブ生命分子研究所			平成25年4月	7,109㎡
	総合保健体育科学センター			昭和50年4月	1,993㎡
	脳とこころの研究センター		愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	平成25年12月	267㎡
	神経疾患・腫瘍分子医療研究センター			平成15年4月	634㎡
	医学教育研究支援センター			平成16年5月	6,033㎡
	学生相談総合センター	教育研究・管理運営支援	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成13年4月	670㎡
	情報基盤センター	研究, 教育等に 係る情報化を推 進するための実 践的調査研究及 び情報技術支援		平成21年4月	5,126㎡
	医学部附属病院	医学の研究, 教 育及び診療		愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	昭和24年5月

教育課程等の概要 (事前伺い)															
(新設 医学系研究科総合保健学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	全研究科共通科目	プロフェSSIONAL・リテラシー	1前	1			○								兼1
		リサーチ・スキルズA-1	1前	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズA-2	1後	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズB-1	1前	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズB-2	1後	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズB-3	1前	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズB-4	1後	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズC-1	1前	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズC-2	1後	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズC-3	1前	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズC-4	1後	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズC-5	1前	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズC-6	1後	2			○								兼1
		リサーチ・スキルズD-1	1前	2			○								兼1
専攻共通科目	生命倫理学	1前	2			○			2	1					オムニバス
	病態生理学概論	1後	2			○			12						オムニバス
	コンサルテーション論	1後	2			○			1	4		5			オムニバス 共同 (一部)
	保健医療データ活用法入門	1前	2			○			2	2					オムニバス
	保健医療技術概論	1前	2			○			7	6	1				オムニバス
	基礎医科学実習	1・2通	2					○	1						
小計 (20科目)			—	0	39	0	—		21	11	1	5	0	兼7	—
専門科目 I	コース共通科目	生命情報学特論	1前	2			○		1	2					オムニバス
		社会健康情報学特論	1前	2			○		1	2					オムニバス
		トータルヘルスプランナー特論	1後	2			○		7	4		2			オムニバス 共同 (一部)
		トータルヘルスプランナー実践論	2前	2			○		1	1		1			兼2 オムニバス・集中 共同 (一部)
		保健学セミナー	1・2通	2			○		2	1					共同
		アジアのヘルスケアシステム概論	1後	2			○					1			兼2 共同
	看護学コース	★看護教育論	1通	2			○		1	2	1				オムニバス
		★看護理論	1後	2			○		2	1					オムニバス
		★看護学研究方法論	1前	2			○		3	2	1				オムニバス
		★看護管理論	1前	2			○		1	1		1			兼1 オムニバス
		★フィジカルアセスメント	1前	2			○		1						兼1 オムニバス・集中 共同 (一部)
		★臨床薬理学	1前	2			○		1	1					兼1 オムニバス
		★看護システム・ケア開発学特論	1前	2			○		2	2		3			オムニバス
		★高度実践看護開発学特論	1前	2			○		2	2	1	3			オムニバス 共同 (一部)
★臨床がん看護学 I 特論		1前	2			○		1	1		1			共同	
★臨床がん看護学 II 特論		1前	2			○		1	1		1			共同	
医療技術学コース	★がん看護病態生理学	1前	2			○		1	1		1			兼1 オムニバス 共同 (一部)	
	★次世代育成看護学特論 I	1前	2			○		3	2		3			オムニバス	
	★次世代育成看護学特論 II	1後	2			○		1							
	母子援助論	2後	1			○		1	2		2			兼1 オムニバス	
	ウィメンズヘルス論	2後	1			○				1					
	国際母子保健 I	2前	1			○		1						兼1 オムニバス・集中	
	国際母子保健 II	2前	1			○		1						兼1 オムニバス・集中	
	★地域包括ケア開発看護学特論 I	1前	2			○		1			1			オムニバス 共同 (一部)	
★地域包括ケア開発看護学特論 II	1前	2			○		1	2							
医療技術学コース	●医用画像工学特論	1前・2前	2			○		1	2		1			オムニバス・隔年	
	●医用画像解析学特論	1前・2前	2			○		2		2				オムニバス・隔年	
	●医用量子科学特論	1前・2前	2			○		1	2		1			オムニバス・隔年	
	●医用機能画像評価学特論	1前・2前	2			○		2	1					オムニバス・隔年	
	医学物理学特論	1後	2			○			3		1			オムニバス	
	放射線腫瘍学特論	1通	2			○								兼5 オムニバス	
	●生体防御情報科学特論	2前	2			○		2	2	1				オムニバス	
	●病態情報科学特論	1後	2			○		2	1		2			オムニバス	
	●細胞遺伝子情報科学特論	2後	2			○		2	1		1			オムニバス	
	●生体分子情報科学特論	1前	2			○		1	2	1				オムニバス	

専 門 科 目 I	リハビリテーション療法学コース	■ リハビリテーション療法学特論Ⅰ	1前	2	○		4	1		3			オムニバス 共同（一部）	
		■ リハビリテーション療法学特論Ⅱ	1前	2	○		4	1	1	2			オムニバス 共同	
		■ リハビリテーション研究実践セミナー	1後	2		○	8	2	1	5			オムニバス 共同・集中	
		小計（39科目）	—	0	74	0	—	30	21	6	20	0	兼16	—
専 門 科 目 II	コース共通科目	生命情報学実習	1・2通	2		○		1						
		社会健康情報学実習	1・2通	2		○	1	1						
	看護学コース	看護システム・ケア開発学セミナー	1後	2		○	2	2		3			共同	
		看護システム・ケア開発学実習	1・2通	2		○	2	2		3			共同	
		高度実践看護開発学セミナー	1後	2		○	2	2	1	2			共同（一部）	
		高度実践看護開発学実習	1・2通	2		○	2	2	1	2			共同（一部）	
		臨床がん看護学セミナーⅠ	1後	2		○	1	1		1			共同	
		臨床がん看護学セミナーⅡ	1後	2		○	1	1		1			共同	
		臨床がん看護学セミナーⅢ	1後	4		○	1	1		1			兼4 オムニバス 共同（一部）	
		臨床がん看護学課題実習Ⅰ	1通	2		○	1	1		1			共同	
		臨床がん看護学課題実習Ⅱ	2通	3		○	1	1		1			共同	
		臨床がん看護学課題実習Ⅲ	2通	4		○	1	1		1			兼1 共同	
		臨床がん看護学課題実習Ⅳ	2通	1		○	1	1		1			共同	
		次世代育成看護学セミナー	1後	2		○	3	2					オムニバス	
	次世代育成看護学実習	1・2通	2		○	3	2							
	地域包括ケア開発看護学セミナー	1後	2		○	2	2		2			共同（一部）		
	地域包括ケア開発看護学実習	1・2通	2		○	2	2		1			共同（一部）		
医療技術学コース	医用量子科学実習Ⅰ	1・2通	2		○	3	2	2						
	医用量子科学実習Ⅱ	1・2通	2		○	3	3							
	基礎医学物理学実習	1通	2		○		3		1			オムニバス		
	臨床医学物理学実習	1通	2		○		3		1			オムニバス		
	オミックス医療科学実習Ⅰ	1・2通	2		○	4	2							
	オミックス医療科学実習Ⅱ	1・2通	2		○	2	2							
リハビリテーション療法学コース	リハビリテーション療法学セミナーⅠ	1通	4		○	8	2	1						
	リハビリテーション療法学セミナーⅡ	2前	2		○	8	2	1						
	小計（25科目）		0	56	0	—	30	21	4	8	0	兼7	—	
	特別研究	1・2通	10			○	29	21	4					
	小計（1科目）		10	0	0	—	29	21	4	0	0	0	—	
合計（85科目）				10	169	0	—	30	21	6	22	0	兼29	—
学位又は称号		修士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）						
		修士（医療技術学）						保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）						
		修士（リハビリテーション療法学）						保健衛生学関係（リハビリテーション関係）						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士前期課程に原則として2年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。  <b>【履修方法】</b> （看護学コース） 基盤科目から4単位以上、専門科目Ⅰ・Ⅱから12単位以上、特別研究10単位、合計30単位以上。 ただし、専門科目Ⅰにおいては、★6単位以上を含み、コース共通科目及び★から8単位以上、修得しなければならない。  （医療技術学コース） 基盤科目から4単位以上、専門科目Ⅰ・Ⅱから10単位以上、特別研究10単位、合計30単位以上。 ただし、専門科目Ⅰにおいては、●6単位以上を含み、コース共通科目及び●から8単位以上、修得しなければならない。  （リハビリテーション療法学コース） 基盤科目から4単位以上、専門科目Ⅰ・Ⅱから14単位以上、特別研究10単位、合計30単位以上。 ただし、専門科目Ⅰにおいては、■4単位以上を含み、コース共通科目及び■から8単位以上、修得しなければならない。								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要(事前伺い)															
(新設 医学系研究科総合保健学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科目盤	基盤医学実習	1・2通		2					1						
	小計(1科目)	—	0	2	0				1	0	0	0	0	—	
専門科目	コース共通科目	先端生命情報学特講	1前		2		○		1	2				オムニバス	
		先端生命情報学特講演習	1後		2			○	1	2				オムニバス	
		先端社会健康情報学特講	1前		2			○		1	2			オムニバス	
		先端社会健康情報学特講演習	1後		2				○	1	2			オムニバス	
		保健医療データ活用特講	1前		2			○		2	2			オムニバス	
	看護学コース	★看護システム・ケア開発学特講	1前		2		○		2	2				オムニバス	
		看護システム・ケア開発学特講演習	1後		2			○	2	2		2		共同	
		★高度実践看護開発学特講	1前		2			○	2	2	1	1		共同(一部)	
		高度実践看護開発学特講演習	1後		2				○	2	2	1	1	共同(一部)	
		★次世代育成看護学特講	1前		2			○		3	2			オムニバス	
		次世代育成看護学特講演習	1後		2				○	3	2			共同	
	医療技術学コース	●医用画像工学特講	1前		2		○		1	2					
		医用画像工学特講演習	1後		2			○	1	2					
		●医用画像解析学特講	1前		2			○	2		2				
		医用画像解析学特講演習	1後		2				○	2		2			
		●医用量子科学特講	1前		2			○	1	2					
		医用量子科学特講演習	1後		2				○	1	2				
		●医用機能画像評価学特講	1前		2			○	2	1					
		医用機能画像評価学特講演習	1後		2				○	2	1				
		●生体防御情報科学特講	1前		2			○	2	1				オムニバス	
		生体防御情報科学特講演習	1後		2				○	2	1			オムニバス	
		●病態情報科学特講	1前		2			○	2	1				オムニバス	
		病態情報科学特講演習	1後		2				○	2	1			オムニバス	
		●細胞遺伝子情報科学特講	1前		2			○	3	1				オムニバス	
		細胞遺伝子情報科学特講演習	1後		2				○	3	1			オムニバス	
	リハビリ	リハビリテーション療法学特講Ⅰ	1前		2			○	4	1					
		リハビリテーション療法学特講Ⅱ	1前		2			○	4	1	1				
		■リハビリテーション研究実践特講セミナー	1後・2前		2			○	8	2	1	5		共同・集中	
	小計(32科目)		—	0	64	0				30	21	4	8	0	—
	特別研究			4				○		29	21	4			
	小計(1科目)		—	4	0	0				29	21	4	0	0	—
	合計(34科目)		—	4	66	0				30	21	4	8	0	—
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野					保健衛生学関係(看護学関係)							
	博士(医療技術学)							保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)							
	博士(リハビリテーション療法学)							保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。  <b>【履修方法】</b>  (看護学コース) 基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。 ただし、専門科目の授業科目(★印)から2単位以上、修得しなければならない。  (医療技術学コース) 基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。 ただし、専門科目の授業科目(●印)から2単位以上、修得しなければならない。  (リハビリテーション療法学コース) 基盤科目および専門科目から4単位以上、特別研究4単位、合計8単位以上。 ただし、専門科目の授業科目(■印)から2単位以上、修得しなければならない。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 医学系研究科看護学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	生命倫理学	1前		2		○			2	1					兼1	オムニバス
	医療管理概論	1後		2		○									兼10	オムニバス
	病態生理学概論	1前		2		○			2						兼10	オムニバス
	医療技術概論	1後		2		○									兼11	オムニバス
	コンサルテーション論	1後		2		○			1	4		4			兼1	オムニバス
	基礎医科学実習Ⅰ	1～2		1				○							兼1	集中
	基礎医科学実習Ⅱ	1～2		2				○							兼1	集中
	保健医療システム概論	1前		2		○									兼5	オムニバス
	保健医療研究法概論	1前		2		○			3						兼2	オムニバス
	トータルヘルスプランナー特論	1後		2		○				4					兼9	オムニバス
	トータルヘルスプランナー実践論	2前		2		○			1	1					兼4	集中 オムニバス
	保健学セミナー	1・2通		2		○			2	1						共同
	アジアのヘルスケアシステム概論	1後		2		○						1			兼2	共同
	ヘルスケア管理論	1後2前		2		○									兼1	
	小計(14科目)	—	0	27	0	—	—	—	6	5	0	5	0	兼44		
専門科目	看護教育論	1通		2		○			1	2	1					オムニバス
	看護理論	1後		2		○			2	2						オムニバス
	看護学研究方法論	1前		2		○			3	2	1					オムニバス
	看護管理論	1前		2		○			1	1		1			兼1	オムニバス
	フィジカルアセスメント	1前		2		○			1						兼1	集中 オムニバス
	臨床薬理学	1前		2		○			1	1					兼1	オムニバス
	基礎看護学Ⅰ特論	1前		2		○				1						
	基礎看護学Ⅱ特論	1後		2		○			1							
	基礎看護学Ⅲ特論	1後		2		○			1							
	基礎看護学Ⅳ特論	1前		2		○			1							
	基礎看護学Ⅴ特論	1後		2		○				1						
	基礎看護学Ⅵ特論	1後		2		○			1							
	基礎看護学セミナー	1後		2			○		2	2						
	基礎看護学課題実習	1通		2				○	2	2						
	基礎看護学特別研究	1・2通		10			○		2	2						
	臨床看護学Ⅰ特論	1前		2		○			1			1			兼1	オムニバス
	臨床看護学Ⅱ特論	1前		2		○			1	1						オムニバス
	臨床がん看護学Ⅰ特論	1前		2		○			1	1						共同
	臨床がん看護学Ⅱ特論	1前		2		○			1	1						共同
	がん看護病態生理学	1前		2		○			1	1					兼1	オムニバス 共同(一部)
	臨床看護学セミナー	1後		2			○		2	1		1			兼1	共同(一部)
	臨床がん看護学セミナーⅠ	1後		2			○		1	1						共同
	臨床がん看護学セミナーⅡ	1後		2			○		1	1					兼1	オムニバス 共同(一部)
	臨床がん看護学セミナーⅢ	1後		4			○		1						兼4	オムニバス 共同(一部)
	臨床看護学課題実習	1～2		2				○	2	1		1				共同(一部)
	臨床がん看護学課題実習Ⅰ	1		2				○	1	1					兼1	共同
	臨床がん看護学課題実習Ⅱ	2		3				○	1	1						共同
	臨床がん看護学課題実習Ⅲ	2		4				○	1	1					兼1	共同
	臨床がん看護学課題実習Ⅳ	2		1				○	1	1						共同
	老年看護学特論	1前		2		○				1						
	老年看護学セミナー	1後		2			○			1						
	老年看護学課題実習	1～2		2				○		1						
精神看護学特論	1後		2		○				1							
精神看護学セミナー	1後		2			○			1							
精神看護学課題実習	1～2		2				○		1							
臨床看護学特別研究	1・2通		10			○		2	3		1					
発達看護学Ⅰ特論	1前		2		○			1								
発達看護学Ⅱ特論	1前		2		○				1							
発達看護学Ⅲ特論	1前		2		○				1							
発達看護学Ⅳ特論	1前		2		○			1								
発達看護学Ⅴ特論	1前		2		○				1							
発達看護学Ⅵ特論	1前		2		○			1								

専門科目	小児看護学Ⅰ特論	1前	2		○		1										
	小児看護学Ⅱ特論	1後	2		○		1										
	小児看護学Ⅲ特論	1前	2		○			1									
	小児看護学Ⅳ特論	1後	2		○			1									
	発達看護学セミナー	1通	2			○	3	2									兼1
	小児看護学セミナーⅠ	1通	2			○	1										
	小児看護学セミナーⅡ	1通	2			○		1									
	発達看護学課題実習	1・2通	2				3	2									
	小児看護学課題実習Ⅰ	1後・2前	2				1										
	小児看護学課題実習Ⅱ	2通	4				1										
	地域看護学特論	1前	2		○		1	1									
	在宅看護学特論	1前	2		○		1	1									
	公衆衛生学特論	1前	2		○			1									
	地域看護学セミナー	1後	2			○	1	1									
	在宅看護学セミナー	1後	2			○	1	1									
	地域看護学課題実習	1～2	2				1	1									
	在宅看護学課題実習	1～2	2				1	1									
	発達看護学特別研究	1・2通	10			○	3	2									
	地域・在宅看護学特別研究	1・2通	10			○	2	2									
	小計 (61科目)		—	0	160	0	—	9	9	1	1	0	兼10	—			
合計 (75科目)		—	0	187	0	—	9	9	1	5	0	兼54	—				
学位又は称号		修士 (看護学)		学位又は学科の分野		保健衛生学関係 (看護学関係)											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
博士前期課程に原則として2年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。						1 学年の学期区分			2 期								
						1 学期の授業期間			1 5 週								
						1 時限の授業時間			9 0 分								
【履修方法】																	
①共通科目：6単位以上																	
②専門科目：指導教員が指定する特論単位、セミナー2単位、課題実習2単位及び特別研究10単位を修得しなければならない 上記の外に専門科目から8単位以上修得しなければならない 但し、6単位までは他の専攻、他の研究科の専門単位をもって充当することができる																	
※ がん看護CNSコースは、指定する科目の中から38単位の修得を必要とする																	
※ 小児看護CNSコースは、指定する科目の中から26単位の修得を必要とする																	
※ THP学内認定希望者は、指定する10単位の修得を必要とする																	

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 医学系研究科看護学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	基盤医科学実習	1・2通		2				○							兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0			—	0	0	0	0	0	兼1	—	
専門科目	臨床アセスメント看護学特講	1前		2		○			4	3				兼1	オムニバス	
	臨床アセスメント看護学特講演習	1後		2			○		4	3						
	ホリスティックがん看護学特講	1前		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
	ホリスティックがん看護学特講演習	1後		2			○		1	1					オムニバス	
	基礎・臨床看護学特別研究	1・2通		4			○		4	5	1					
	小児家族発達看護学特講	1前		2		○			3	2					オムニバス	
	小児家族発達看護学特講演習	1後		2			○		3	2					オムニバス	
	地域健康看護学特講	1前		2		○			2	2					オムニバス	
	地域健康看護学特講演習	1後		2			○		2	2					オムニバス	
	健康発達看護学特別研究	1・2通		4			○		5	4						
小計(10科目)	—	0	24	0			—	9	9	1	0	0	兼2	—		
合計(11科目)	—	0	26	0			—	9	9	1	0	0	兼3	—		
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 【履修方法】 指導教員が指定する特講1科目2単位、特講演習1科目2単位、特別研究1科目4単位を含む8単位以上を修得しなければならない ※ THP学内認定希望者は、指定する10単位の修得を必要とする						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							



## 教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 医学系研究科医療技術学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	生命倫理学	1前		2		○									兼4	オムニバス
	医療管理概論	1後		2		○			1	2					兼7	オムニバス
	病態生理学概論	1前		2		○			7						兼5	オムニバス
	医療技術概論	1後		2		○			6	4					兼1	オムニバス
	コンサルテーション論	1後		2		○									兼10	オムニバス
	基礎医科学実習Ⅰ	1・2通		1				○							兼1	集中
	基礎医科学実習Ⅱ	1・2通		2				○							兼1	集中
	保健医療システム概論	1前		2		○									兼5	オムニバス
	保健医療研究法概論	1前		2		○			1						兼4	オムニバス
	トータルヘルスプランナー特論	1後		2		○			2						兼11	オムニバス
	トータルヘルスプランナー実践論	2前		2		○									兼6	集中 オムニバス
	保健学セミナー	1・2通		2		○									兼3	共同
	アジアのヘルスケアシステム概論	1後		2		○									兼3	共同
	ヘルスケア管理論	1後2前		2		○									兼1	
小計(14科目)		—	0	27	0	—			13	6	0	0	0	兼41	—	
専門科目	放射線システム工学特論	1前		2		○			1	1						オムニバス
	臨床画像診断学特論	2前		2		○			2							オムニバス
	医用画像情報学特論	1前		2		○			1	1						オムニバス
	放射線生体物理学特論	2前		2		○				2						オムニバス
	放射化学・管理学特論	1前		2		○			1	1	2					オムニバス
	機能画像認知解析学特論	2前		2		○			2							オムニバス
	医用量子科学実習Ⅰ	1・2通		2				○	3	3	2					
	医用量子科学実習Ⅱ	1・2通		2				○	4	2						
	医用量子科学特別研究Ⅰ	1・2通		10			○		7	5	2				兼1	
	病因病態解析学特論	2前		2		○			1	1					兼7	オムニバス
	病態化学解析学特論	1後		2		○			1	1						オムニバス
	環境病因解析学特論	2後		2		○			2							オムニバス
	生体生理解析学特論	1前		2		○			1	1						オムニバス
	分子病態解析学特論	2前		2		○			1							オムニバス
	形態情報解析学特論	1前		2		○			1	1		1				オムニバス
	病態解析学実習Ⅰ	1・2通		2				○	4	2	1					
病態解析学実習Ⅱ	1・2通		2				○	3	2		2					
病態解析学特別研究Ⅰ	1・2通		10			○		7	4							
小計(18科目)		—	0	52	0	—			14	9	3	2	0	兼8	—	
合計(32科目)		—	0	79	0	—			14	9	3	2	0	兼48	—	
学位又は称号		修士(医療技術学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
博士前期課程に原則として2年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						
【履修方法】																
①共通科目:6単位以上																
②専門科目:指導教員が指定する特論2単位、実習2単位及び特別研究10単位を修得しなければならない その他、医用量子、病態解析ともに6単位を専門科目から修得しなければならない 上記の外に、共通科目あるいは専門科目から4単位以上修得しなければならない なお、この単位は他の専攻、他の研究科の専門単位をもって充当することができる																
※ 医学部物理士コースは、指定する10単位の修得を必要とする。																

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 医学系研究科医療技術学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	基盤医科学実習	1・2通		2				○							兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0			—	0	0	0	0	0	0	兼1	—
専門科目	基礎放射線科学特講	1前		2		○			1	1	2					オムニバス
	基礎放射線科学特講演習	1後		2			○		1	1	1					オムニバス
	放射線理工学特講	1前		2		○			1	1						オムニバス
	放射線理工学特講演習	1後		2			○		1	1						オムニバス
	医用画像情報学特講	1前		2		○			1	1						オムニバス
	医用画像情報学特講演習	1後		2			○		1	1						オムニバス
	医用物理学特講	1前		2		○				1						
	医用物理学特講演習	1後		2			○			1						
	画像診断技術学特講	1前		2		○			3							オムニバス
	画像診断技術学特講演習	1後		2			○		3							オムニバス
	核医学検査技術学特講	1前		2		○			1							
	核医学検査技術学特講演習	1後		2			○		1							
	放射線治療技術学特講	1前		2		○				1						
	放射線治療技術学特講演習	1後		2			○			1						
	医用量子科学特別研究Ⅱ	1・2通		4			○		7	5	2					
	病因病態解析学特講	1前		2		○			1	1						オムニバス
	病因病態解析学特講演習	1後		2			○		1	1						オムニバス
	病態化学解析学特講	1前		2		○			1	1						オムニバス
	病態化学解析学特講演習	1後		2			○		1	1						オムニバス
	環境病因解析学特講	1前		2		○			2							オムニバス
	環境病因解析学特講演習	1後		2			○		2							オムニバス
	生体生理解析学特講	1前		2		○			1	1						オムニバス
	生体生理解析学特講演習	1後		2			○		1	1						オムニバス
	分子病態解析学特講	1前		2		○			1							
	分子病態解析学特講演習	1後		2			○		1							
	形態情報解析学特講	1前		2		○			1	1						オムニバス
	形態情報解析学特講演習	1後		2			○		1	1						オムニバス
	病態解析学特別研究Ⅱ	1・2通		4			○		7	4						
小計(28科目)	—	—	0	60	0			—	14	9	2	0	0	0	—	
合計(29科目)	—	—	0	62	0			—	14	9	2	0	0	0	兼1	—
学位又は称号	博士(医療技術学)		学位又は学科の分野			健康衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
博士課程後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 <b>【履修方法】</b> 指導教員が指定する特講1科目2単位、特講演習1科目2単位、特別研究1科目4単位を含む8単位以上を修得しなければならない ※ THP学内認定希望者は、指定する10単位の修得を必要とする						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	生命倫理学	1前		2		○									兼4	オムニバス
	医療管理概論	1後		2		○			2	1	1				兼6	オムニバス
	病態生理学概論	1前		2		○			3						兼9	オムニバス
	医療技術概論	1後		2		○									兼11	オムニバス
	コンサルテーション論	1後		2		○						1			兼9	オムニバス
	基礎医科学実習Ⅰ	1・2通		1				○	1							集中
	基礎医科学実習Ⅱ	1・2通		2				○	1							集中
	保健医療システム概論	1前		2		○			2	2					兼1	オムニバス
	保健医療研究法概論	1前		2		○									兼5	オムニバス
	トータルヘルスプランナー特論	1後		2		○			5			2			兼6	オムニバス
	トータルヘルスプランナー実践論	2前		2		○						1			兼5	集中 オムニバス
	保健学セミナー	1・2通		2		○									兼3	共同
	アジアのヘルスケアシステム概論	1後		2		○									兼3	共同
	ヘルスケア管理論	1後2前		2		○									兼1	
小計(14科目)		—	0	27	0	—	—	—	7	3	1	2	0	兼47	—	
専門科目	リハビリテーション療法学特論Ⅰ-1	1前		1		○			1						兼4	オムニバス
	リハビリテーション療法学特論Ⅰ-2	1前		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅰ-3	1前		1		○					1					
	リハビリテーション療法学特論Ⅰ-4	1後		1		○				1						
	リハビリテーション療法学特論Ⅰ-5	1後		1		○				1						
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ-1	1前		1		○				1						
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ-2	1前		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ-3	1前		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ-4	1後		1		○					1					
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ-5	1後		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅲ-1	1前		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅲ-2	1前		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅲ-3	1前		1		○				1						
	リハビリテーション療法学特論Ⅲ-4	1後		1		○			1							
	リハビリテーション療法学特論Ⅲ-5	1後		1		○				1						
	リハビリテーション研究実践セミナー	1後		2				○	8	3	1	5				共同
	リハビリテーション臨床実践実習Ⅰ	2通		2				○	3						兼4	
	リハビリテーション臨床実践実習Ⅱ	2通		2				○	3							
	理学療法学セミナーⅠ	1通		2				○	4	2						
	理学療法学セミナーⅡ	2通		2				○	4	2						
	理学療法学特別研究	1・2通		10				○	4	2						
	作業療法学セミナーⅠ	1通		2				○	4	1	1					
	作業療法学セミナーⅡ	2通		2				○	4	1	1					
	作業療法学特別研究	1・2通		10				○	4	1	1					
小計(24科目)		—	0	49	0	—	—	—	8	3	1	5	0	兼8	—	
合計(38科目)		—	0	76	0	—	—	—	8	3	1	5	0	兼55	—	
学位又は称号		修士(リハビリテーション療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
博士前期課程に原則として2年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						
【履修方法】																
①共通科目:6単位以上																
②専門科目:指導教員が指定する特論4単位、セミナー4単位、リハビリテーション研究実践セミナー2単位及び特別研究10単位を修得																
しなければならない																
上記の外に、共通科目あるいは専門科目から4単位以上修得しなければならない																
なお、この4単位は他の専攻、他の研究科の専門単位をもって充当することができる																
※ THP学内認定希望者は、指定する10単位の修得を必要とする																

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	基盤医科学実習	1・2通		2				○	1						
	小計(1科目)	—	0	2	0			—	1	0	0	0	0		—
専門科目	骨・関節機能障害学特講	1前		2			○		1						
	骨・関節機能障害学特講演習	1後		2			○		1						
	循環器機能障害療法学特講	1前		2			○		1						
	循環器機能障害療法学特講演習	1後		2			○		1						
	細胞組織形態学特講	1前		2			○		1						
	細胞組織形態学特講演習	1後		2			○		1						
	知能健康科学特講	1前		2			○			1					
	知能健康科学特講演習	1後		2			○			1					
	症候障害学特講	1前		2			○		1						
	症候障害学特講演習	1後		2			○		1						
	神経運動機能分子科学特講	1前		2			○			1					
	神経運動機能分子科学特講演習	1後		2			○			1					
	リハビリテーション神経科学特講	1前		2			○			1					
	リハビリテーション神経科学特講演習	1後		2			○			1					
	生活支援技術学特講	1前		2			○		1						
	生活支援技術学特講演習	1後		2			○		1						
	高次脳機能障害学特講	1前		2			○		1						
	高次脳機能障害学特講演習	1後		2			○		1						
	精神障害病態解析学特講	1前		2			○		1						
	精神障害病態解析学特講演習	1後		2			○		1						
	精神障害作業療法特講	1前		2			○				1				
	精神障害作業療法特講演習	1後		2			○				1				
	精神認知機能作業療法特講	1前		2			○			1					
	精神認知機能作業療法特講演習	1後		2			○			1					
	発達過程作業療法学特講	1前		2			○		1						
	発達過程作業療法学特講演習	1後		2			○		1						
	作業行動調整学特講	1前		2			○			1					
	作業行動調整学特講演習	1後		2			○			1					
	生活機能発展学特講	1前		2			○				1				
	生活機能発展学特講演習	1後		2			○				1				
	リハビリテーション療法学特別研究	1・2通		4				○		8	3	1			
小計(31科目)	—		0	64	0		—		8	3	1	0	0		—
合計(32科目)	—		0	66	0		—		8	3	1	0	0	0	—
学位又は称号	博士(リハビリテーション療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
博士後期課程に原則として3年以上在籍し、以下に示す履修方法に従って8単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。 <b>【履修方法】</b> 指導教員が指定する特講1科目2単位、特講演習1科目2単位、特別研究1科目4単位を含む8単位以上を修得しなければならない ※ THP学内認定希望者は、指定する10単位の修得を必要とする								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(既設 医学部保健学科看護学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目	基礎セミナー	1前	2					○							
	小計 (1科目)		2	0	0			—		2	4	0	0	0	0
	言語文化														
	英語 (基礎)	1前		1				○							兼21
	英語 (中級)	1後		1				○							兼11
	英語 (コミュニケーション)	2前		2				○							兼19
	ドイツ語 1	1前		1.5				○							兼14
	ドイツ語 2	1前		1.5				○							兼14
	ドイツ語 3	1後		1.5				○							兼14
	ドイツ語 4	1後		1.5				○							兼13
	フランス語 1	1前		1.5				○							兼5
	フランス語 2	1前		1.5				○							兼5
	フランス語 3	1後		1.5				○							兼5
	フランス語 4	1後		1.5				○							兼4
	ロシア語 1	1前		1.5				○							兼2
	ロシア語 2	1前		1.5				○							兼2
	ロシア語 3	1後		1.5				○							兼2
	ロシア語 4	1後		1.5				○							兼1
	中国語 1	1前		1.5				○							兼10
	中国語 2	1前		1.5				○							兼10
	中国語 3	1後		1.5				○							兼10
	中国語 4	1後		1.5				○							兼9
	スペイン語 1	1前		1.5				○							兼3
	スペイン語 2	1前		1.5				○							兼3
	スペイン語 3	1後		1.5				○							兼3
	スペイン語 4	1後		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語 1	1前		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語 2	1前		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語 3	1後		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語 4	1後		1.5				○							兼1
	日本語 (口頭表現) 1	1前		1.5				○							兼2
日本語 (口頭表現) 2	1前		1.5				○							兼1	
日本語 (文章表現) 1	1後		1.5				○							兼2	
日本語 (文章表現) 2	1後		1.5				○							兼1	
小計 (31科目)			0	46	0			—		0	0	0	0	0	兼195
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前		2			○								兼8
	健康・スポーツ科学実習 I	1前		1					○						兼8
	健康・スポーツ科学実習 II	1後		1					○						兼7
	小計 (3科目)		0	4	0			—		0	0	0	0	0	兼23

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文系基礎科目	哲学	1前		2		○									兼1
	歴史学	1後		2		○									兼2
	文学	1後		2		○									兼1
	地理学	1前		2		○									兼1
	心理学Ⅰ	1前		2		○									兼1
	心理学Ⅱ	1前		2		○									兼1
	日本国憲法	1後		2		○									兼2
	法学	1前		2		○									兼1
	経済学A	1前		2		○									兼1
	経済学B	1後		2		○									兼1
	国際関係論	1後		2		○									兼1
	国際開発学	1前		2		○									兼1
	比較文化論	1後		2		○									兼1
	統計学	1後		2		○									兼1
	小計 (14科目)			0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼16
理系基礎科目	数学通論Ⅰ	1前		2		○									兼4
	数学通論Ⅱ	1後		2		○									兼4
	物理学基礎Ⅰ	1前		2		○									兼3
	物理学基礎Ⅱ	1後		2		○									兼1
	化学基礎Ⅰ	1前		2		○									兼3
	化学基礎Ⅱ	1後		2		○									兼1
	生物学基礎Ⅰ	1前		2		○									兼2
	生物学基礎Ⅱ	1後		2		○									兼2
	生物学実験	1後		1.5				○							兼1
小計 (9科目)			0	17.5	0	—			0	0	0	0	0	兼21	
文系教養科目	生と死の人間学	2後		2		○									兼1
	科学・技術の哲学	2後		2		○									兼1
	ことばの不思議	2前		2		○									兼1
	文化を読む	1後		2		○									兼1
	表象と文化	2前		2		○									兼1
	芸術と人間	2前・後		2		○									兼2
	人間と行動	1後		2		○									兼1
	現代社会と教育	2前・後		2		○									兼2
	教育と発達の心理	1後		2		○									兼1
	現代社会と法	2前・後		2		○									兼2
	民主主義の歴史と現在	1後		2		○									兼1
	市場経済と社会	2前		2		○									兼1
	産業社会と企業	1後		2		○									兼1
	開発の光と影	1後		2		○									兼1
	社会と環境	2前		2		○									兼1
	グローバル化時代の国際社会	2後		2		○									兼1
	グローバル化と国際教育交流	1後		2		○									兼1
小計 (17科目)			0	34	0	—			0	0	0	0	0	兼20	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
理系教養科目	図情報とコンピュータ	2後		2		○									兼1
	情報メディアとコミュニケーション	2後		2		○									兼1
	システム工学入門	1後		2		○									兼1
	情報リテラシー（理系）	1前・後		2		○									兼4
	情報科学入門	1前		2		○									兼1
	物理現象の科学	1前		2		○									兼1
	原子・分子の科学	2後		2		○									兼1
	物質世界の認識	1後		2		○									兼1
	物質と科学	1後		2		○									兼2
	現代の生命科学	2後		2		○									兼1
	現代医療と生命科学	1前		2		○									兼1
	生涯健康と医学	2後		2		○									兼1
	遺伝子の世界	1後		2		○									兼1
	食と農の科学	1前		2		○									兼1
	動植物の科学	1後		2		○									兼2
	地球惑星の科学	1前		2		○									兼1
	自然環境と人間	1後		2		○									兼1
	自然環境と人間社会	1前		2		○									兼1
	環境問題と人間	1後		2		○									兼1
	都市と環境	1後		2		○									兼1
	大気水圏環境の科学	1前		2		○									兼1
	宇宙科学	1前		2		○									兼1
	博物館概論	1前		2		○									兼1
小計（23科目）			0	46	0	—			0	0	0	0	0	兼28	
全学教養科目	現代芸術論	2前・後		2		○									兼2
	芸術と人間精神	2前・後		2		○									兼2
	表象芸術論	2前・後		2		○									兼2
	音楽芸術論	2前・後		2		○									兼2
	科学・技術の倫理	2前		2		○									兼1
	科学技術史	2後		2		○									兼1
	科学技術社会論	2前・後		2		○									兼2
	科学技術とジェンダー	2後		2		○									兼1
	宗教と人類文化	2前・後		2		○									兼2
	異文化論	2後		2		○									兼1
	留学生と日本	2後		2		○									兼2
	名大の歴史をたどる	1前		2		○									兼1
	キャリア形成論	2前・後		2		○									兼2
	大学でどう学ぶか	1前		2		○									兼2
	学問の面白さを知る	1前		2		○									兼1
	切迫する自然災害に備える	2前		2		○									兼1
	アーカイブズ学入門－文書史料の世界をあるく－	2後		2		○									兼1
	ジェンダーの視点から考える21世紀の日本社会	2前		2		○									兼1
ピア・カウンセリング	2前		2		○									兼1	
小計（19科目）			0	38	0	—			0	0	0	0	0	兼28	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	人体構造機能学ⅠA	1前	1			○									兼1
	人体構造機能学ⅡA	1前	1			○			1						
	人体構造機能学ⅢA	1後	1			○			1						
	人体構造機能学ⅣA(生化学)	1前	1			○									兼1
	生活環境論B	2前		1		○				1					
	公衆衛生学	2前	2			○									兼1
	臨床心理学	2後	1			○				1					兼2
	バイオエシックス論	2前	1			○			2	1					
	社会福祉学B	1前	2			○			1	3					兼4
	放射線医学	2後	1			○			1						兼4
	病態生理学Ⅰ(治療論を含む)	1後	1			○			1						
	病態生理学Ⅱ(治療論を含む)	2前	1			○			1						
	病態生理学Ⅲ(治療論を含む)	2前	1			○			2						
	病態生理学Ⅳ(栄養治療論を含む)	1後	1			○									兼1
	病原微生物学B	1前	1			○									兼1
	保健薬理学	2後	1			○			2	1					兼1
情報科学及び演習	2前		1		○									兼1	
保健看護行政論(保健統計を含む)	3前	2			○				1					※演習	
原書講読	3前	1			○			9	9	1	12				
国際医療協力論	4後		1		○			1						兼2	
小計(20科目)	—	—	20	3	0	—	—	—	9	9	1	12	0	兼19	
専門科目	看護学概論	1前	1			○			1			2			
	看護総論	4後	1			○			1						
	看護援助論	1後	1			○				2		3			※演習
	看護基礎技術論	2前	1			○				2		3			※演習
	看護基礎技術論演習	2前	2			○		○		2		3			
	コミュニケーション技術論及び演習	1後	1			○			1						※演習
	フィジカルアセスメント演習	2後	1			○		○		2		3			
	看護過程論	2後	1			○			1						
	看護過程演習	3前	1			○		○	1			3			
	成人看護学総論	2前	2			○			2	1	1	1			
	慢性期成人看護学Ⅰ	2後	1			○			1	1					
	慢性期成人看護学Ⅱ	2後	1			○			1	1		1			兼1
	成人・老年看護学演習	3前	1			○		○	2	2	1	2			兼1
	急性期成人看護学Ⅰ	2後	1			○			1		1				
	急性期成人看護学Ⅱ	3前	2			○					1				
	老年看護学概論	2前	1			○				1					
	臨床老年看護学	2後	2			○				1		1			兼1
	精神看護学Ⅰ	3前	2			○				1		1			
	精神看護学Ⅱ	3前	2			○				1		1			兼1
	母性看護学	2後	2			○			1	2					
	母性看護学演習	2後	1			○		○	1	2		2			
	小児看護学	2後	2			○			1						
	小児看護学演習	3前	1			○		○	1						兼1
	家族看護学	3前	2			○			1	2	1				
	地域在宅看護学	2後	2			○				1		1			
	在宅老年看護学	3前	1			○				1		1			
	公衆衛生看護学	2後	2			○			1	1					兼4
公衆衛生看護活動論Ⅰ	3前		2		○			1							
公衆衛生看護活動論Ⅱ	3前		2		○			1						兼1	
看護基礎実践	1前	1			○			2	2		3				
基礎看護学実習	2後	2					○	1	2		3				
看護過程展開実習	3後	2					○	1			12				
慢性期看護学実習	3後～4前	3					○	1	1		1				
急性期看護学実習	3後～4前	3					○	1		1					
精神看護学実習	3後～4前	2					○		1		1				



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	老年看護学実習	3後～4前	1					○		1			1		
	母性看護学実習	3後～4前	2					○		1	2		2		
	小児看護学実習	3後～4前	2					○		1					
	地域在宅看護学実習	3後～4前	2					○					1		
	公衆衛生看護学実習	3後～4前		4				○		1	1				
	地域看護基礎実習	3後～4前	1					○			1				
	看護統合実習	4前・後	2					○		9	9	1	12		
	看護研究序論	3前	1			○				9	9	1	12		
	看護研究演習(卒論)	3後・4通	3					○		9	9	1	12		
	看護情報学	2後	1			○				1					
	医療看護管理学	4後	1			○				1	1		1		
	看護教育概説	4後	1			○				1					
	スキンケア・創傷管理論	4後	1			○					1				
	がん看護論	4後		1		○				1	1		1		兼2
	臨床看護実践論	4後		1		○				1	2	1			
	ヘルスプロモーション概論	4後		1		○				2					
	次世代育成看護論	4後		1		○				2	2		3		
	小計(52科目)	—	69	12	0			—		9	9	1	12	0	兼12
合計(189科目)			—	91	228.5	0		—		9	9	1	12	0	兼362
学位又は称号		学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学教育科目は33単位以上、専門基礎科目は必修科目20単位以上、専門科目は必修科目69単位以上、専門科目と専門基礎科目を合わせて合計91単位以上を修得すること。卒業要件は合計124単位以上を修得し、かつ卒業判定に合格しなければならない。 ※全学教育科目 全学基礎科目から16単位以上(基礎セミナー2単位、言語文化から英語4単位、その他外国語6単位、健康・スポーツ科学講義及び実習各2単位を含むこと)、理系基礎科目から9単位以上(数学通論Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験から9単位以上を含むこと)、文系基礎科目、文系教養科目及び理系教養科目のうちから6単位以上、文系基礎科目、文系教養科目、理系教養科目、全学教養科目及び開放科目から8単位以上。ただし、全学教養科目及び開放科目で必要単位に含めることができるのは2単位まで。								1 学年の学期区分			2 学期				
								1 学期の授業期間			1 5 週				
								1 時限の授業時間			9 0 分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(既設 医学部保健学科放射線技術科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学 教育科目	基礎セミナーA	1前	2					○		2	2			
	小計 (1科目)		2	0	0			—		2	2	0	0	0
	言語文化													
	英語 (基礎)	1前		1				○						兼21
	英語 (中級)	1後		1				○						兼11
	英語 (コミュニケーション)	2前		2				○						兼19
	ドイツ語 1	1前		1.5				○						兼14
	ドイツ語 2	1前		1.5				○						兼14
	ドイツ語 3	1後		1.5				○						兼14
	ドイツ語 4	1後		1.5				○						兼13
	フランス語 1	1前		1.5				○						兼5
	フランス語 2	1前		1.5				○						兼5
	フランス語 3	1後		1.5				○						兼5
	フランス語 4	1後		1.5				○						兼4
	ロシア語 1	1前		1.5				○						兼2
	ロシア語 2	1前		1.5				○						兼2
	ロシア語 3	1後		1.5				○						兼2
	ロシア語 4	1後		1.5				○						兼1
	中国語 1	1前		1.5				○						兼10
	中国語 2	1前		1.5				○						兼10
	中国語 3	1後		1.5				○						兼10
	中国語 4	1後		1.5				○						兼9
	スペイン語 1	1前		1.5				○						兼3
	スペイン語 2	1前		1.5				○						兼3
	スペイン語 3	1後		1.5				○						兼3
	スペイン語 4	1後		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語 1	1前		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語 2	1前		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語 3	1後		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語 4	1後		1.5				○						兼1
	日本語 (口頭表現) 1	1前		1.5				○						兼2
日本語 (口頭表現) 2	1前		1.5				○						兼1	
日本語 (文章表現) 1	1後		1.5				○						兼2	
日本語 (文章表現) 2	1後		1.5				○						兼1	
小計 (31科目)			0	46	0			—		0	0	0	0	0
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前		2			○							兼8
	健康・スポーツ科学実習 I	1前		1					○					兼8
	健康・スポーツ科学実習 II	1後		1					○					兼7
	小計 (3科目)		0	4	0			—		0	0	0	0	0
文系 基礎 科目	哲学	1前		2			○							兼1
	歴史学	1後		2			○							兼2
	文学	1後		2			○							兼1
	地理学	1前		2			○							兼1
	心理学 I	1前		2			○							兼1
	心理学 II	1前		2			○							兼1
	日本国憲法	1後		2			○							兼2
	法学	1前		2			○							兼1
	経済学 A	1前		2			○							兼1
	経済学 B	1後		2			○							兼1
	国際関係論	1後		2			○							兼1
	国際開発学	1前		2			○							兼1
	比較文化論	1後		2			○							兼1
	統計学	1後		2			○							兼1
小計 (14科目)		0	28	0			—		0	0	0	0	0	







学位又は称号	学士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
全学教育科目は33単位以上、専門基礎科目は必修科目28単位及び選択科目4単位以上を含む合計32単位以上、専門科目は必修科目54単位及び選択科目6単位以上を含む合計60単位以上を修得すること。卒業要件は合計125単位以上を修得し、かつ卒業判定に合格しなければならない。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	1 5 週
			1 時限の授業時間	9 0 分
<p>※全学教育科目 全学基礎科目から16単位以上（基礎セミナー2単位、言語文化から英語4単位、その他外国語6単位、健康・スポーツ科学講義及び実習各2単位を含むこと）、理系基礎科目から9単位以上（数学通論Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験から9単位以上を含むこと）、文系基礎科目、文系教養科目及び理系教養科目のうちから6単位以上、文系基礎科目、文系教養科目、理系教養科目、全学教養科目及び開放科目から8単位以上。ただし、全学教養科目及び開放科目で必要単位に含めることができるのは2単位まで。</p> <p>※専門基礎科目の選択科目においては、Ⅰ類の授業科目から3単位以上、Ⅱ類の授業科目から1単位以上を修得しなければならない。</p> <p>※専門科目の選択科目においては、Ⅲ類の授業科目から1単位以上、Ⅳ類の授業科目から1単位以上、Ⅴ類の授業科目から1単位以上、Ⅵ類の授業科目から2単位以上、Ⅶ類の授業科目から1単位以上を修得しなければならない。</p>				

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
（既設 医学部保健学科検査技術科学専攻）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目	基礎セミナー	1前	2					○							
	小計（1科目）		2	0	0			—							0
	言語文化														
	英語（基礎）	1前		1				○							兼21
	英語（中級）	1後		1				○							兼11
	英語（コミュニケーション）	2前		2				○							兼19
	ドイツ語1	1前		1.5				○							兼14
	ドイツ語2	1前		1.5				○							兼14
	ドイツ語3	1後		1.5				○							兼14
	ドイツ語4	1後		1.5				○							兼13
	フランス語1	1前		1.5				○							兼5
	フランス語2	1前		1.5				○							兼5
	フランス語3	1後		1.5				○							兼5
	フランス語4	1後		1.5				○							兼4
	ロシア語1	1前		1.5				○							兼2
	ロシア語2	1前		1.5				○							兼2
	ロシア語3	1後		1.5				○							兼2
	ロシア語4	1後		1.5				○							兼1
	中国語1	1前		1.5				○							兼10
	中国語2	1前		1.5				○							兼10
	中国語3	1後		1.5				○							兼10
	中国語4	1後		1.5				○							兼9
	スペイン語1	1前		1.5				○							兼3
	スペイン語2	1前		1.5				○							兼3
	スペイン語3	1後		1.5				○							兼3
	スペイン語4	1後		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語1	1前		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語2	1前		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語3	1後		1.5				○							兼2
	朝鮮・韓国語4	1後		1.5				○							兼1
	日本語（口頭表現）1	1前		1.5				○							兼2
	日本語（口頭表現）2	1前		1.5				○							兼1
	日本語（文章表現）1	1後		1.5				○							兼2
日本語（文章表現）2	1後		1.5				○							兼1	
小計（31科目）			0	46	0			—						兼195	
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前		2			○							兼8	
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1				○						兼8	
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後		1				○						兼7	
	小計（3科目）		0	4	0			—						兼23	









公衆衛生学	2前	2			○		1								
公衆衛生学実習	2後	1				○	1		1						
動物学	3前	1			○				1				兼1		
臨床病理学Ⅰ	3後	2			○		1								
臨床病理学Ⅱ	3後	1			○		1	1							
臨床病理学演習	4後	2				○	1								
形態検査技術開発法Ⅰ	3前	1			○		1	1			1			※演習	
形態検査技術開発法Ⅱ	3後	1			○		1				1			※演習	
生理検査技術開発法	3後	1			○		1	1			1			※演習	
分析検査技術開発法	3後	1			○		1	1	1					※演習	
病因検査技術開発法Ⅰ	3前	1			○				1	1				※演習	
病因検査技術開発法Ⅱ	3前	1			○		1			1				※演習	
遺伝子検査学	3前	2			○		2	1			1				
遺伝子検査学実習	3前		1			○	1				1				
分子病態学	4前	1			○		2						兼2		
検査技術科学特論Ⅰ（形態系）	4後		2		○		2	1			1		兼1	※演習	
検査技術科学特論Ⅱ（生理系）	4後		2		○		2	1						※演習	
検査技術科学特論Ⅲ（分析系）	4後		2		○		2	1	1					※演習	
検査技術科学特論Ⅳ（病因系）	4後		2		○		1	1					兼1	※演習	
検査技術科学研究法Ⅰ	4前・後	1			○		7	4	2	3				※演習	
卒業研究	4前・後	4				○	7	4	2	3					
健康食品管理総論	4前		2		○		3	1	1						
小計（56科目）	—	66	15	0	—	—	7	4	2	3	0	兼13			
合計（199科目）	—	88	242.5	0	—	—	7	4	2	3	0	兼360			
学位又は称号	学士（保健学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
全学教育科目は33単位以上、専門基礎科目は必修科目20単位以上、専門科目は必修科目67単位以上、専門科目と専門基礎科目を合わせて合計91単位以上を修得すること。卒業要件は合計124単位以上を修得し、かつ卒業判定に合格しなければならない。 ※全学教育科目 全学基礎科目から16単位以上（基礎セミナー2単位、言語文化から英語4単位、その他外国語6単位、健康・スポーツ科学講義及び実習各2単位を含むこと）、理系基礎科目から9単位以上（数学通論Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験から9単位以上を含むこと）、文系基礎科目、文系教養科目及び理系教養科目のうちから6単位以上、文系基礎科目、文系教養科目、理系教養科目、全学教養科目及び開放科目から8単位以上。ただし、全学教養科目及び開放科目で必要単位に含めることができるのは2単位まで。						1学年の学期区分					2学期				
						1学期の授業期間					15週				
						1時限の授業時間					90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
（既設 医学部保健学科理学療法学専攻）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学 教育科目	基礎セミナーA	1前	2					○		1	1			
	小計（1科目）		2	0	0			—		1	1	0	0	0
	言語文化													
	英語（基礎）	1前		1				○						兼21
	英語（中級）	1後		1				○						兼11
	英語（コミュニケーション）	2前		2				○						兼19
	ドイツ語1	1前		1.5				○						兼14
	ドイツ語2	1前		1.5				○						兼14
	ドイツ語3	1後		1.5				○						兼14
	ドイツ語4	1後		1.5				○						兼13
	フランス語1	1前		1.5				○						兼5
	フランス語2	1前		1.5				○						兼5
	フランス語3	1後		1.5				○						兼5
	フランス語4	1後		1.5				○						兼4
	ロシア語1	1前		1.5				○						兼2
	ロシア語2	1前		1.5				○						兼2
	ロシア語3	1後		1.5				○						兼2
	ロシア語4	1後		1.5				○						兼1
	中国語1	1前		1.5				○						兼10
	中国語2	1前		1.5				○						兼10
	中国語3	1後		1.5				○						兼10
	中国語4	1後		1.5				○						兼9
	スペイン語1	1前		1.5				○						兼3
	スペイン語2	1前		1.5				○						兼3
	スペイン語3	1後		1.5				○						兼3
	スペイン語4	1後		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語1	1前		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語2	1前		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語3	1後		1.5				○						兼2
	朝鮮・韓国語4	1後		1.5				○						兼1
	日本語（口頭表現）1	1前		1.5				○						兼2
	日本語（口頭表現）2	1前		1.5				○						兼1
	日本語（文章表現）1	1後		1.5				○						兼2
日本語（文章表現）2	1後		1.5				○						兼1	
小計（31科目）			0	46	0			—		0	0	0	0	0
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前		2			○							兼8
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1					○					兼8
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後		1					○					兼7
	小計（3科目）		0	4	0			—		0	0	0	0	0
文系 基礎科目	哲学	1前		2			○							兼1
	歴史学	1後		2			○							兼2
	文学	1後		2			○							兼1
	地理学	1前		2			○							兼1
	心理学Ⅰ	1前		2			○							兼1
	心理学Ⅱ	1前		2			○							兼1
	日本国憲法	1後		2			○							兼2
	法学	1前		2			○							兼1
	経済学A	1前		2			○							兼1
	経済学B	1後		2			○							兼1
	国際関係論	1後		2			○							兼1
	国際開発学	1前		2			○							兼1
	比較文化論	1後		2			○							兼1



	科学技術とジェンダー	2後		2		○								兼1	
	宗教と人類文化	2前・後		2		○								兼2	
	異文化論	2後		2		○								兼1	
	留学生と日本	2後		2		○								兼2	
	名大の歴史をたどる	1前		2		○								兼1	
	キャリア形成論	2前・後		2		○								兼2	
	大学でどう学ぶか	1前		2		○								兼2	
	学問の面白さを知る	1前		2		○								兼1	
	切迫する自然災害に備える	2前		2		○								兼1	
	アーカイブズ学入門－文書史料の世界をあるく－	2後		2		○								兼1	
	ジェンダーの視点から考える21世紀の日本社会	2前		2		○								兼1	
	ピア・カウンセリング	2前		2		○								兼1	
	小計 (19科目)		0	38	0	—		0	0	0	0	0	0	兼28	
専門 基礎 科目	人体構造機能学ⅠA	1前	1			○		1			1			兼1	※演習
	人体構造機能学ⅡA	2前	1			○									
	人体構造機能学ⅢA	1後	1			○		1							※実習
	人体構造機能学ⅠA実習	1前	1			○		1			1				※実習
	人体構造機能学ⅡA実習	2前	1				○							兼1	
	人体構造機能学ⅢA実習	1後	1				○	2	1		1			兼2	
	保健生化学A	1前		1		○								兼1	
	PT及びOTのための人間発達学	2前	1			○								兼1	
	公衆衛生学	2前		2		○								兼1	
	臨床心理学	2後	1			○								兼3	
	社会福祉学A	3前		1		○								兼1	
	バイオエシックス論	2前		1		○								兼3	
	保健医療概論	1前	1			○		1						兼1	
	リハビリテーション概論	1前	1			○		1						兼2	
	リハビリテーション医学	3前	1			○		1						兼1	
	救急医療学	3前	1			○		1			1			兼3	
	保健病理学B	2前	1			○								兼2	
	神経解剖学	2前	1			○				1				兼1	
	病態人体構造学実習	2前		1			○	1	1						
	病態人体機能学	2前	1			○								兼1	
	病態人体機能学実習	2前	1				○							兼1	
	生体防御学	2前		1		○								兼2	
	保健薬理学	2前		1		○								兼2	
障害予防学	4後		1		○		1						兼1		
医用情報科学A	2前		1		○			1					兼1		
医療経済学入門	2前		1		○			1					兼5		
国際医療協力論	4後		1		○								兼3		
医療英語ⅠA	2後		1		○				1					※演習	
医療英語ⅡA	3前		1		○			1						※演習	
小計 (29科目)		—	16	14	0	—		4	2	0	3	0	兼32		
専門 科目	運動学	1後	1			○			1						※演習
	臨床運動学	2後	1			○		1			1				
	運動機能評価学	2前	2			○		1							※演習
	運動機能評価学実習	2後	1				○				1			兼1	
	内部障害学	2後	2			○								兼1	
	神経機能評価学	2前	1			○								兼1	
	神経障害学	2後	2			○								兼1	
	運動機能障害学	2後	2			○		1							
	運動機能再建学	3前	2			○		1							
	小児発達障害学	3後	1			○		1			1			兼5	
	精神障害学Ⅰ	2前	2			○								兼1	
	精神障害学Ⅱ	2後	1			○								兼1	
	社会精神医学	3後		1		○								兼1	
	老年期特性論	2後	1			○								兼1	
	老年期神経障害論	3前		1		○								兼1	
	理学療法学概論	1後	1			○		1							
	機能診断学	2通	1			○				1		1			
機能診断学実習	2通	1				○			1		1				

理学療法治療学総論	2後	1			○					1			
理学療法治療学総論実習	2後	1				○				1			
生活活動支援論	3後	1			○					1	兼4		
生体情報分析学	3後	1			○						兼1		
生体情報分析学実習	3後	1				○					兼1		
運動器理学療法学Ⅱ	3前	1			○			1			兼1		
運動器理学療法学Ⅱ実習	3後	1				○		1	1				
運動器理学療法学Ⅰ	3前	1			○					1	兼3		
運動器理学療法学Ⅰ実習	3前	1				○				1	兼3		
内部障害理学療法学	3前	1			○			1					
内部障害理学療法学実習	3後	1				○		1			兼1		
物理療法学	3後	1			○			1		1	兼2		
物理療法学実習	3後	1				○		1		1	兼2		
神経系理学療法学	3前	1			○			1					
神経系理学療法学実習	3前	1				○		1			兼1		
義肢装具学	3前	1			○					1	兼3		
義肢装具学実習	3前	1				○				1	兼3		
理学療法イントロダクション	2・4前	2				○		4	2	3			
理学療法コミュニケーション	2前	2				○		4	2	3			
基本的臨床技能実習	4前	1				○		4	2	3			
臨床実習Ⅰ	3後	4				○		4	2	3			
臨床実習Ⅱ	4前	5				○		4	2	3			
臨床実習Ⅲ	4前	5				○		4	2	3			
理学療法研究方法論	3前	1			○				1				
体表解剖学実習	2後	1				○			1				
理学療法セミナーⅠ	3後		1		○			1				※演習	
理学療法セミナーⅡ	4前		1			○		1		1	兼1		
卒業研究	3・4後	4				○		4	2	3			
疾患別理学療法学	3後	1			○					2	兼11		
疾患別理学療法学実習	3後	1				○				2	兼11		
地域理学療法学	3後	1			○					1	兼4		
地域理学療法学実習	4前	2				○				1	兼1		
老年期理学療法学	3前		1		○					1	兼1		
スポーツ理学療法学	4後		1		○					1	兼4		
ハンドセラピー学	3前		1		○						兼2		
小計(53科目)	—	69	7	0	—	—	—	4	2	0	3	0	兼51

合計(199科目)	—	87	234.5	0	—	—	—	4	2	0	3	0	兼410
-----------	---	----	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	------

学位又は称号	学士(リハビリテーション学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)
--------	----------------	-----------	----------------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

全学教育科目は33単位以上、専門基礎科目は必修科目16単位及び選択科目4単位以上を含む合計20単位以上、専門科目は必修科目69単位及び選択科目2単位以上を含む合計71単位以上、専門科目と専門基礎科目を合わせて合計91単位以上を修得すること。卒業要件は合計124単位以上を修得し、かつ卒業判定に合格しなければならない。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

※全学教育科目  
 全学基礎科目から16単位以上(基礎セミナー2単位、言語文化から英語4単位、その他外国語6単位、健康・スポーツ科学講義及び実習各2単位を含むこと)、理系基礎科目から9単位以上(数学通論Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験から9単位以上を含むこと)、文系基礎科目、文系教養科目及び理系教養科目のうちから6単位以上、文系基礎科目、文系教養科目、理系教養科目、全学教養科目及び開放科目から8単位以上。ただし、全学教養科目及び開放科目で必要単位に含めることができるのは2単位まで。

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(既設 医学部保健学科作業療法学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA	1前	2				○		2					
		小計 (1科目)		2	0	0	—			2	0	0	0	0	0
	言語文化	英語 (基礎)	1前		1			○							兼21
英語 (中級)		1後		1			○							兼11	
英語 (コミュニケーション)		2前		2			○							兼19	
ドイツ語 1		1前		1.5			○							兼14	
ドイツ語 2		1前		1.5			○							兼14	
ドイツ語 3		1後		1.5			○							兼14	
ドイツ語 4		1後		1.5			○							兼13	
フランス語 1		1前		1.5			○							兼5	
フランス語 2		1前		1.5			○							兼5	
フランス語 3		1後		1.5			○							兼5	
フランス語 4		1後		1.5			○							兼4	
ロシア語 1		1前		1.5			○							兼2	
ロシア語 2		1前		1.5			○							兼2	
ロシア語 3		1後		1.5			○							兼2	
ロシア語 4		1後		1.5			○							兼1	
中国語 1		1前		1.5			○							兼10	
中国語 2		1前		1.5			○							兼10	
中国語 3		1後		1.5			○							兼10	
中国語 4		1後		1.5			○							兼9	
スペイン語 1		1前		1.5			○							兼3	
スペイン語 2		1前		1.5			○							兼3	
スペイン語 3		1後		1.5			○							兼3	
スペイン語 4		1後		1.5			○							兼2	
朝鮮・韓国語 1		1前		1.5			○							兼2	
朝鮮・韓国語 2		1前		1.5			○							兼2	
朝鮮・韓国語 3		1後		1.5			○							兼2	
朝鮮・韓国語 4		1後		1.5			○							兼1	
日本語 (口頭表現) 1		1前		1.5			○							兼2	
日本語 (口頭表現) 2		1前		1.5			○							兼1	
日本語 (文章表現) 1		1後		1.5			○							兼2	
日本語 (文章表現) 2		1後		1.5			○							兼1	
	小計 (31科目)		0	46	0	—			0	0	0	0	0	兼195	
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前		2		○								兼8	
	健康・スポーツ科学実習 I	1前		1				○						兼8	
	健康・スポーツ科学実習 II	1後		1				○						兼7	
	小計 (3科目)		0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼23	
文系基礎科目	哲学	1前		2		○								兼1	
	歴史学	1後		2		○								兼2	
	文学	1後		2		○								兼1	
	地理学	1前		2		○								兼1	
	心理学 I	1前		2		○								兼1	
	心理学 II	1前		2		○								兼1	
	日本国憲法	1後		2		○								兼2	
	法学	1前		2		○								兼1	
	経済学 A	1前		2		○								兼1	
	経済学 B	1後		2		○								兼1	
	国際関係論	1後		2		○								兼1	
	国際開発学	1前		2		○								兼1	
	比較文化論	1後		2		○								兼1	
	統計学	1後		2		○								兼1	
	小計 (14科目)		0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼16	



理系基礎科目	数学通論Ⅰ	1前		2		○												兼4
	数学通論Ⅱ	1後		2		○												兼4
	物理学基礎Ⅰ	1前		2		○												兼3
	物理学基礎Ⅱ	1後		2		○												兼1
	化学基礎Ⅰ	1前		2		○												兼3
	化学基礎Ⅱ	1後		2		○												兼1
	生物学基礎Ⅰ	1前		2		○												兼2
	生物学基礎Ⅱ	1後		2		○												兼2
	生物学実験	1後		1.5					○	1								
	小計(9科目)			0	17.5	0		—		1	0	0	0	0	0			
文系教養科目	生と死の人間学	2後		2		○												兼1
	科学・技術の哲学	2後		2		○												兼1
	ことばの不思議	2前		2		○												兼1
	文化を読む	1後		2		○												兼1
	表象と文化	2前		2		○												兼1
	芸術と人間	2前・後		2		○												兼2
	人間と行動	1後		2		○												兼1
	現代社会と教育	2前・後		2		○												兼2
	教育と発達の心理	1後		2		○												兼1
	現代社会と法	2前・後		2		○												兼2
	民主主義の歴史と現在	1後		2		○												兼1
	市場経済と社会	2前		2		○												兼1
	産業社会と企業	1後		2		○												兼1
	開発の光と影	1後		2		○												兼1
	社会と環境	2前		2		○												兼1
	グローバル化時代の国際社会	2後		2		○												兼1
	グローバル化と国際教育交流	1後		2		○												兼1
小計(17科目)			0	34	0		—		0	0	0	0	0	0				兼20
理系教養科目	図情報とコンピュータ	2後		2		○												兼1
	情報メディアとコミュニケーション	2後		2		○												兼1
	システム工学入門	1後		2		○												兼1
	情報リテラシー(理系)	1前・後		2		○												兼4
	情報科学入門	1前		2		○												兼1
	物理現象の科学	1前		2		○												兼1
	原子・分子の科学	2後		2		○												兼1
	物質世界の認識	1後		2		○												兼1
	物質と科学	1後		2		○												兼2
	現代の生命科学	2後		2		○												兼1
	現代医療と生命科学	1前		2		○												兼1
	生涯健康と医学	2後		2		○												兼1
	遺伝子の世界	1後		2		○												兼1
	食と農の科学	1前		2		○												兼1
	動植物の科学	1後		2		○												兼2
	地球惑星の科学	1前		2		○												兼1
	自然環境と人間	1後		2		○												兼1
	自然環境と人間社会	1前		2		○												兼1
	環境問題と人間	1後		2		○												兼1
	都市と環境	1後		2		○												兼1
	大気水圏環境の科学	1前		2		○												兼1
	宇宙科学	1前		2		○												兼1
	博物館概論	1前		2		○												兼1
小計(23科目)			0	46	0		—		0	0	0	0	0	0				兼28

全学 教養 科目	現代芸術論	2前・後	2		○										兼2
	芸術と人間精神	2前・後	2		○										兼2
	表象芸術論	2前・後	2		○										兼2
	音楽芸術論	2前・後	2		○										兼2
	科学・技術の倫理	2前	2		○										兼1
	科学技術史	2後	2		○										兼1
	科学技術社会論	2前・後	2		○										兼2
	科学技術とジェンダー	2後	2		○										兼1
	宗教と人類文化	2前・後	2		○										兼2
	異文化論	2後	2		○										兼1
	留学生と日本	2後	2		○										兼2
	名大の歴史をたどる	1前	2		○										兼1
	キャリア形成論	2前・後	2		○										兼2
	大学でどう学ぶか	1前	2		○										兼2
	学問の面白さを知る	1前	2		○										兼1
	切迫する自然災害に備える	2前	2		○										兼1
	アーカイブズ学入門－文書史料の世界をあるく－	2後	2		○										兼1
	ジェンダーの視点から考える21世紀の日本社会	2前	2		○										兼1
	ピア・カウンセリング	2前	2		○										兼1
	小計（19科目）		0	38	0	—			0	0	0	0	0	0	兼28
専門 基礎 科目	人体構造機能学ⅠA	1前	1		○										兼2 ※演習
	人体構造機能学ⅡA	2前	1		○			1							
	人体構造機能学ⅢA	1後	1		○										兼2 ※実習
	人体構造機能学ⅠA実習	1前	1		○										兼2 ※実習
	人体構造機能学ⅡA実習	2前	1				○	1							
	人体構造機能学ⅢA実習	1後	1				○								兼7
	保健生化学A	1前	1	1	○										兼1
	PT及びOTのための人間発達学	2前	1		○			1							
	公衆衛生学	2前	2		○										兼1
	臨床心理学	2後	1		○			1							兼2
	社会福祉学A	3前	1		○										兼1
	保健医療概論	1前	1		○			1							兼1
	リハビリテーション概論	1前	1		○			2							兼1
	リハビリテーション医学	3前	1		○										兼2
	救急医療学	3前	1		○										兼4
	保健病理学B	2前	1		○										兼2
	神経解剖学	2前	1		○										兼2
	病態人体構造学実習	2前	1	1				○							兼2
	病態人体機能学	2前	1		○			1							
	病態人体機能学実習	2前	1					○	1						
	生体防御学	2前	1	1	○										兼2
	保健薬理学	2前	1	1	○										兼2
	医用情報科学A	2前	1	1	○										兼1
医療英語	2前	1		○			1								
小計（24科目）	—	17	8	0	—			3	0	0	0	0	0	兼24	

専 門 科 目	運動学	1後	1			○								兼1	※演習
	運動機能評価学	2前	2			○								兼1	※演習
	運動機能評価学実習	2後	1					○				1		兼1	
	内部障害学	2後	2			○				1					
	神経機能評価学	2前	1			○			1						
	神経障害学	2後	2			○			1						
	運動機能障害学	2後	2			○								兼1	
	運動機能再建学	3前	2			○								兼1	
	小児発達障害学	3後	1			○								兼6	
	精神障害学Ⅰ	2前	2			○			1						
	精神障害学Ⅱ	2後	1			○			1						
	社会精神医学	3後	1			○			1						
	老年期特性論	2後	1			○								兼1	
	老年期神経障害論	3前		1		○			1						
	ライフサイクル精神医学	3後		1		○			1						
	精神科リハビリテーション論	4後		2		○			1						
	作業療法基礎学Ⅰ	1前	1			○			1						※演習
	作業療法基礎学Ⅰ演習	1後	1					○				1	1		※演習
	作業療法基礎学Ⅱ	1前	1			○			1		1				※演習
	作業学Ⅰ及び実習	1前	1			○				1				兼1	※実習
	作業学Ⅱ及び実習	3前	1			○						1		兼1	※実習
	作業学Ⅲ及び実習	3後	1			○				1			1		※実習
	作業療法評価学及び実習	2前	1			○			1						※実習
	身体障害作業療法評価学及び実習	2後	1			○				1					※実習
	身体機能作業療法学	2後	1			○			1						
	身体機能作業療法学演習	3前	1					○			1				
	運動統合作業療法学	3前	1			○			1						※演習
	運動統合作業療法学実習	3前	1			○			1						※実習
	精神心理作業療法学	2後	1			○					1				
	精神障害作業療法評価学及び実習	2後	1			○					1				※実習
	発達障害評価学	3前	1			○			1						
	発達障害治療学及び実習	3後	1			○			1						※実習
	老年期作業療法学	3前	1			○			1					兼1	
	老年期作業療法学演習	3前	1			○				1				兼1	※演習
	高次神経障害作業療法学及び演習	3後	1			○				1					※演習
	生活行動作業療法学及び実習	3後	1			○				1					※実習
	生活行動作業療法学及び演習	3後	1			○							1		※演習
	装具作業療法学	3後	1			○			1						
	装具作業療法学実習	3後	1					○	1						
	職業関連作業療法学及び演習	3前	1			○				1	1				※演習
	作業療法入門実習	1前	1					○	1		1	1			
	作業療法基礎学実習	2後	2					○	3	2	1	2			
	作業療法学臨床実習Ⅰ	4前	6					○	3	2	1	2			
	作業療法学臨床実習Ⅱ	4前	6					○	3	2	1	2			
	作業療法学臨床実習Ⅲ	4前	6					○	3	2	1	2			
	卒業研究	3・4後	4				○		3	2	1	2			
	地域作業療法学	3後	1			○			1		1			兼1	
	臨床応用学実習	3後	1					○	3	2	1	2			
	作業療法研究法及び演習	3前		1		○			1						※演習
	環境適応作業療法学	3前		1		○			1						
身体障害作業療法臨床実践学	3後		1		○			1							
作業療法管理運営学	3後		1		○			1						※演習	
作業療法理論学	3後		1		○				1					※演習	
認知作業療法学	3後		1		○			1						※演習	
ハンドセラピー学	3前		1		○						1		兼1		
心身医学的作業療法学	3前		1		○			1							
活動療法論	4後		1		○				1					※実習	
地域作業療法学演習	4後		1		○			1					兼1	※演習	
地域作業療法学実習	4前		1				○	1							
小計(59科目)	—	70	15	0	—	—	—	3	2	1	2	0	兼16		
合計(200科目)	—	89	236.5	0	—	—	—	3	2	1	2	0	兼368		

学位又は称号	学士（リハビリテーション学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
全学教育科目は33単位以上、専門基礎科目は必修科目17単位及び選択科目3単位以上を含む合計20単位以上、専門科目は必修科目70単位及び選択科目4単位以上を含む合計74単位以上を修得すること。卒業要件は合計127単位以上を修得し、かつ卒業判定に合格しなければならない。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	1 5 週
			1 時限の授業時間	9 0 分
※全学教育科目 全学基礎科目から16単位以上（基礎セミナー2単位、言語文化から英語4単位、その他外国語6単位、健康・スポーツ科学講義及び実習各2単位を含むこと）、理系基礎科目から9単位以上（数学通論Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験から9単位以上を含むこと）、文系基礎科目、文系教養科目及び理系教養科目のうちから6単位以上、文系基礎科目、文系教養科目、理系教養科目、全学教養科目及び開放科目から8単位以上。ただし、全学教養科目及び開放科目で必要単位に含めることができるのは2単位まで。				
※専門科目の選択科目については、「作業療法研究法及び演習」を含むこと。				

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

## 授 業 科 目 の 概 要

(医学系研究科総合保健学専攻 博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 盤 科 目	プロフェッショナル・リテラシー	大学院研究活動をスタートするにあたり、自身の目標や獲得すべきスキルについて自覚を持ち、自己調整力、発進力、理解力、キャリア構築力等を養う。具体的には、プレゼンテーションスキルの向上、アカデミックライティングの向上、公正研究の意義の理解、ジェンダーの多様性の理解、メンタルヘルスとセルフマネジメント力の向上、キャリアプランニングの立案を目標とする。	
	リサーチ・スキルズA-1	<p>This two-semester course is specifically designed for graduate students who are planning to write a research paper - e.g. dissertation, journal paper, conference paper, conference abstract, etc. It will teach you how to write the paper from scratch, and aims to help you accomplish, among other things, the most crucial tasks in the research writing process; namely (i) developing a clear thesis statement - i.e. the central idea of your research, (ii) building a logical argument to support the thesis statement, (iii) integrating the thesis statement and logical argument into a full-blown research paper. The first semester of the course focuses on (i) and (ii), and the second semester focuses on (iii). For details about the lessons in each semester, see the course content below. All lessons will be delivered in clearly spoken English, through a simplified and entertaining manner that can be readily understood and enjoyed by everyone. After successfully completing the first semester, you should be in a good position to write a clear and convincing paper for your research.</p> <p>(和訳)            学術論文、ジャーナル、アブストラクトなどの研究論文を書く大学院生を対象とし、下書きを元にどのように論文にするかを教え、研究論文作成過程において、最も重要な業務を達成できるように導く。すなわち①明確に研究の中心テーマについて論述を展開する、②そのテーマを裏付けるための論理的な論を組み立てる、③十分に校正を重ね、テーマの論述と理論を統合させて、論文に仕上げる。A-1では①と②に焦点を合わせる。            自分の研究についての論文を明確に説得力のある文章で十分に書けることを目標とする。</p>	

<p>リサーチ・スキルズA-2</p>	<p>This two-semester course is specifically designed for graduate students who are planning to write a research paper - e.g. dissertation, journal paper, conference paper, conference abstract, etc. It will teach you how to write the paper from scratch, and aims to help you accomplish, among other things, the most crucial tasks in the research writing process: namely (i) developing a clear thesis statement - i.e. the central idea of your research, (ii) building a logical argument to support the thesis statement, (iii) integrating the thesis statement and logical argument into a full-blown research paper. The first semester of the course focuses on (i) and (ii), and the second semester focuses on (iii). For details about the lessons in each semester, see the course content below. All lessons will be delivered in clearly spoken English, through a simplified and entertaining manner that can be readily understood and enjoyed by everyone. After successfully completing the entire course, you should be in a good position to complete and send your paper for publication.</p> <p>(和訳)          学術論文、ジャーナル、アブストラクトなどの研究論文を書く大学院生を対象とし、下書きを元にどのように論文にするかを教え、研究論文作成過程において、最も重要な業務を達成できるように導く。すなわち①明確に研究の中心テーマについて論述を展開する、②そのテーマを裏付けるための論理的な論を組み立てる、③十分に校正を重ね、テーマの論述と理論を統合させて、論文に仕上げる。A-2では③に焦点を合わせる。          授業を履修後には、論文を書き上げ、投稿出来る力を身につける。</p>	
<p>リサーチ・スキルズB-1</p>	<p>Introduces basic skills of academic research writing and logical thinking to help graduate students develop from readers into academic writers. Participants produce a preliminary abstract for a major paper—typically their graduation thesis—and deliver an oral presentation analyzing a research paper in their field.</p> <p>Uses group discussion among participants (including the instructor and all students). For this reason, all participants must be able to communicate in spoken and written English. Participants should be prepared to discuss actively. This includes asking questions and sharing your ideas.</p> <p>(和訳)          基礎的な学術研究ライティングスキルおよび大学院生が学術文献の読み手から書き手へと発展してゆくのに役立つ論理的思考を身につける。講義参加者は主な文献（卒業論文のテーマ等）の要約をあらかじめ準備し、各分野において研究論文を分析するプレゼンテーションをする。          講義参加者間（教員、全生徒を含む）でグループディスカッションをする。その時全参加者は英語でコミュニケーションをしなければならない。参加者は質問をする、意見を述べる等、積極的に議論する準備をしなければならない。</p>	

<p>リサーチ・スキルズB-2</p>	<p>Develops skills of academic research writing and logical thinking to help graduate students understand how to incorporate sources into their writing and to write a literature review. Participants will make an annotated bibliography and deliver an oral presentation.</p> <p>Uses group discussion among participants (including the instructor and all students). For this reason, all participants must be able to communicate in spoken and written English. All participants should be prepared to discuss actively. This includes asking questions and sharing your ideas.</p> <p>(和訳)          学術研究ライティングスキルおよび大学院生が自分の文章にソースを組み込む方法、文献要約の書き方を理解するのに役立つ論理的思考を身につける。講義参加者は注釈付きの書誌を作成し、プレゼンテーションをする。講義参加者間（教員、全生徒を含む）でグループディスカッションをする。その時全参加者は英語でコミュニケーションをしなければならない。参加者は質問をする、意見を述べる等、積極的に議論する準備をしなければならない。</p>	
<p>リサーチ・スキルズB-3</p>	<p>The purpose of this course is to prepare students to publish at conferences and in academic journals. Elements of Academic Writing 1 specifically guides students through the process of beginning academic research in English. Students will learn how to critically evaluate claims and how to create scholarly thesis statements. Subsequently, students will learn how to refine and focus their thesis statements as they develop and clarify their research plans. Students will then learn how to write a conference style abstract in order to get feedback on their research. The goal of the course is to create an abstract for each student that can be submitted for a conference presentation.</p> <p>(和訳)          学生が学会や学術誌に発表するための準備をすることを目的とする。アカデミック・ライティングの要素Iは、英語で学術研究論文を作成する初期段階において具体的に解説する。学生は主張を批判的に判断する方法、学術的テーマ陳述の作成方法を学ぶ。その後、学生は各自の研究計画を作成し、明確にしつつ、テーマにおける陳述どのようにを洗練し、焦点を当ててゆくかを身につける。また、各自の研究論文に対し、フィードバックをもらい、学会要約の書き方を学ぶ。本授業の目標は、学会発表が出来るレベルの要約を作成する。</p>	
<p>リサーチ・スキルズB-4</p>	<p>The purpose of Elements of Academic Writing II is to build upon the concepts covered in EAW I in order to prepare students to publish their work in academic journals. This course aims to further advance students' understanding of and ability to produce academic writing in English. Students will demonstrate that their arguments support their thesis statements, learn how to better present their work in the context of other scholarly research, and learn how to paraphrase and synthesis source material to buttress their arguments more effectively. This will involve critically evaluating previous research, effectively showing how their own research adds to previous research, and or how their research is useful. Ultimately the goal is to refine current work, creating a publishable paper for each student.</p>	

	<p>(和訳)  アカデミック・ライティングの要素Ⅱは、学術誌に文献を  発表する準備をするためにアカデミック・ライティングの  要素Ⅰの内容を基にしている。本授業は英語による学術論  文作成に対する理解と能力の向上を目標としている。学生  は各自のテーマを支える討論をし、他の学術研究の文脈に  おいて自分のテーマをより良く述べる方法、より効果的に  討論を支える資料の言い換えや統合の仕方を学ぶ。これま  での研究を批判的に評価し、自分の研究をどのように付け  加えるのか、どのように役立てるのかを効果的に示す。最  最終的な目標は現在の論文を洗練し、各学生が公表出来るレ  ベルの論文を作成することである。</p>	
リサーチ・スキルズC-1	<p>The aims of this course are to help  students/researchers in any field to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. acquire skills in creating logical, clear and  persuasively effective academic presentations</li> <li>2. develop confidence and competence in delivering  research presentations in English</li> <li>3. practice discussion for academic contexts</li> </ol> <p>(和訳)  あらゆる分野の学生、研究者に対して、①論理的、具体的  及び説得力のある学術研究発表スキルを修得する。②英語  で研究発表をする自信と能力を養う。③学術的文脈に対し  て議論をする。ことを目的とする。</p>	
リサーチ・スキルズC-2	<p>This course has the following practical goals:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. to raise your presentation preparation and  delivery skills to a level where presentations at an  international level can be highly effective, low  stress, even enjoyable.</li> <li>2. to produce persuasive presentation materials  related to your research area that you can use as  models for future "real world" presentations.</li> <li>3. to raise your confidence in general international  communication in academic contexts.</li> </ol> <p>(和訳)  以下の実践的な目標を掲げている。  ①プレゼンテーションの準備力及び発表力を、効果的で、  ストレスが低く、さらに楽しめる国際レベルに引き上げ  る。  ②将来実社会でのプレゼンテーションのモデルとしても利  用できる各自の研究分野に関する説得力のあるプレゼン  テーション資料を作成する。  ③学術的文脈において一般的な国際コミュニケーションを  とる自信をつける。</p>	
リサーチ・スキルズC-3	<p>This course is designed to improve students academic  presentation skills. It incorporates students  presentations of academic projects. These  presentations are designed for students to use  logical writing skills to prioritize what information  to present, how to present it, and how to answer  audience questions. During these presentations, non-  presenting students will be asked to evaluate the  presenters. This achieves two goals: 1) for the  presenters to get feedback from a variety of points  of views; and 2) for students to consider which  presentation styles they enjoy and what effective  things they can incorporate into their own  presentations.</p>	



	<p>(和訳)          学生の学術発表スキルを向上させることを目的とする。学術的プロジェクトである学生によるプレゼンテーションを組み入れる。プレゼンテーションは、どの情報を伝えるべきなのか、それをどのように伝えるか、聴衆の質問にどのように答えるかを考慮し、論理的ライティングスキルを用いて学生が構成する。プレゼンテーションの授業では、聴衆となる学生が発表者を評価する。これには2つの達成目的がある。①発表者が様々な視点からのフィードバックを得る。②聴衆である学生がどのプレゼンテーションスタイルが楽しめるか、自分のプレゼンテーションに組み込めそうな効果的な方法を検討する。</p>	
<p>リサーチ・スキルズC-4</p>	<p>This course will provide instruction about, and chances to practice, planning and using strategies to improve academic presentations based on logical writing skills. These strategies will include making basic handouts, scripts, and effective PowerPoint slides. Students will learn: 1.) the differences between these elements; and 2.) how to use these differences to improve their presentation skills. In particular, students will learn how to use notes, symbols, builds, and annotations to present large amounts of information in relatively short amounts of time and written material. In this course, students will learn how to present in a style suitable for international academic conferences.</p> <p>(和訳)          論理的ライティングスキルに基づいた学術発表を向上させる戦略を計画し実践するための指導と、実践の機会を提供する。これらの戦略は基本的な配布資料、スクリプトの作り方及び効果的なパワーポイントの使用を含む。学生には、①要素の違い、②プレゼンテーションスキルの向上のために要素の違いを使用する方法、特に、学生は比較的短い時間と限られた資料で大量の情報を発表するためにどのように注釈をつけたり、記号化したり、構築するかを学ぶ。          本授業では、学生は国際会議に適したやり方で発表する方法を学ぶ。</p>	
<p>リサーチ・スキルズC-5</p>	<p>The main purpose of this course is to introduce students to the content and structure of professional-level academic presentations including discussions as well as strategies for successful delivery, including slide design, speaking style, and body language. The course utilizes a workshop format, in which students will have multiple opportunities to practice giving their presentations at various stages of development. The instructor will provide guidance and support throughout the presentation design process. Aside from student presentations, the class will have an active learning environment, with most class time devoted to discussion of sample presentations. Students will be expected to participate enthusiastically in group work, class discussion, and presentation feedback activities.</p>	

	<p>(和訳)          本授業の主目的は、研究者レベルの研究発表（ディスカッションも含む）の内容と構造、および発表スライドのデザイン、話し方、ボディランゲージを含む効果的な伝達法を身につけることである。授業はワークショップ形式を採用する。学生は発表作りの様々な段階でプレゼンテーションを練習する多様な機会を与えられる。教員は研究発表を設計する全過程を通じて、指導と支援を行う。学生によるプレゼンテーション以外にも、本授業は能動的学習を重視する。すなわち、プレゼンテーションについてのディスカッションにほとんどの授業時間は費やされる。学生には、グループワーク、ディスカッション、フィードバックのための活動に積極的に参加することを求める。</p>	
<p>リサーチ・スキルズC-6</p>	<p>This course is designed to help students craft an academic presentation that meets standards of international conferences in their fields. Students will be asked to identify target conferences and customize their presentations based on specific length and formatting guidelines. Ideally, students will conclude the course having completed a presentation and proposal abstract that are ready to be submitted for consideration.</p> <p>The course utilizes a workshop format, in which students will have multiple opportunities to practice giving their presentations and conducting discussions at various stages of development. The instructor will provide guidance and support throughout the presentation design process. Aside from student presentations, the class will have an active learning environment, with most class time devoted to discussion of sample presentations. Students will be expected to participate enthusiastically in group work, class discussion, and presentation feedback activities.</p> <p>(和訳)          本授業の目的は、学生それぞれの分野における国際会議の基準を満たす研究発表を組み立てる力を身につけることである。学生は、発表しようとしている会議を明確にし、自分のプレゼンテーションを定められた時間と発表方法の要項にあわせてカスタマイズすることを求められる。授業の仕上げとして、プレゼンテーションを完成させ、発表申込み用のアブストラクトを投稿する段階に達することが目標である。授業はワークショップ形式を採用する。学生には発表作りの様々な段階でプレゼンテーションとディスカッションを練習する多様な機会を与える。教員は研究発表を設計する全過程を通じて、指導と支援を行う。本授業は能動的学習を重視する。すなわち、プレゼンテーションについてのディスカッションにほとんどの授業時間を費やす。学生には、グループワーク、ディスカッション、フィードバックのための活動に積極的に参加することを求める。</p>	

	<p>リサーチ・スキルズD-1</p>	<p>“Academic Writing and Research Integrity” is the official name of Mei-Writing summer camp. The summer camp has been widely praised as the best outdoor learning experience for graduate students. It combines training in logical thinking, academic writing, research ethics, English communication, presentation, team-building and leadership in one program. Its primary goal is to transform higher education outside the classroom setting so that a more suitable learning environment can be created to develop student’s self-confidence in research, communication and leadership. All camp activities are conducted within a team setting. Each student will work with 3 or 4 members within a team throughout the 4-day camp to compete with other teams for a top prize. They will learn how to make their research ideas clear and convincing in academic writing, and understand the importance of upholding ethical standards and practices when conducting research. Under this competitive environment, students will naturally become more active and confident in learning.</p> <p>(和訳) 4日間のサマーキャンプで行う。論理的思考、アカデミックライティング、研究倫理、英語コミュニケーション、プレゼンテーション、チームビルディング、リーダーシップの訓練を一つのプログラムに組み込んでいる。主な目標は、教室の外での学習に変えることにより、適切な学習環境を作り出し、研究、コミュニケーション及びリーダーシップに対する学生の自信を深めることである。すべてのキャンプ活動はチームで行われ、参加者は3～4人のチームを作り、4日間のキャンプ全日程を通して、他チームと競争する。研究アイデアを明確にし、学術研究論文において説得力のあるものにする方法を学び、研究を行うにあたり倫理的基準の重要性を理解する。この競争環境の下、学生は自然に学ぶことに対して積極的になり、自信を持つ。</p>	
<p>専攻 共通 科目</p>	<p>生命倫理学</p>	<p>医療の最先端での生命のコントロールにつながる新しい技術の開発の一方で、生と死の間でのターミナルケアのあり方、さらには、限られた医療資源、財政の中での超高齢・少子社会における保健医療のあり方等が問われている。保健医療に携わる者として、これら生命倫理上の問題を理解するための基礎的知識を習得し、より適切な対応のための問題解決能力を育成することを目指す。さらに、専門看護師を目指す者には、これらの基礎的知識をもとにより具体的な看護事例に基づいて臨床場面における問題解決能力を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (4 太田勝正／7回)</p> <p>倫理に関する基礎知識、倫理上の意思決定の仕組み、倫理原則：美德の倫理、原則に基づく倫理、ケアリングの倫理 (34 佐藤一樹／4回)</p> <p>看護インフォームド・コンセントの具体的方法 (3 安藤祥子／4回)</p> <p>臨床の倫理的問題に対する四分表を用いた事象の分析、臨床の倫理的問題に対するナラティブ・アプローチ</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>病態生理学概論</p>	<p>人体の生理機能が異常をきたしたり、調節機能が破綻したりすると病気が生じる。病態生理学は、病気の状態における機能異常やその原因を明らかにする学問である。本授業では、各専門分野の教員が、医療人として知っておくべき重要な疾患に関する最新の知見について、病気の診断や病態の把握、病気のメカニズムに基づく予防や対策などの観点から平易に概説する。エビデンスに基づき、対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p>	<p>オムニバス方式</p>

	<p>(9 林 登志雄／4回) 高齢者の疾病特性と老年症候群  (21 石川哲也／1回) ウイルス性慢性肝疾患  (11 島本佳寿広／1回) 乳がん検診の精度管理  (7 玉腰浩司／1回)  婦人科疾患における障害／合併症妊娠 事例展開 (婦人科疾患に関わる障害／事例の症状や検査所見から病態生理を検討する)  (22 佐藤光夫／1回) 肺癌の病態生理と治療薬開発  (1 寶珠山稔／1回) 脳活動とその異常  (27 杉浦英志／1回) 転移性骨腫瘍の病態  (28 辛島千恵子／1回) 小児発達障害  (17 川部勤／1回)  呼吸器障害／閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 事例展開 (呼吸器障害／事例の症状や検査所見から病態生理を検討する)  (20 永田浩三／1回)  メタボリックシンドロームの病態と生活習慣修正  (23 早川文彦／1回) 急性白血病の病態・診断・治療  (12 加藤克彦／1回) PET、核医学による画像診断</p>	
コンサルテーション論	<p>保健医療・看護活動場面におけるコンサルテーションの意義と方法を理解し、コンサルテーション活動を行うために必要な知識と実践力を習得する。特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、実際のコンサルテーション(相談)課題を抽出し、コンサルテーション理論の枠組を応用して、他の専門職とのコンサルテーション活動ができるようになり、倫理的側面への配慮を踏まえてコンサルテーション過程を定式化できることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)  (6 浅野みどり／3回)  コンサルテーションの意義、相談活動、相談技術、相談過程、コンサルテーション活動における倫理的側面、人間関係理解と多職種協働アプローチ  (75 井上倫恵／1回)  リハビリテーション分野におけるコンサルテーション  (75 井上倫恵・6 浅野みどり／1回) (共同)  リハビリテーション分野におけるコンサルテーション事例の検討  (64 土屋さやか・6 浅野みどり／2回) (共同)  母子保健におけるコンサルテーション事例の検討  (35 青石恵子・60 畠田盛光／2回) (共同)  精神科領域におけるコンサルテーションとリエゾン看護、精神科領域におけるコンサルテーション事例の検討  (33 淵田英津子／2回)  認知症高齢者看護におけるコンサルテーション事例の検討  (34 佐藤一樹／1回)  がん医療と看護におけるコンサルテーション  (34 佐藤一樹・59 竹野ゆかり／1回) (共同)  がん医療と看護におけるコンサルテーション事例の検討  (39 星野純子・67 藤井かし子／1回) (共同)  地域在宅看護・介護におけるコンサルテーション事例の検討  (39 星野純子・6 浅野みどり／1回) (共同)  コンサルテーション発表事例の振り返り</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
保健医療データ活用法入門	<p>近年はレセプト、検診、疫学調査などから電子化された大規模な多次元情報が入手されるようになり、それらを統合して疾病管理や予防に有効活用する研究の促進が期待されている。本講義ではデータベースの操作と統計解析の基礎的な手技や用法を学び、疫学的考察を通して社会への還元という意義を理解することを目的とする。また保健医療分野で汎用される無料解析ツール (R) の操作に慣れるよう演習形式も取り入れる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p>	オムニバス方式

		(18 近藤高明／4回) (7 玉腰浩司／4回) (50 松井佑介／3回) (32 中枋昌弘／4回)	
	保健医療技術概論	この講義の達成目的は(1)医療人としての倫理観を養う(2)研究に関する論理的思考を養う(3)医療従事者に求められる保健医療システムの多面性を理解する、ことである。この講義はオムニバス形式で実施する。  (オムニバス方式／全15回)  (14 今井國治／1回) アナログ画像とデジタル画像 (16 磯田治夫／1回) 脳と画像所見 (12 加藤克彦／1回) PET、核医学による画像診断 (42 砂口尚輝／1回) X線CT (40 小森雅孝／2回) 最新の放射線治療 (43 平野祥之／1回) 放射線シミュレーション (53 川浦稚代／1回) 医用放射線における被ばく (47 上山純／1回) バイオマーカーの臨床的意義と分析 (23 早川文彦／1回) 遺伝子変異と病態解析 (19 長坂徹郎／1回) 病理診断の実際 (27 杉浦英志／1回) 保健医療システム概論 (50 松井佑介／1回) データサイエンス概論 (24 山田純生／1回) 病気からみた医療システム (51 上村純一／1回) 病院・施設連携からみた医療システム	オムニバス方式
	基礎医科学実習	大学院での研究を遂行するに当たり求められる手技や手法の基礎的知識や解析原理について実習形式で学習する。運用されるコースの中から2コース以上を受講することで単位を認定する。  コース 1 脳磁場計測法の基本的原理 コース 2 細胞培養の基本技術 コース 3 MRIの原理の理解 コース 4 パラフィン切片標本作製法と免疫染色法の基本 コース 5 SPSSを用いた統計学実習(実践編) コース 6 DNA塩基配列解析の基本 コース 7 レーザー共焦点顕微鏡の基本操作 コース 8 実験動物を用いた毒物動態解析法の基本 コース 9 SDS-PAGE, Western blotting解析法の基本 コース10 リンパ球機能解析の基本 コース11 生体情報計測手法の基本 コース12 NGSデータを用いた腸内細菌メタゲノム解析の基本 コース13 ゲノムワイド関連解析による新規疾病関連遺伝子の探索手法の基礎 コース14 マウスジェノタイプング手法の基礎 コース15 マウス胎仔肝臓細胞からの巨核球分化誘導法の基本	
専門科目 I	コース共通科目	生命としてのヒトのメカニズムを、先端計測技術により得られる網羅的データを基軸として、ゲノムをはじめとした分子レベルから細胞、組織、個体レベルに至るまでを俯瞰的に学び理解し、さらに、創薬や診断、医療へと応用するために最低限必要な、主要疾患に対する病態や疾患発症メカニズムをデータ駆動の視点から多面的に学ぶことで、データ駆動型健康医科学の実践的な基礎概念を習得するとともにデータ解析に必要な基礎スキルの習得を目指す。また、生体情報計測技術や情報メディア技術を融合させたアプローチについても健康医療への橋渡しの観点から学ぶ。  (オムニバス方式／全15回)	オムニバス方式

	(50 松井佑介／5回) (32 中枅昌弘／5回) (18 近藤高明／5回)	
社会健康情報学特論	<p>社会・集団レベルでのヒトの健康理解と予防医療の開発に必要な大規模リアルワールドデータに基づく科学的エビデンスの構築方法についての習得を目指し、ゲノムをはじめとした分子レベルから細胞、組織、個体レベル、果ては社会レベルにいたるまでのあらゆる健康医療に関わるデータに対して、疫学、公衆衛生、医学・生物統計学およびインフォマティクスを融合させたアプローチの実践的概念とスキルを習得するとともに、それらの医療および社会実装へ向けたアプローチについて実践的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(32 中枅昌弘／5回) (50 松井佑介／5回) (18 近藤高明／5回)</p>	オムニバス方式
トータルヘルスプランナー特論	<p>I. 在宅医療を継続する人とその家族のニーズ、社会的背景を包括的に把握し、生涯にわたる健康生活の実現に向けて効果的な支援体制の形成と調整能力を養う。 II. 高齢者を中心として、対象者の生活を視野に入れたりハビリテーションの意義を理解し、生活の場に応じた健康的な生活を創出 (planning) し、具体的な援助を行うための視点および能力を養う。 III. 長期的な健康問題をもつ対象者の現状と課題について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(33 淵田英津子・75 井上倫恵／2回) (共同) 各専門職の役割、全体討議 (37 島明子／1回) 生涯を通じた女性の健康 (34 佐藤一樹／1回) 終末期の在宅療養 (39 星野純子／1回) 在宅看護における多職種連携 (12 加藤克彦／1回) 高齢者を中心とした核医学検査 (33 淵田英津子／1回) 認知症高齢者のアセスメントとケア (75 井上倫恵／1回) 高齢者に多い下部尿路機能障害に対するリハビリテーション (28 辛島千恵子／1回) 発達障害の作業療法 (24 山田純生／1回) 高齢者の健康管理指標-フレイル (27 杉浦英志／1回) 高齢者を中心とした運動器障害と健康生活 (22 佐藤光夫／1回) 高齢者の肺癌 (25 内山靖／1回) 高齢者を中心とした神経機能障害と健康生活 (30 飯高哲也／1回) 在宅医療における高齢者の心理とその理解 (79 吉田彬人／1回) 高齢者を中心とした物理的環境と健康生活</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

<p>トータルヘルスプランナー実践論</p>	<p>地域の様々な場面において想定されるトータルヘルスプランナーの実践的役割および課題解決の方略について、コミュニケーションその他の理論に基づき学ぶ。多職種間カンファレンスの模擬体験を通して自らの考えを探求する。</p> <p>(1) クライアントとその家族を中心としたプランニングの基本姿勢および患者・家族とのコミュニケーション能力、専門職間のコミュニケーション能力を養う</p> <p>(2) 協働のために、他の専門職種独自の視点や役割を理解し、相互に尊重できる。</p> <p>(3) チーム医療のあり方、専門職としての内省に基づき、チームとしての共通認識がもてる。</p> <p>(4) 多職種連携のアセスメントに基づいた患者目標を設定し、共有できる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (カンファレンス演習／全2日間集中)</p> <p>(6 浅野みどり／2回) クライアント・家族中心のケアと他職種連携</p> <p>(33 淵田英津子／2回) 相互尊重のためのコミュニケーションスキル</p> <p>(81 高井次郎／2回) 相互尊重のためのコミュニケーションスキル</p> <p>(103 影山葉子／2回) 臨床倫理上の課題と支援、倫理的感性を磨くエッセンスとケアリング</p> <p>(6 浅野みどり・33 淵田英津子・75 井上倫恵／7回) (共通) 多職種間模擬カンファレンス演習、模擬カンファレンスの実施、グループ発表と質疑応答</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部) 集中講義</p>
<p>保健学セミナー</p>	<p>(6 浅野みどり・33 淵田英津子・10 西谷直子) (共同)</p> <p>保健学セミナーは、研究活動や保健医療活動の最前線で活躍する学内外の講師を招いて開催される研究会や特別講義に参加して、幅広い立場の研究実践活動に触れることで、主体的に研究・実践活動を発展させることを目指す。</p> <p>超高齢社会での保健福祉のあり方を検討することを目的に月1回開催されている「ライフトピア連携研究会」や、保健学関連分野の最前線で活躍する研究者などによる特別講義(保健学セミナーとして指定した講義)など、学内外の講師を招いた幅広い視野からの研究実践報告を学ぶ</p>	<p>共同</p>
<p>アジアのヘルスケアシステム概論</p>	<p>(92 若林真美・89 里中綾子・63 中西啓介) (共同)</p> <p>現在の保健医療システムは、医療水準のみならず、人口動態、経済状況、文化など、様々な要因に影響を受け制度化されている。本概論は、日本を含めアジアにおける保健医療システムを多様な視点から概観する。アジアのウェルビーイング実現に向け、医療従事者に求められる保健医療システムの多面性を理解するとともに、そのシステムの中で国際的に活動する医療人としての人間性・社会性の基礎を涵養することを目的とする。</p>	<p>共同</p>
<p>ヘルスケア管理論</p>	<p>日本における 1) ヘルスケアの実態、2) 医療(ヘルスケア)専門職の教育や免許、3) ヘルスケア管理に関する厚生労働省の取り組みや薬物許可について、4) リスクマネージメントや感染症の予防やコントロールなど病院管理のアウトラインについて、及び 5) これらの点におけるアジア諸国の実態を理解することを目標とする。</p>	

看護学コース	看護教育論	<p>看護教育に関する基本的な概念および看護専門職教育の現状と課題についての理解を深め、今後の看護教育のあり方を展望する。また、学部授業の立案・実施を通して、効果的な看護教育方法について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(36 竹原君江／7回)</p> <p>看護職養成の歴史と看護教育制度の現状、看護教育に関する基本的な概念と教育環境、社会のニーズと看護施策、看護における裁量権と役割拡大</p> <p>(2 池松裕子／3回)</p> <p>教育学の基礎理論と看護基礎教育、看護教育課程の開発、看護の継続教育（スペシャリスト）</p> <p>(31 大島千佳／3回)</p> <p>看護教育における課題、看護の継続教育（ジェネラリスト）、授業の企画と授業案の作成</p> <p>(52 中山奈津紀／2回)</p> <p>看護教育方法、看護教育評価</p>	オムニバス方式
	看護理論	<p>実践科学としての看護理論についての意義を踏まえ、看護実践への必要性を理解し、看護実践における看護理論の活用と方法を探求するとともに、各種看護理論の特徴および実践との関係性の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 本田育美／9回)</p> <p>看護理論の発展の歴史とその特徴、看護実践における看護理論の意義、看護理論の構成要素と理論構築</p> <p>(2 池松裕子／4回)</p> <p>看護実践における看護理論とその活用方法</p> <p>(38 高橋由紀／2回)</p> <p>看護実践における看護理論とその活用方法</p>	オムニバス方式
	看護学研究方法論	<p>看護学研究の動向と研究の意義を踏まえ、看護研究を導く理論と概念枠組みの概略について理解を深めるとともに、看護研究方法の種類と概略についての知識を習得する。また、看護研究における倫理的配慮を理解し、看護の研究論文のクリティークに主体的に参加し、問題点を探求する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 西谷直子／5回)</p> <p>看護学研究の特徴と意義、研究の種類・倫理的課題、看護介入研究</p> <p>(6 浅野みどり／2回)</p> <p>質的研究(質的データの分析)、尺度開発研究</p> <p>(9 林登志雄／2回) 実験研究、調査研究</p> <p>(31 大島千佳／3回) 文献クリティーク</p> <p>(35 青石恵子／1回) 事例研究</p> <p>(52 中山奈津紀／2回) 文献クリティーク</p>	オムニバス方式
	看護管理論	<p>看護職の専門性の向上と社会的使命を考えながら、看護組織を管理運営し、他の専門職種との協同を推進するために必要な看護組織論、人的管理、看護マネジメント、看護の質評価、看護情報管理について理解し、研究・実践能力を養うことを目標とする。具体的には、医療・看護の質保証および看護・医療提供システム管理に関する研究の現状および国際的な動向、さらには、看護必要度に基づく人材管理、情報管理、職務規範、キャリア開発、リーダーシップ、調整、相談、関連法制、現任教育など、臨床実践能力をより高度にする理論や技術を体系的に学び、討議を深めながら医療・看護管理に関する研究能力および実践能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 太田勝正／3回)</p>	オムニバス方式



	<p>看護管理概説：看護管理とは、看護管理者に求められる資質とは、看護情報学について</p> <p>(82 三浦昌子／8回)</p> <p>看護管理の課題と今後の方向、病院看護管理論、看護管理組織と諸機能、業務管理、診療群分類別包括評価DPCの看護への影響と管理、看護組織の特徴、看護管理システム、リスクマネジメント</p> <p>(60 畠田盛光／1回)</p> <p>看護の質管理、看護サービスの標準化と質の評価、安全管理、EBN</p> <p>(39 星野純子／4回)</p> <p>起業（開業）看護経営と看護サービス、上級看護実践（認定看護師、専門看護師）におけるリーダーシップ、訪問看護ステーションにおける看護サービス管理、キャリア管理、高齢者療養施設における看護サービス管理、キャリア管理</p>	
フィジカルアセスメント	<p>複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床判断を行うために必要な知識と包括的なフィジカルアセスメント技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 安藤詳子・102 山内豊明／1回) (共同)</p> <p>フィジカルアセスメントの目的と意義</p> <p>(102 山内豊明／14回)</p> <p>フィジカルアセスメントの目的と意義、理論構築、基本的技法、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎泌尿器系、中枢神経系、感覚器系、運動系、フィジカルアセスメントの実践への適用/症状論(呼吸器系)、症状論(循環器・腎泌尿器系)、症状論(消化器系)、症状論(中枢神経系)、/症状論(感覚器・運動系)</p>	オムニバス方式 共同（一部） 集中講義
臨床薬理学	<p>様々な病気や症状に用いられる薬物について、その生体内動態を理解し、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(34 佐藤一樹／11回)</p> <p>在宅療養支援における薬物療法と安全管理・生活調整、スペシャルニーズをもつ患者（小児・虚弱者・内部障害者・高齢者など）に対する薬物療法支援における看護師の役割</p> <p>(3 安藤詳子／3回)</p> <p>医薬品の分類、血液系疾患の治療薬、悪性腫瘍の治療薬</p> <p>(91 加藤勝義／1回)</p> <p>臨床薬理学、薬物体内動態</p>	オムニバス方式
看護システム・ケア開発学特論	<p>看護科学における臨床・基礎研究の概要を知り、さまざまな健康レベルの対象に応じた看護実践の開発や課題解決のために、科学的解析方法や学際的研究法を学ぶことを目標とし、疾病管理および予防における看護ケア開発に関する基礎研究や、リンパ浮腫、睡眠障害、足病変といったトピックスに関わる看護ケア技術のエビデンス構築に向けた基礎研究についてオムニバス講義で学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 本田育美／3回)</p> <p>ガイダンス、疾病管理における健康行動</p> <p>(4 太田勝正／3回) 看護情報学</p> <p>(31 大島千佳／3回) 睡眠障害、リンパ浮腫</p> <p>(36 竹原君江／3回) 糖尿病患者の足病変</p> <p>(59 竹野ゆかり／1回) リンパ浮腫</p> <p>(63 中西啓介／1回) リンパ浮腫</p> <p>(58 間脇彩奈／1回) リンパ浮腫</p>	オムニバス方式

<p>高度実践看護開発学特論</p>	<p>急性期およびヘルスケアにおける高度実践者としての倫理観を養うとともに、臨床研究に関する論理的思考を養い、次代につながる高度実践看護について考察する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(2 池松裕子・68 橋本茜) (共同)</p> <p>生命危機状態にある患者の看護に関連する概念・理論を学び、高度実践看護への適用方法および、クリティカルケア看護の動向と課題について考察する。</p> <p>(3 安藤詳子・61 杉田豊子) (共同)</p> <p>がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアの基礎理論について講義と演習を行う。疼痛をはじめとした身体症状、精神症状、社会的問題、スピリチュアルな問題を全人的に理解し、それら症状・問題に対する緩和ケアとその看護の方略について探求する。</p> <p>(34 佐藤一樹・61 杉田豊子) (共同)</p> <p>がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアの基礎理論について講義と演習を行う。疼痛をはじめとした身体症状、精神症状、社会的問題、スピリチュアルな問題を全人的に理解し、それら症状・問題に対する緩和ケアとその看護の方略について探求する。</p> <p>(35 青石恵子/14回・60 畠田盛光/1回) (オムニバス)</p> <p>精神保健医療の歴史、制度を踏まえて現在の精神保健医療福祉における課題を追求し、精神的健康に関する知識や理論および対象者の心理・社会的問題、危機的状況におけるアセスメントや看護実践方法と研究のあり方を探求する。</p> <p>(52 中山奈津紀)</p> <p>高度実践看護を取り巻く医療システム、急性期およびヘルスケアにおける倫理的問題について学び、次世代に繋がる高度実践看護についてプレゼンテーション、ディスカッションを通して考察する。</p>	<p>複数開講 オムニバス (一部)</p>
<p>臨床がん看護学Ⅰ特論</p>	<p>(34 佐藤一樹・3 安藤詳子・61 杉田豊子) (共同)</p> <p>がん看護分野において活用される主な理論について学び、実践への適応に向けて、具体的に事例を検討し、がん看護実践の質の向上を目指した理論の活用を習得する。</p>	<p>共同</p>
<p>臨床がん看護学Ⅱ特論</p>	<p>(3 安藤詳子・34 佐藤一樹・61 杉田豊子) (共同)</p> <p>がんの診断、治療(手術療法・放射線療法・化学療法・造血幹細胞移植等)の最新知見を学び、集学的治療を受ける患者とその家族の反応に対処できるように、身体管理と看護の専門性を卓越していく援助法を学ぶ。緩和ケア・終末期ケア・代替医療の国際的動向と発展を踏まえ、患者の栄養管理、がんサバイバーと家族・遺族へのサポートについて、支援の方法を学び、スペシャリストとしての役割を担うあり方を探求する。</p>	<p>共同</p>
<p>がん看護病態生理学</p>	<p>発がんのメカニズム、がんの病態生理、診断と治療、臨床薬剤の効果とリスクならびに致命的になりうる合併症の発生機序、分子生物学、遺伝学、がん予防について専門的知識を深め、がん患者の病態アセスメント、症状マネジメントと回復過程ならびに終末期への援助能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(34 佐藤一樹・3 安藤詳子・61 杉田豊子/14回) (共同)</p> <p>がんの発生と予防、がんの病理と検査、がん検診、がん手術療法、がん薬物療法、がんとリハビリテーション、がん栄養学、がんとソーシャルワーク、がんと心理支援、がんと看護</p> <p>(90 安藤雄一/1回)</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>

	がんの薬物療法：総論	
次世代育成看護学特論Ⅰ	<p>次世代を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の実現に向けての課題を明らかにし、その課題を解決するために必要な看護の理論、知識を修得する。特に周産期医学、小児看護学、家族看護学、助産学の視点から見いだされた方策を融合し、実践するための必要な知識と技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 玉腰浩司／2回) 胎内環境と出生以後の健康</p> <p>(6 浅野みどり／4回) 家族のライフサイクルと子どもと家族中心のケア、子どもと家族のWell-beingと予防的支援</p> <p>(8 入山茂美／2回) 母乳育児と母子の健康、子どもの予防接種と母子手帳の役割</p> <p>(37 島明子／2回) 女性のライフサイクルと健康課題、周産期看護・女性看護学における看護理論および看護モデル</p> <p>(38 高橋由紀／2回) 周産期のケアと新生児の胎外生活適応、周産期のケアと母親役割獲得過程</p> <p>(66 加曾利美香／1回) 小児医療における多職種連携</p> <p>(64 土屋さやか／1回) 健康の社会決定要因への周産期のアプローチ</p> <p>(65 足立智美／1回) 育児期の母親のメンタルヘルス</p>	オムニバス方式
次世代育成看護学特論Ⅱ	<p>小児看護学の知見及び看護実践を発展するための基盤となる処理論を学び、子どもと家族中心の小児看護学における健康の概念および各発達段階における対象理解、看護の役割、看護の目標を明確化する。</p>	
母子援助論	<p>周産期にある女性と子どもをとりまく健康生活と健康問題の特性および家族を形成していく過程を中心に、生活・健康上の変化や健康問題の特性と家族との関係性を理解し、助産診断に基づく援助方法を立案する。また、病院および診療所の施設特性と役割を理解し、地域で暮らす母子や家族に必要な協力・連携の意義を考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(8 入山茂美／1回) 出産・育児期の家族ケア</p> <p>(108 中井恵美／1回) 母子保健政策と地域育児支援</p> <p>(64 土屋さやか／1回) 心理社会的ハイリスク妊産婦と家族に対するケア</p> <p>(65 足立智美／1回) 母子のメンタルヘルス・産後うつ</p> <p>(37 島明子／1回) 乳幼児虐待の予防と早期発見</p> <p>(38 高橋由紀／3回) 地域子育て支援の実際</p>	オムニバス方式
ウィメンズヘルス論	<p>ヘルスプロモーションの見地から、ウィメンズヘルスと地域社会との関連性、女性の意思決定とヘルスリテラシーの関連性、エイジングと生涯を通じた女性の健康について理解を深め、今後のケアの方向性を検討し、①理論的基盤および最新研究結果をもとに、女性の健康に関する多様なトピック、②女性の健康と地域社会・文化との関連性、③女性の健康と女性のヘルスリテラシーや意思決定との関連性などを説明することができることを目標とする。</p>	

<p>国際母子保健 I</p>	<p>助産師として在日外国人母子への支援活動ができるようになるために、必要な国際母子保健、国際機関の保健施設に関する基礎的知識を学び、さらに在日外国人母子が直面している問題や課題について理解を深めるために、事例を用いた支援活動を考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 入山茂美/7回)</p> <p>国際母子保健に関する概念、国際機関の母子保健施策、在日外国人母子の現状、在日外国人母子への助産ケア、子育て支援、外国人妊婦への保健指導、外国人産婦への分娩ケアについて考察する。</p> <p>(106 坂本真理子/1回)</p> <p>在日外国人母子の抱える現状を事例を通して考察する。</p>	<p>オムニバス方式 集中講義</p>
<p>国際母子保健 II</p>	<p>国際的視野を持って助産師として母子への支援活動を展開するために、国際保健医療や国際母子保健に関する基礎知識を習得し、世界の母子保健の現状と課題、特に開発途上国で暮らす母子の抱える問題や課題とその対策について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 入山茂美/7回)</p> <p>開発途上国の妊産婦の健康改善の課題と対策、新生児と乳幼児の死亡とその原因、乳幼児の健康改善と対策、母子感染予防</p> <p>(107 柳澤理子/1回)</p> <p>世界における母子保健指標と統計、世界における母子保健の動向</p>	<p>オムニバス方式 集中講義</p>
<p>地域包括ケア開発看護学特論 I</p>	<p>地域看護学の理論的基盤、構成する概念を理解し、地域の健康問題の現状を概観し、看護活動と今後の課題について展望する。地域保健活動に必要な研究の基礎知識、地域看護活動における疫学研究、地域看護活動と科学的根拠、文献レビューの意義と方法を通じて、地域看護活動方法の理論と応用について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 西谷直子/11回)</p> <p>地域保健活動に必要な研究の基礎知識、地域看護活動における疫学研究、質的研究、地域看護活動と科学的根拠、エビデンスに基づいた保健師活動の実際</p> <p>(69 田村晴香/1回)</p> <p>エビデンスに基づいた保健師活動の実際</p> <p>(10 西谷直子・69 田村晴香/3回) 共同 文献検索と発表</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p>地域包括ケア開発看護学特論 II</p>	<p>医療依存度の高い患者の個別状況に応じた支援と的確な在宅医療・看護を提供するために、在宅医療システムと訪問看護、家族介護、活用すべき社会資源、医療、福祉機器などについて幅広く学び、要支援患者の訪問看護制度やライフサイクルに応じたケアマネジメントについて理解を深める。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(39 星野純子)</p> <p>病気や障害を持ちながら在宅で療養し、介護を必要とする人々に対するライフサポートについて学び、その支援者としての看護師、保健師、医師ならびに関係職種の専門的・社会的役割について認識を深め、上級看護職としての実践と研究能力を高めることを目標とする。</p> <p>(33 淵田英津子)</p>	<p>複数開講</p>

		<p>高齢者の健康と生活を包括的に評価するために重要と思われる主用概念と理論、評価尺度、サポートシステムを学び、高齢者の特性に応じた効果的な実践と教育のあり方を探求する。</p> <p>(9 林登志雄)</p> <p>在宅看護を受ける患者層（多くは高齢者）の疾病を1)寝たきりの原因としての脳血管障害、骨折、認知症等、2)生命予後を左右する悪性腫瘍、虚血性心疾患、脳血管障害、呼吸器疾患等、3)以上の疾患の基礎疾患及び併発症である生活習慣病、特に、糖尿病、高血圧、脂質異常症や老年症候群（骨粗しょう症、尿失禁、転倒等）について文献を検討し自己の研究テーマを明確にする基礎力を身につける。</p>	
医療技術学コース	医用画像工学特論	<p>画像診断では、X線CT、MRI等の多くの医用画像が用いられている。臓器別・疾患別にそれぞれの医用画像の果たす役割について理解を深めるとともに、医用画像分野における各種画像の特徴、生成過程について理解を深める。さらには、コンピュータ支援診断技術や医用画像撮影時の被ばくに関しても理解を深め、医用画像に関わる総合的な知識を習得することで、医用画像工学分野における研究に必要な基礎学力を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 磯田治夫／4回)</p> <p>画像診断</p> <p>(44 小山修司／4回)</p> <p>進化する放射線診断機器に対する線量評価、医療診断領域の被ばく線量評価、実効線量のモンテカルロシミュレーションと実測、医療被ばく関連の近年の話題</p> <p>(42 砂口尚輝／4回)</p> <p>画質の改善や画像の再構築を含む画像処理、コンピュータ支援診断技術</p> <p>(70 福山篤司／3回)</p> <p>MR装置を用いた水分子の拡散現象と血流情報のイメージング技術</p>	オムニバス方式 隔年開講
	医用画像解析学特論	<p>医用画像分野における各種画像の特徴、生成過程について理解を深め、画像の演算、画質の改善や画像の再構築を含む画像処理、さらには医用画像による診断技術や医用画像撮影時の放射線被ばく等の画像情報学分野の基礎的諸課題の研究遂行のために必要な内外の関連文献の精読・討論・まとめを通して問題意識を明確にし、研究の倫理性、論理、計画立案、技術開発、実験、解析、まとめ等の方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(14 今井國治／4回)</p> <p>静止画、動画、画像館の演算、圧縮技術</p> <p>(11 島本佳寿広／3回)</p> <p>画像診断</p> <p>(53 川浦稚代／4回)</p> <p>放射線診断画像と線量</p> <p>(54 藤井啓輔／4回)</p> <p>放射線画像の画質評価、シミュレーション線量評価</p>	オムニバス方式 隔年開講
	医用量子科学特論	<p>放射線治療では生物学的効果を取り入れた最適な線量分布が望まれ、それに最も近い線量分布をもたらす照射の方法・条件が、十分に検討された後決定される。また、線量は種々の方法で測定・計算されるが、科学的論理性に基づいた測定による実証が不可欠である。放射線治療に関連した領域について、最新の具体的な成果について紹介するとともに、今後の発展の可能性についても討論することで、研究者に必要な「科学的論理性」や「創造力」を養うことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 山本誠一／4回)</p>	オムニバス方式 隔年開講

	<p>放射線計測とシステム機器の概要、計算型検出器、平面画像検出器、放射線計測学</p> <p>(41 小口宏/4回)</p> <p>放射線計測学、体幹部定位放射線治療、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療</p> <p>(40 小森雅孝/4回)</p> <p>粒子線治療、粒子線の線質解析、生物学的効果比、相互作用の確率</p> <p>(71 余語克紀/3回)</p> <p>放射線の特性と放射線治療法、放射線治療の測定器と品質保証、放射線治療の進展</p>	
医用機能画像評価学特論	<p>画像上に表現された形態から異常な病変部位を診断するのが画像診断であるが、本講義では放射性物質を生体に投与し生体内の動態を検査することによって診断する方法について概説する。また、放射性医薬品の特性についても最新の知識を学ぶ。さらにはシミュレーション技術による放射線計測システムや放射線カウンセリングについて理解を深めることで、核医学について自習することができる基礎学力を習得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 加藤克彦/5回)</p> <p>脳神経核医学検査、内分泌核医学検査及び治療、呼吸器・循環器・消化器核医学検査、泌尿器・骨・関節核医学検査</p> <p>(15 古川高子/5回)</p> <p>医療に用いられる放射性化合物</p> <p>(43 平野祥之/5回)</p> <p>シミュレーションの基礎、シミュレーション環境の構築、シミュレーションの演習、データ解析</p>	オムニバス方式 隔年開講
医学物理学特論	<p>医学物理士として必要な放射線医学物理学の知識と関連する技術的な知識を習得させる。放射線の基礎物理から、物質との相互作用と線量分布の特性を理解し、各放射線に適した放射線治療への応用とその背景を学ぶ。また各放射線を用いた典型的な放射線治療法を、照射技術と治療計画から理解する。医学物理士の臨床業務で必要となる、治療機の構造と品質管理項目、治療計画装置の動作原理と操作法、線量測定機器とデータ解析法を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(40 小森雅孝/4回)</p> <p>放射線の基礎物理、X線の特性と治療への応用、電子線/小線源の特性と治療への応用、陽子線/炭素泉/中性子線の特性と治療への応用</p> <p>(41 小口宏/2回)</p> <p>放射線治療関連装置・機器、線量校正</p> <p>(43 平野祥之/4回)</p> <p>放射線治療計画装置(補正計数を用いた線量計算/モデルベースの線量計算、モンテカルロ法/粒子輸送方程式)、放射線治療計画手法(通常照射、体積定義、線量分布解析、強度変調放射線治療/定位照射)</p> <p>(71 余語克紀/5回)</p> <p>放射線治療計画手法(電子線/小線源/その他の特殊な治療、陽子線/重粒子線/中性子線治療)、線量分布検証(検出器の種類とガンマ解析)、品質保証・品質管理</p>	オムニバス方式

放射線腫瘍学特論	<p>医学物理士として必要な放射線腫瘍学の基礎を学び、臨床に入った際に、放射線腫瘍医からの指示の背景を理解し議論できるように、医学知識や標準的な放射線治療法を体系的に習得する。まず放射線腫瘍学総論として、腫瘍全般と放射線治療について共通する基礎知識を学び、全体像を理解する。また放射線治療技術と方法として、放射線治療機や照射技術の進展を学ぶ。最後に、放射線治療の適応を各部位ごとに各論として学び、治療の背景と目的/照射方法/標的と処方線量/リスク臓器と耐用線量/有害事象などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(97 伊藤善之/3回) 放射線腫瘍学総論、放射線治療技術と方法</p> <p>(98 大宝和博/3回) 放射線治療技術と方法、脳神経</p> <p>(99 岡田徹/3回) 頭頸部、呼吸器、乳腺</p> <p>(100 川村麻里子/3回) 消化器、泌尿器、婦人科</p> <p>(101 伊藤淳二/3回) 骨軟部、造血器、小児</p>	オムニバス方式
生体防御情報科学特論	<p>感染症、がん、免疫疾患の発症機構には、遺伝要因、環境要因など複数の要因が関与する。その発症機構に関わる要因について分子レベルでの分析法について学び、また得られた膨大な分子情報の統合解析法を取り上げ、文献的な考察のもと議論検討することで科学的論理性を涵養することを目的とする。この講義を通して現代社会の中に存在する臨床検査学のさまざまな局面や問題点を倫理的な側面をも考慮して考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(17 川部勤/5回) 免疫疾患の発症機構について</p> <p>(22 佐藤光夫/1回) 発がんの原因について</p> <p>(45 川村久美子/5回) 薬剤耐性菌の耐性機序について</p> <p>(47 上山純/2回) オミクス解析手法について</p> <p>(55 松島充代子/2回) 外的要因による免疫修飾機構について</p>	オムニバス方式
病態情報科学特論	<p>疾患の病態解明は、生理学的手法や病理学的手法に加えて細胞、分子および遺伝子レベルの解析手法を併用して多面的な解析を行うことにより急速に進歩している。本特論では、形態・機能解析に関する臨床および基礎的な生理学および病理学的解析手法について学び、疾患の発症・進展のメカニズムを解明するための研究手法についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 永田浩三/5回) 循環器疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた生理学的解析技術</p> <p>(19 長坂徹郎/5回) 生殖器、造血器疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた分子病理学的解析技術</p> <p>(48 川井久美/1回) 神経内分泌腫瘍の発症・進展のメカニズム解明に向けた病理学的解析技術</p> <p>(72 橋本克訓/2回) 組織診断、細胞診における新しい病理形態学的解析技術</p>	オムニバス方式

		(74 内仲彩子/2回) 代謝疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた分子生理学的解析技術	
	細胞遺伝子情報科学特論	遺伝子の異常はその遺伝子がコードする蛋白の機能の障害を通して細胞の機能の障害を引き起こす。遺伝性疾患や腫瘍のほとんどは遺伝子の異常によっておきている。それ以外の疾患でも遺伝子の異常が何らかの形で発症に関与している疾患は多い。本特論では血液疾患を中心として遺伝子の異常が疾患の発症につながるメカニズム、および疾患の遺伝子の異常を解析する手法についての具体例を学び、理解を深める。  (オムニバス方式/全15回)  (23 早川文彦/5回) 造血器腫瘍と遺伝子異常  (73 田村彰吾/2回) 遺伝性血液疾患と遺伝子異常  (22 佐藤光夫/4回) 呼吸器疾患と遺伝子異常  (48 川井久美/4回) 腫瘍と遺伝子異常	オムニバス方式
	生体分子情報科学特論	健康障害の発生、疾患の発症・進展には多様な環境要因や宿主要因が関与している。本特論では、消化器系、神経系疾患を中心に、その発症・進展に関与する環境要因、宿主要因について分子レベルでの様々な分析技術について学ぶとともに、得られた膨大な分子情報の統合解析技術について学んでいく。さらに、疾患に関与する環境要因、宿主要因の分子レベルでの相互作用やこれらの要因が疾患の発症・進展をどのように修飾するかについての具体例を学び、疾患の発症機序、病態進展機構を解明するための手法について理解を深めることを目標とする。  (オムニバス方式/全15回)  (21 石川哲也/5回) 消化器系疾患の発症・進展機序解明に向けた分子解析技術  (46 平山正昭/5回) 神経系疾患の発症・進展機序解明に向けた分子解析技術、腸内細菌叢解析法  (47 上山純/3回) 疾患発症・病態進展に関わる環境要因の解明に向けた化学分析  (56 林由美/2回) メタボロミクスの原理とデータ解析法	オムニバス方式
リハビリテーション療法学コース	リハビリテーション療法学特論Ⅰ	リハビリテーション療法学療領域の学位指定必修科目である。リハビリテーション療法学の中でも理学療法領域の臨床・基礎研究の概要を知り、理学療法学の科学的解析方法や、臨床における課題解決方法を学ぶことを目標とする。概要としては、理学療法領域における、内部障害・神経疾患・筋骨格器疾患・ガン・女性疾患および予防におけるリハビリテーション臨床研究や、リハビリテーションに関わる疾患病態の発症メカニズム解明といった基礎研究内容について、オムニバス講義で学ぶ。  (オムニバス方式/全15回)  (24 山田純生/2回) 内部障害・予防 (25 内山靖/2回) 神経疾患 (26 亀高諭/2回) 骨格筋生理と筋形成のメカニズム、骨格筋疾患発症の分子機序  (27 杉浦英志/2回) がんリハビリテーション  (49 李佐知子/2回) 痙縮研究にむけて、脳梗塞痙縮発症モデルの確立、痙縮発症メカニズムと新規治療法の開発に向けて	オムニバス方式 共同(一部)



		<p>(75 井上倫恵/2回) 女性疾患</p> <p>(76 長谷川隆史/1回) 筋骨格器</p> <p>(76 長谷川隆史・77 足立拓史/1回) (共同) 筋骨格器・内部障害、予防</p> <p>(77 足立拓史/1回) 内部障害・予防</p>	
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ	<p>リハビリテーション療法学作業療法領域の学位指定選択科目である。リハビリテーション療法学の中でも作業療法領域の臨床・基礎研究の概要を知り、作業療法学の科学的解析方法や臨床における課題解決方法を学ぶことを目標とする。概要としては作業療法領域における、コミュニケーション障害・発達障害・精神障害・整形疾患におけるリハビリテーション臨床研究、およびリハビリテーションに関わる生理、病理の理解といった基礎研究内容についてオムニバス講義で学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 辛島千恵子/2回) 発達障害児・者のための生活支援技術論</p> <p>(30 飯高哲也/2回) 機能的磁気共鳴画像 (fMRI) の理解と神経科学研究</p> <p>(29 千島亮/2回) 生活支援技術と生体信号応用概論、まとめ</p> <p>(1 寶珠山稔/2回) 神経生理学とリハビリテーション医学</p> <p>(51 上村純一/2回) リハビリテーション医学と脳機能研究</p> <p>(57 星野藍子/2回) 精神科作業療法研究の理論と研究倫理</p> <p>(78 五十嵐剛/1回) 発達障害と運動機能</p> <p>(79 吉田彬人/1回) 急性期リハビリテーション研究法</p>	オムニバス方式
	リハビリテーション研究実践セミナー	<p>(24 山田純生・25 内山靖・27 杉浦英志・26 亀高論・29 千島亮・28 辛島千恵子・1 寶珠山稔・30 飯高哲也・49 李佐知子・51 上村純一・57 星野藍子・75 井上倫恵・76 長谷川隆史・77 足立拓史・78 五十嵐剛・79 吉田彬人) 共同</p> <p>リハビリテーション療法学の学位指定必修科目である。各自の研究内容についてプレゼンテーションを行い、充分なディスカッションを行うことにより、研究を推進するとともに、専門性や研究実践能力を高めることを目的とする。特に、普段接する機会の少ない、他の研究室の教員や学生と議論や交流を深めることにより、幅広い視点での考察や討論、倫理性や科学的論理性の理解ができるようになることをねらいとする。</p> <p>特別セミナー 研究室交流セミナー 中間発表会</p>	共同・集中
専 門 科 目 Ⅱ	コ ー ス 共 通 科 目	<p>生命情報学実習</p> <p>ヘルスケア情報科学における生命人間情報健康医療学、先端計測情報健康医療学、それぞれの分野における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式により修得することを目的とし、ゲノムをはじめとした分子レベルから細胞、組織、個体レベルまでの生命としてのヒトに関わる多種多様なデータ、医療機器から消費者向けデバイスまでを含む最先端テクノロジーによって得られる多種膨大なデータなどに基づくデータ駆動型健康医療学への応用演習を行い、実践的な課題解決を通じて、必要な概念とデータ解析技術を習得することを目標とする。</p>	

	<p>社会健康情報学実習</p> <p>ヘルスケア情報科学における実社会情報健康医療学、先端メディア情報健康医療学、それぞれの分野における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式により修得することを目的とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(32 中枋昌弘)</p> <p>本実習では、社会・集団レベルでのヒトの健康理解と予防医療の開発に必要な大規模リアルワールドデータに基づくデータ駆動型健康医療学についての応用演習を行い、実践的な課題解決を通じて、必要な概念とデータ解析技術を習得することを目標とする。</p> <p>(18 近藤高明)</p> <p>本実習では、人と社会と医療を有機的に相互連携させる情報メディア技術を融合させたヘルスケア技術、自己健康管理をサポートするための人工知能技術の検証を通じて、健康医療学への応用演習を行い、実践的な課題解決を通じて、必要な概念とデータ解析技術を習得することを目標とする。</p>	<p>複数開講</p>
<p>看護学コース</p>	<p>看護システム・ケア開発学セミナー</p> <p>(5 本田育美・4 太田勝正・36 竹原君江・31 大島千佳・59 竹野ゆかり・63 中西啓介・58 間脇彩奈) (共同)</p> <p>看護システム・ケア開発学特論で学んだ領域における文献抄読・レビューをもとに、その領域の学問水準や研究課題を明らかにするとともに、自らの研究テーマを明確化し、研究デザインを立案できることを目標とし、多分野に亘る文献の抄読を通して、関連する研究論文のまとめを提示するとともに、研究における課題（臨床疑問など）の立て方、研究デザイン毎の研究目的、研究方法についての視点や研究遂行に際しての具体的方法論を学ぶ。</p>	<p>共同</p>
	<p>看護システム・ケア開発学実習</p> <p>(5 本田育美・4 太田勝正・36 竹原君江・31 大島千佳・59 竹野ゆかり・63 中西啓介・58 間脇彩奈) (共同)</p> <p>専門性を備えた研究実践能力と研究推進力を獲得するために、看護システム・ケア開発学セミナーで取り上げた研究課題に関して、課題解決に向け高い倫理性と科学的論理性を有した研究計画を作成し、分析に必要な解析方法を理解することを目標とし、研究課題に対して、研究方法における留意事項（対象の選択、方法の妥当性、倫理的配慮等）を踏まえた研究計画を作成するとともに、的確な解析方法を学ぶ。</p>	<p>共同</p>
	<p>高度実践看護開発学セミナー</p> <p>高度実践看護開発学分野の特別研究を専攻するにあたって、この領域に関する文献クリティークを中心にした検討等を行い、その領域の学問水準を明らかにするとともに、自己の研究テーマを明確にし、選択したテーマを研究するための方法について検討を行い、研究計画書を作成する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(2 池松裕子・68 橋本茜)</p> <p>研究領域に関する文献クリティークを中心に学生がプレゼンテーションを行い、討議によって理解を深め、研究課題を明らかにしていく。プレゼンテーションは各自が資料を調べ、授業に備えて準備する。明らかになった研究課題について、遂行可能な研究計画書を作成する。</p> <p>(3 安藤詳子・61 杉田豊子) 共同</p> <p>がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアの発展的内容について講義と演習を行う。治療期の支持療法、意思決定支援、補完代替療法、家族・遺族ケア、在宅緩和ケアなど、がんの診断後早期から終末期までの幅広くかつ専門的なテーマについて学び、がんやその治療に関連する苦痛症状や問題に対する緩和ケアとその看護の方略について探求する。</p>	<p>複数開講 共同（一部）</p>

	<p>(34 佐藤一樹・61 杉田豊子) (共同) がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアの発展的内容について講義と演習を行う。治療期の支持療法、意思決定支援、補完代替療法、家族・遺族ケア、在宅緩和ケアなど、がんの診断後早期から終末期までの幅広くかつ専門的なテーマについて学び、がんやその治療に関連する苦痛症状や問題に対する緩和ケアとその看護の方略について探求する。</p> <p>(35 青石恵子) 精神保健医療福祉分野における国内外の文献クリティークと看護実践における事例検討を合わせて行い、各自の研究課題を明確にする。</p> <p>(52 中山奈津紀) 国内外の実践報告や論文を読み、高度実践看護を深く理解し、新たな課題を捉え、その課題を解決するための研究課題を焦点化する。</p>	
高度実践看護開発学実習	<p>高度実践看護開発学セミナーで明確にした自身の課題あるいは研究テーマに沿った実習計画を立て、隣地実習を行い、体験を通して学ぶ。選択したテーマに関する知見、あるいは研究過程で得られた知見と実態とを結びつけて検証する。実習終了後には、計画に沿ったレポートを提出し、必要に応じて実習場所で報告会を開催する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(2 池松裕子・68 橋本茜) 生命危機状態にある患者・家族の身体/心理状態を把握し、回復促進およびQOL 向上のための看護援助を実践する。また、これらの患者・家族に看護を提供する看護師に有用な教育プログラムを開発する。</p> <p>(3 安藤詳子・61 杉田豊子) 臨床疑問に基づいたがん看護・緩和ケア・慢性期看護学における最新の学術論文を検索し、それを精読することによって、最新のエビデンスを収集する技術およびそれを解釈し、臨床に活用するための方策について学ぶ。</p> <p>(34 佐藤一樹・61 杉田豊子) 臨床疑問に基づいたがん看護・緩和ケア・慢性期看護学における最新の学術論文を検索し、それを精読することによって、最新のエビデンスを収集する技術およびそれを解釈し、臨床に活用するための方策について学ぶ。。</p> <p>(35 青石恵子) 精神保健医療福祉のフィールドでの活動、精神看護におけるアセスメント理論等の演習を通して、自らの研究課題について焦点を明確にする。</p> <p>(52中山奈津紀) 各健康のステージにおける実践の場において、新たな高度実践看護を生み出すための洞察力を養い、第1次予防から第3次予防における高度実践看護の可能性を考察する。</p>	複数開講 共同 (一部)
臨床がん看護学セミナー I	<p>(34 佐藤一樹・3 安藤詳子・61 杉田豊子) (共同)</p> <p>緩和ケアに特定専門領域を焦点化し、がんの診断早期における緩和ケア導入の重要性を理解し、治療に関する意思決定支援を学び、がん治療によって生じる苦痛症状の予防・早期発見・早期対処ができるような質の高いエビデンスに基づいた援助法の開発や実践ができる能力を養う。また、補完代替療法の活用を理解する。</p>	共同

臨床がん看護学セミナーⅡ	(34 佐藤一樹・3 安藤詳子・61 杉田豊子) (共同)  緩和ケアに特定専門領域を焦点化し、がん部位別の罹患数・死亡数の現況と傾向を理解し、がん部位別に治療開発に関する最新情報を基に、看護支援の特徴を理解し実践できる能力を養う。	共同
臨床がん看護学セミナーⅢ	緩和ケアに特定専門領域を焦点化し、終末期医療の歴史的発展の経緯を踏まえ、現代における課題を明確にした上で、がんによる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合し適切に援助できる方略を学ぶ。また、家族のグリーンワークについて理解し、End of Life Careのあり方を探求する。  (オムニバス方式/全30回)  (3 安藤詳子・34 佐藤一樹・61 杉田豊子/22回) (共同) 日本における終末期ケアと緩和ケアの発展、がん患者の症状マネジメントモデル、メカニズムアセスメント/倦怠感、胸膜水・電解質異常、呼吸困難、せん妄、セデーション、患者の社会的苦痛に対する援助、スピリチュアル・ペインに対する援助、がん患者に対する現象学的アプローチ (104 下山理史/2回) 消化器症状/メカニズム・アセスメント・事例検討  (95 山本陽子/2回) がん性疼痛/メカニズム・アセスメント・事例検討 (96 原万里子/2回) 終末期患者と家族の心理および看護援助課程/ケアリングの実践 (105 澤井美穂/2回) 不安と抑うつ/メカニズム・アセスメント・事例検討	オムニバス方式 共同 (一部)
臨床がん看護学課題実習Ⅰ	(3 安藤詳子・34 佐藤一樹・61 杉田豊子) (共同)  がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身につける。 第Ⅰ段階：県がん診療連携拠点病院において、CNSとがん治療専門医の助言のもと、がん患者の病態・フィジカルアセスメント・症状マネジメントにおける薬剤調整等のキュアにおける知識を深めて、患者に適したケア技術を用いて実践役割を中心に実習する。	共同
臨床がん看護学課題実習Ⅱ	(34 佐藤一樹・3 安藤詳子・61 杉田豊子) (共同)  がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身につける。 第Ⅱ段階：経験豊かながん看護CNSが所属する病院において、医療チームによるキュアに関する知見を理解して、直接CNSから指導を受け6つの役割について学ぶ。加えて、学内における緩和デイケア・サロンの場を体験して、がんサバイバーへの支援について学ぶ。	共同

臨床がん看護学課題実習Ⅲ	<p>(3 安藤詳子・34佐藤一樹・61 杉田豊子・90 安藤雄一) (共同)</p> <p>がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身につける。</p> <p>第Ⅲ段階：本学の附属病院(がん診療連携拠点病院)において、CNSとがん治療専門医の助言のもと、先進的ながん治療や治験等の実際を知ってキュアに関する知見を深め、自らがCNSとしての6つの役割を担うように実習する</p>	共同
臨床がん看護学課題実習Ⅳ	<p>(3 安藤詳子・34 佐藤一樹・61 杉田豊子) (共同)</p> <p>がん患者と家族の疾病・療養上の問題に対して、入院ケアから在宅ケアまでエビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・的確な臨床判断を用いて、ケアとキュアを融合した質の高い看護援助の実践および看護援助法の開発ができるような能力を段階的に身につける。</p> <p>第Ⅳ段階：名古屋市内の訪問看護ステーションにおいて、かかりつけ医や訪問看護認定看護師、ケアマネージャなどに関わり、在宅療養するがん患者への支援について学ぶ。</p>	共同
次世代育成看護学セミナー	<p>次世代を担う子どもとその家族の健康問題やトピックスおよび解決策を文献抄読、事例検討、グループワークを通して学び、今後の研究課題を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 玉腰浩司/3回) 胎内及び出生後早期の環境と成人期の生活習慣病に関しての文献抄読、事例検討、グループワーク、発表などを通して研究課題を検討する。</p> <p>(38 高橋由紀/3回) ボンディング、抑うつ傾向を示す母親に対する多職種連携に関する文献抄読、事例検討、グループワーク、発表などを通して研究課題を検討する。</p> <p>(6 浅野みどり/3回) 慢性疾患/障がいもつ子どもと家族中心の看護に関する文献抄読、事例検討、グループワーク、発表などを通して研究課題を検討する。</p> <p>(8 入山茂美/3回) 思春期女性のリプロダクティブヘルスに関する文献抄読、事例検討、グループワーク、発表などを通して研究課題を検討する。</p> <p>(37 島明子/3回) 地域における女性の健康課題と社会環境要因に関する文献抄読、事例検討、グループワーク、発表などを通して研究課題を検討する。</p>	オムニバス方式
次世代育成看護学実習	<p>次世代育成看護学セミナーで明確にした自身の課題あるいは研究テーマに沿った文献等を収集し、クリティークを行い、自身の研究課題を明確にし、研究計画の立案を行う。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(6 浅野みどり) 慢性疾患や発達障害をもつ子どもと家族を対象に、子どもと家族を尊重し、子どもや家族がもつ強みを重視したアセスメント能力、看護実践能力および看護を評価、発展させる能力の向上を目的とする。</p>	複数開講

	<p>(8 入山茂美) ウイメンズヘルスにおける研究課題について、文献によるクリティークを行い、自身の研究課題を見つけ、演習、実習を通じ、適切な研究方法を用いて研究課題に取り組み、新たな知見を修得する。</p> <p>(7 玉腰浩司) 研究課題に関連した文献等を収集した上で、疫学研究に必要な資料を準備するとともに、分析に必要な統計学的知識及び統計ソフトの使用方法を学ぶ。</p> <p>(38 高橋由紀) 妊産褥婦および家族の抱える看護実践上の課題について、看護実践の向上に向けた研究計画の立案、統計解析ができる能力を養う。</p> <p>(37 島明子) Women's Health およびreproductive healthについて、先行研究の検討、演習や実習を通じて、研究課題の明確化、概念モデルの構築、研究方法の設計、研究計画の立案を行い、研究の基礎的能力を養う。</p>	
地域包括ケア開発看護学セミナー	<p>地域包括ケア開発看護学分野の特別研究を専攻するにあたって、この領域に関する文献クリティークを中心とした検討等を行い、その領域の学問水準を明らかにするとともに、自己の研究テーマを明確にし、選択したテーマを研究するための方法について検討を行い、研究計画書を作成する。</p> <p>(複数開講) (10 西谷直子/8回) (10 西谷直子・69 田村晴香/7回) 共同 地域看護活動方法の理論と応用、公衆衛生活動に必要な疫学的研究方法の基礎を理解し、実際問題への適用および、地域看護診断の理論と実際を学ぶ。</p> <p>(9 林登志雄) 本邦の急速な高齢化を背景に、急性期から終末期に至るまでの患者の状態及び介護体制を踏まえた今後の在宅看護について自ら情報を検索し、可能な範囲で実習体験もを行い、研究、発表する。患者家族、医師や介護スタッフ、ケアマネージャー等との協働及び、発展する医学研究を生かした訪問看護について研究する。</p> <p>(33 淵田英津子/14回) (33 淵田英津子・62溝江弓恵/1回) 共同 認知症高齢者の包括的なケアに必要な知識と技術を学び、国内外の文献から、認知高齢者の特性に応じたケアの実践と研究のあり方を探求する。また、老年看護領域での自らの疑問や課題を検討し、研究テーマを検討する。</p> <p>(39 星野純子) 在宅看護実践の基盤となる技術を科学的根拠に基づいて理解し、在宅療養者の特性に応じた適用を検討する。在宅看護学の学問的知識基盤や看護実践を改善するためのエビデンス生成に寄与する研究論文を批判的に評価する力を養うことを目的とする。</p>	複数開講 共同 (一部)
地域包括ケア開発看護学実習	<p>地域包括ケア開発看護学セミナーで明確にした自身の課題あるいは研究テーマに沿った実習計画を立て、フィールド活動を行い、体験を通して学ぶ。選択したテーマに関する知見、あるいは研究過程で得られた知見と実態とを結びつけて検証する。実習終了後には、計画に沿ったレポートを提出し、必要に応じて実習場所で報告会を開催する。</p> <p>(複数開講) (10 西谷直子/13回) (10 西谷直子・69 田村晴香/2回) 公衆衛生看護活動に必要な疫学的研究方法の基礎を理解し、実際問題への適用および地域の健康問題と地域看護における理論展開方法を実際に地域保健の現場において学び、研究課題を明確にする。</p>	複数開講 共同 (一部)

		<p>(9 林登志雄) 課題についての国内外の文献の抄読・調査・データの収集と分析によって、臨床における課題等を基礎看護学見地から検証する基礎力を身につける。学習の成果を発表し討論を重ねることで研究を展開する力を培う。</p> <p>(33 淵田英津子) 高齢者の生活や療養の場は、在宅、介護施設、病院など多様であり、疾患、加齢に伴う心身機能や認知機能の変化、生活状況に応じたケアの実践と研究が課題となり、理論、想像、倫理、実践、根拠に基づいた研究課題を明確にし、計画書を作成する。</p> <p>(39 星野純子) 在宅看護学に必要な研究方法の基礎を理解し、健康問題と在宅看護における理論展開方法を実際に地域の現場において学び、研究課題を明確にする。</p>	
医療技術学コース	医用量子科学実習 I	<p>医用量子科学領域における自身の研究分野に関連の深い重要な文献、報告書などを精読し、内容を整理して参加者に紹介するとともに、ディスカッション等を通して論理的思考力を養い、修士の研究に役立てる。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(16 磯田治夫) 下記のいずれかに関する国内外の最新の文献を精読し、教員と討論することにより、高度な職業人としての知識・技術を習得する。また臨床データを扱う場合には、医学的な倫理性についても習得する。①脳機能解析 ②MRを用いた血流解析 ③MRを用いた心筋運動解析 ④凍結治療装置開発 ⑤MR撮像技術・MR画像診断 ⑥神経系・頭頸部画像診断</p> <p>(14 今井國治) 静止画、動画、画像間の演算、圧縮、画質の改善や画像の再構築を含む画像処理、およびそれらを基盤としたコンピュータ支援診断に関する診断情報工学に関する内外の関連文献を精読し、その内容を整理して参加者に紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって、問題意識を明確にし、研究の倫理性、論理、計画立案、技術開発、実験、解析、まとめ等の方法について修得することを目標とする。また臨床データを扱う場合には、医学的な倫理性についても習得する。</p> <p>(11 島本佳寿広) 乳腺画像診断またはモニタ診断に関する国内外の最新の文献を精読することで、高度な職業人としての知識・技術を習得する。また、その内容を整理して紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって論理的思考能力、表現力を養い、かつ修士論文研究に役立てる知識、技術を習得することを目標とする。臨床データを扱う場合には、医学的な倫理性についても習得する。モダリティとしては、超音波、X線診断、MRIを中心とする。</p> <p>(44 小山修司) 最新医療では多くの放射線機器が重要な役割を果たしており、放射線の医学利用は必要不可欠である。一方で、放射線による被ばくに関する知識を習得することも重要である。本講義では放射線計測、線量評価、放射線管理、放射線物理など医療被ばく分野における重要な論文、報告書などを精読し、その内容を整理して参加者に紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって論理的思考能力・表現力を養い、かつ修士論文を作成するために必要な知識・技術を習得することを目標とする。</p>	複数開講

	<p>(42 砂口尚輝) 現代医療においては、X線CTやMRI、PETなどの放射線診断機器を用いた画像診断が重要な役割を担っている。本実習では、診断に有用な生体情報を得るための測定法や解析法に関する内外の関連文献を精読し、その内容を整理して参加者に紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって、問題意識を明確にし、研究の倫理性、論理、計画立案、技術開発、実験、解析、まとめ等の方法について修得することを目標とする。また、臨床データを扱う場合には、医学的な倫理性についても習得する。</p> <p>(53 川浦稚代) 放射線画像診断技術は現代医療において必要不可欠であり、放射線診断機器の技術進歩は診断能の向上に大いに貢献している。しかしながら、様々な特性を持つ放射線診断機器からの被ばくリスクに関しては不明な点が多く、医療用放射線の防護の最適化を検討することは容易ではない。本実習では、近年医療被ばくによるリスクが問題視されている小児に対する放射線画像診断および治療時の医療被ばくと医学診断検査の最適化に関する重要な論文、報告書などを精読し、その内容を整理して参加者に紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって論理的思考能力、表現力を養い、かつ修士論文研究に役立てる。</p> <p>(54 藤井啓輔) 現代医療では多くの放射線機器が重要な役割を果たしており、放射線の医学利用は必要不可欠である。一方で、医療放射線防護に関する知識を習得することも重要である。本実習では放射線診断検査における被ばく線量の最適化に関する重要な論文、報告書などを精読し、その内容を整理して参加者に紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって論理的思考能力・表現力を養い、かつ修士論文を作成するために必要な知識・技術を習得することを目標とする。</p>	
<p>医用量子科学実習Ⅱ</p>	<p>医用量子科学領域における国内外の文献を精読して内容を纏めるとともに報告し、ディスカッション等を通して高度な職業人としての必要な知識・技術を習得する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(12 加藤克彦) 最近の核医学の進歩は目覚ましいものがあり、医療現場においても、PET(ポジトロン核医学)が悪性新生物を探索するための道具として、脚光を浴びるようになってきた。このように新しいモダリティばかりでなく、新しい放射性医薬、新しいデータ収集法、データの新しい解析法などの核医学及びPET診断に関する文献を精読して内容のまとめを作成報告し、教員と討論しながら、高度な職業人としての必要な知識・技術を習得することを目標とする。</p> <p>(15 古川高子) 現代医療においてはPET、SPECT診断などの放射性医薬を用いた医療が重要となっている。放射線・放射性同位元素の医学、生物学的利用に際し重要な、放射能計測、分子プローブ設計、生物学的検討などに関する重要な論文、報告書などを精読し、その内容を整理して参加者に紹介するとともに、学生同士および教員と討論することによって論理的思考能力、表現力を養い、かつ修士論文を作成するために必要な知識・技術を習得することを目標とする。</p> <p>(13 山本誠一) 放射線による医学的な診断・治療や、医療被ばく・環境放射線管理に必要な放射線計測システムの技術開発に関する国内外の重要な、あるいは最新の文献等を精読し、高度な専門職業人としての知識・技術を習得するとともに、修士論文研究に必要な文献を検索し、文献内容を正確に理解するとともにこれを批評し、また、自らの研究に活用する能力を養うことを目標とする。 研究分野に関連の深い重要な文献、および、修士論文研究に必要として各自が選定し精読した論文の内容を順繰りに紹介するとともに、それについて全体で討論する。</p>	<p>複数開講</p>



	<p>(41 小口宏)  悪性腫瘍の三大治療法の一つとして、放射線治療が挙げられており、がん医療において重要な役割を担っている。本実習では、線量測定や線量計算、外部照射技術といった放射線治療技術学に関する国内外の最新の文献を精読し、内容について分析を行い発表するとともに教員と討論する。また、研究会や学会に参加することで、この分野について高度な専門職業人として必要な「科学的論理性」や「独創力」を修得することを目標とする。臨床データを扱う場合には、医学的な倫理性についても学ぶ。</p> <p>(40 小森雅孝)  放射線治療では最適な線量を投与する必要がある。標的腫瘍への線量集中度がより高い照射方法に関する研究や、線量分布の測定、モンテカルロシミュレーションを用いた評価などに関連する国内外の最新の文献を精読し、内容について分析を行い発表するとともに教員と討論する。また、研究会や学会に参加することで、この分野について高度な専門職業人として必要な「科学的論理性」や「独創力」を修得することを目標とする。また臨床データを扱う場合には、医学的な倫理性についても学ぶ。</p> <p>(43 平野祥之)  医療被ばくや放射線治療効果、特に放射線影響の初過程である原子分子レベルから細胞レベルに関する分野から、国内外の重要な、あるいは最新の文献等を精読し、高度な専門職業人としての知識・技術を習得するとともに、修士論文研究に必要な文献を検索し、文献内容を正確に理解するとともにこれを批評し、また、自らの研究に活用する能力を養うことを目標とする。  研究分野に関連の深い重要な文献、および、修士論文研究に必要として各自が選定し精読した論文の内容を順繰りに紹介するとともに、それについて全体で討論する。</p>	
基礎医学物理学実習	<p>医学物理士として必要な、理工学に関する科目を演習形式で学び、理解を深める（基礎物理学演習）。とくに基礎物理学の中から、力学、電磁気学、熱力学・統計力学の基礎を学び、物理的なものの見方や考え方を養う。また物理学を理解する上で必要となる、物理数学の基礎を取得する。さらに、医学や放射線治療のエビデンスとなっている医学論文を理解するため、医療統計の基礎を学ぶ。科学英語演習では、医学物理の研究者として、また海外の最新知見を臨床へ橋渡しする役割をにうため、科学英語の基本技術を身につけ、実際の学術論文を英文で読みこなし、内容をまとめて英語発表することで、発表の技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(43 平野祥之／8回)  力学（運動方程式の解法、角運動量・万有引力、剛体の運動・解析力学、電磁気学（マクスウェル方程式、電磁場のエネルギー、誘電体と磁性体、接触電位と電極電位、科学英語論文</p> <p>(40 小森雅孝／8回)  熱力学・統計力学（温度と状態方程式、熱力学諸過程、平行条件と巨視的状态量、力学と確率、ボルツマン分布と分配関数）、物理数学（線形代数、微分・積分学、フーリエ解析）、科学英語論文</p> <p>(71 余語克紀／8回)  医療統計学（基礎、確率、多変量解析、医学統計、ROC解析）、科学英語論文</p> <p>(41 小口宏／6回)  科学英語論文</p>	オムニバス方式

臨床医学物理学実習	<p>医学物理士の臨床業務で必要となる、基本技術や知識を実習から習得することを目標とする。とくに講義や演習などの座学で学んだことを、臨床現場の実際と結びつけてより深く理解できるよう、臨床業務の見学と実習に重点を置く。医学物理士コース教員に加えて、臨床医学物理士や診療放射線技師など病院で働くスタッフの協力を得ながら進める。医学物理士の臨床業務を中心として、放射線治療の流れの理解（臨床での実際）から全体像を把握し、放射線治療機および関連機器の品質管理/品質保証、各治療手法の治療計画と品質保証（患者プラン検証）などを中心に各論を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（41 小口宏／6回） 臨床腫瘍学概論、吸収線量測定、放射線治療計画</p> <p>（40 小森雅孝／8回） 放射線治療関連装置、X線治療の実際（通常照射、強度変調放射線治療）</p> <p>（43 平野祥之／6回） 定位放射線治療、画像誘導放射線治療、電子線治療の実際</p> <p>（71 余語克紀／6回） 小線源治療の実際、放射線防護、品質保証/品質管理</p> <p>（93 加茂前健／2回） 放射線治療装置のコミッショニング</p> <p>（94 熊谷始紀／2回） CTシミュレーション</p>	オムニバス方式
オミックス医療科学実習 I	<p>オミックス医療科学における生体防御情報科学、病態情報科学、それぞれの分野における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式により修得することを目的とする。</p> <p>（17 川部勤） 生体防御異常を対象とし、分子生物学的な手法を用いた解析を通して病態についての解明を試みる。研究の結果については、さまざまな分子の遺伝子・蛋白レベルでの統合的情報をもとに、文献的考察のもとで議論検討し科学的論理性を涵養する。実習を通して臨床検査学のさまざまな局面や問題点を倫理的な側面をも考慮して研究する。</p> <p>（22 佐藤光夫） 本コースは胸部悪性腫瘍の基礎的な病態解明および、その知見を新規治療にトランスレーションする研究の実施を目標とする。論文研究の指導ならびに、独立した研究者として活躍するためのスキルとしてのグラント応募方法についても指導を行う。</p> <p>（19 長坂徹郎） 生殖器および造血器疾患領域における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式で指導を行う。</p> <p>（20 永田浩三） 循環器および代謝疾患領域における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式で指導を行う。</p> <p>（45 川村久美子） 分子生物学的な研究方法の最新知識を学び、薬剤耐性菌の分子メカニズムの解明を試みる。さらに、研究遂行を通して、研究手法の理論的背景の基本や研究の実践的知識、さらには自立的研究実施のための研究計画の立案・実践・評価法を修得させる。</p> <p>（48 川井久美） 神経内分泌腫瘍領域における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式で指導を行う。</p>	複数開講

オミックス医療科学実習Ⅱ	<p>オミックス医療科学における細胞遺伝子情報科学、分子情報科学、それぞれの分野における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式により修得することを目的とする。</p> <p>(23 早川文彦) 造血器悪性腫瘍、血栓止血領域の疾患、造血幹細胞からの血球発生などの専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式で指導を行う。</p> <p>(21 石川哲也) 消化器・肝疾患領域における専門的な研究の方法論、研究手法について実習形式で指導を行う。</p> <p>(46 平山正昭) 神経疾患の病態発症機序や病態進展因子の解明のために、必要なデータ取得、モデル構築や解析手法などを実戦形式で指導を行う。</p> <p>(47 上山純) 衛生学領域における化学物質リスク評価研究課題に対し、分離分析等の手法を用いた生体試料高感度分析などについて実習形式で指導を行う。</p>	複数開講
リハビリテーション療法学コース	<p>文献抄読・レビューを自らの研究課題の文脈で整理し研究背景を理解すること、またそれに基づいた研究テーマを考え、研究デザインが立案できることを目的とする。具体的には、研究における課題（臨床疑問など）の立て方、研究デザイン毎の研究目的の理解といった、研究方法についての視点や研究遂行に際して具体的方法論の修得を目指す。関連する研究論文のまとめを提示することで、研究の具体的方法論について討論する。</p> <p>(24 山田純生) 臨床研究デザインが立案できることを目的とする。具体的には、臨床疑問の立て方、研究デザイン毎の研究目的の理解、アウトカム設定、交絡・介在因子の設定、サンプルサイズ、予測する結果と研究申請書作成、など、臨床研究遂行に際して、特に必要とされる項目を実際に行うことにより、具体的方法論の修得を目指す。</p> <p>(25 内山靖) 理学療法の臨床・教育に関係する評価指標ならびに介入効果についての文献抄読・レビューを自らの研究課題の文脈で整理・紹介し、参加者と積極的に討議することで理学療法学に資する高度な研究の視点と実践能力を養う。</p> <p>(27 杉浦英志) 各自の研究テーマに関連した専門知識を高めると共に科学性と独創性を理解することを目的とする。最新の原著論文の抄読及び研究成果のプログレスレポートを行う。</p> <p>(26 亀高諭) 最新の原著論文の抄読を行うほか、研究成果のプログレスレポートを行う。</p> <p>(29 千島亮) 高位頸髄損傷者や進行性重度神経筋疾患者のヘリハビリテーション実践で進められてきた自立獲得に関わる支援機器の歴史の変遷とその技術背景を理解する。生体信号応用や情報処理機器を包括した支援技術(AT)領域での基礎的知識の獲得と支援方策の具体的な提言が出来る能力を養う。</p>	複数開講

	<p>(28 辛島千恵子) リハビリテーション、作業療法学領域の近年の研究や臨床動向を理解し、科学的、独創的な素地作りに役立つ各自の研究テーマにそって課題を決めて、①文献抄読し、②発表し、③ディスカッションするなかで、④研究課題の解決方法などを探究する。</p> <p>(1 寶珠山稔) 大脳神経生理学を背景とした脳機能の側面から作業療法学の理解をすすめるとともに、作業療法学領域の研究に必要な最新の神経生理学的知見について講義をする。大脳高次機能とリハビリテーションとの関係を中心に専門的理解を深めることを目標とする。</p> <p>(30 飯高哲也) 精神医学、神経科学、作業療法学の基礎分野における研究法を紹介する。国内外の文献などを講読し、検討する。研究計画・実施に必要な具体的な技術を習得するために、教員の研究の一部に参加する。</p> <p>(49 李佐知子) 基礎研究の研究計画の立て方、研究仮説や実験の組み方などを学ぶ。</p> <p>(51 上村純一) 作業療法領域、脳機能領域における近年の研究や臨床動向を把握し、研究活動への発展を目指す。自身の研究テーマに沿ってテーマを決め、1) 文献レビュー、2) 発表、3) ディスカッション、を行い研究活動につなげる。</p> <p>(57 星野藍子) 精神障害領域の作業療法及びその周辺の学問領域の理解を深め、具体的な研究活動を目指す。具体的には文献レビュー、研究プロトコル作成、ディスカッション、発表を実施する。</p>	
リハビリテーション療法学セミナーⅡ	<p>理学療法学領域における各自の研究テーマに関連した専門知識を高めると共に担当教員の下、研究の論文作成ならびに論文投稿に関する基本的事項を修得する。</p> <p>(24 山田純生) 臨床研究の論文作成ならびに論文投稿に関する基本的事項を修得する。研究進捗に関する報告を総合的に討論することにより、データ収集、解析、ならびに論文作成に至る一連の研究遂行技術を修得する。</p> <p>(25 内山靖) 理学療法の臨床・教育に係る評価指標ならびに介入効果についての文献抄読・レビューを自らの研究課題の文脈で整理・紹介し、参加者と積極的に討議することで理学療法学に資する高度な研究の視点と実践能力を養う。</p> <p>(27 杉浦英志) 各自の研究テーマに関連した専門知識を高めると共に科学性と独創性を理解することを目的とする。最新の原著論文の抄読及び研究成果のプログレスレポートを行う。</p> <p>(26 亀高諭) 最新の原著論文の抄読を行うほか、研究成果のプログレスレポートを行う。</p>	複数開講

		<p>(29 千島亮) 生活支援技術に関連する作業療法学の研究手法や技法を研究計画に則して計画・推進する。当該専門分野の知識を深め、臨床実践で応用していく能力を養う。医療関連専門職間との連携を密とし、社会ニーズに即応できる知識基盤の充実と自立した探求能力を促進する。生活支援技術応用の進展に即応して、作業療法学の専門領域確立に向けた研究計画を展開する。</p> <p>(28 辛島千恵子) リハビリテーション、作業療法学領域の近年の研究や臨床動向を理解し、科学的、独創的な素地作りに役立てる。各自の研究テーマにそって課題を決めて、①文献抄読し、②発表し、③ディスカッションするなかで、④研究課題の解決方法などを探究する。</p> <p>(1 寶珠山稔) 大脳神経生理学を背景とした脳機能の側面から作業療法学の理解をすすめるとともに、作業療法学領域の研究に必要な最新の神経生理学的知見について講義をする。大脳高次機能とリハビリテーションとの関係を中心に専門的理解を深めることを目標とする。</p> <p>(30 飯高哲也) 精神医学、神経科学、作業療法学の基礎分野における研究法を紹介する。国内外の文献などを講読し、検討する。研究計画・実施に必要な具体的な技術を習得するために、教員の研究の一部に参加する。</p> <p>(49 李佐知子) 基礎研究の研究計画の立て方、研究仮説や実験の組み方などを学ぶ。</p> <p>(51 上村純一) 作業療法領域、脳機能領域における近年の研究や臨床動向を把握し、研究活動への発展を目指す。自身の研究テーマに沿ってテーマを決め、1) 文献レビュー、2) 発表、3) ディスカッション、を行い研究活動につなげる。</p> <p>(57 星野藍子) 精神障害領域の作業療法及びその周辺の学問領域の理解を深め、具体的な研究活動を目指す。具体的には文献レビュー、研究プロトコル作成、ディスカッション、発表を実施する。</p>	
	特別研究	<p>保健医療学分野（先端情報医療学領域と包括ケアサイエンス領域）における専門的研究課題に対し、主体的に研究計画の立案、実施、評価を行う能力を涵養し、修士論文の作成につなげることを目的とする。</p> <p>(6 浅野みどり) スペシャルニーズを持つ子どもと家族への看護における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(3 安藤詳子) 臨床がん看護学領域、慢性疾患看護において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(2 池松裕子)</p>	複数開講

生命危機状態にある患者の回復促進、二次障害予防、QOL向上に貢献できる研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(8 入山茂美)

世界における母子健康の向上させることに貢献できる研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(7 玉腰浩司)

周産期を含めた女性の健康及び健康事象の性差における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(10 西谷直子)

地域看護学関連領域において自ら選んだ研究課題に関して、調査、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(9 林登志雄)

在宅看護学関連領域において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(5 本田育美)

基礎看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(31 大島千佳)

看護技術において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(35 青石恵子)

精神看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(34 佐藤一樹)

臨床がん看護学領域、慢性疾患看護において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(37 島明子)

Women's Healthにおける研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(38 高橋由紀)

母性看護学・助産学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(36 竹原君江)

臨床看護へ参与観察、実践を通して自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(33 淵田英津子)

老年看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(39 星野純子)

在宅看護学関連領域、高齢者看護において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(52 中山奈津紀)

臨床看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(14 今井國治)

診断情報工学において自ら選んだ研究課題に関して、実験遂行など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(12 加藤克彦)

核医学及びPET（ポジトロン核医学）において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集・分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(11 島本佳寿広)

乳腺画像診断またはモニタ診断において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集・分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(15 古川高子)

放射線計測、放射線エネルギー測定、線量の測定評価／計算評価において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(13 山本誠一)

放射線による医学的な診断・治療や医療被ばく・環境放射線管理に必要な放射線計測システムの技術開発において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、分析、評価など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(16 礪田治夫)

脳機能解析、MRを用いた血流解析・心筋運動解析、凍結治療装置開発、MR撮像技術・MR画像診断、神経系・頭頸部画像診断において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(41 小口宏)

放射線治療技術学において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(40 小森雅孝)

標的腫瘍への線量集中性が高い放射方法、線量分布の測定やモンテカルロシミュレーションを用いた評価において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(42 砂口尚輝)

診断に有用な生体情報を得るための測定法や解析法の開発において自ら選んだ研究課題に関して、実験、解析、理論構築など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(43 平野祥之)

医療被ばくや放射線治療効果、放射線影響の原子分子レベルから細胞レベルに関する分野において実験的あるいはシミュレーション手法を用いた研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(44 小山修司)

放射線計測・管理学関連分野において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(53 川浦稚代)

放射線感受性の高い小児に対する放射線医学診断検査および治療時の医療被ばくと検査の最適化における研究課題に関して、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(54 藤井啓輔)

放射線診断検査における被ばく線量の最適化における研究課題に関して、実験、計算シミュレーション、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(21 石川哲也)

消化器・肝疾患の発症進展機序の解明に関する研究課題について、モデル構築、解析技術など、研究の実践について指導、論文作成の指導を行う。

(17 川部勤)

アレルギーおよび自己免疫疾患など生体防御機構の異常を対象とし、分子生物学的な手法を用いた解析を通じた病態の解明における研究課題に関して、実験、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(18 近藤高明)

ヘルスケア分野での保健・医療情報の疾病・健康管理への活用という研究課題に対し、情報メディア技術との融合をめざした研究の実践、指導を行い、修士論文の作成につなげることを目的とする。

(22 佐藤光夫)

胸部悪性腫瘍の基礎的な病態解明および、その知見を新規治療にトランスレーションする研究の実施を目標とする。論文研究の指導ならびに、独立した研究者として活躍するためのスキルとしてのグラント応募方法についても指導を行う。

(19 長坂徹郎)

生殖器および造血器疾患の発症・進展のメカニズムの解明に関する研究課題について、モデル構築、解析技術など、研究の実践に関する指導および論文作成の指導を行う。

(20 永田浩三)



循環器疾患の発症・進展のメカニズムの解明に関する研究課題について、モデル構築、解析技術など、研究の実践に関する指導および論文作成の指導を行う。

(23 早川文彦)

造血器悪性腫瘍、血栓止血領域の疾患、造血幹細胞からの血球発生などの研究課題に関して遺伝子解析、分子生物学的手法を用いた解析などの実践、指導を行い、論文作成指導を行う。

(47 上山純)

衛生学領域における化学物質リスク評価研究課題に対し、分離分析等の手法を用いた生体試料高感度分析などについて研究の実践、指導を行い、論文指導を行う

(48 川井久美)

神経内分泌腫瘍の発症・進展機序の解明に関して自ら選んだ研究課題について、モデル構築、解析技術など、研究の実践に関する指導および論文作成の指導を行う。

(45 川村久美子)

分子生物学的な研究方法の最新知識を学び、薬剤耐性菌の分子メカニズムの解明を試みる。さらに、研究遂行を通して、研究手法の理論的背景の基本や研究の実践的知識、さらには自立的研究実施のための研究計画の立案・実践・評価法を修得させる。

(43 平山正昭)

神経疾患の病態発症機序や病態進展因子の解明のための関連文献の検討、必要なデータ取得、モデル構築や解析手法などの研究実践や指導を行い、論文指導を行う。

(25 内山靖)

運動と姿勢の制御と学習、臨床評価指標の開発ならびに信頼性・妥当性に関する検証、理学療法への介入効果における研究課題に関して、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(26 亀高諭)

筋芽細胞の膜融合過程の調節機構、遺伝性痙性対麻痺の原因遺伝子群の機能解析、筋分化におけるオートファジーの役割、筋芽細胞の筋分化を制御する化合物の探索における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(27 杉浦英志)

実際の先端的データを用いた仮説設定と研究デザインの設計、統計数理的モデリングの考え方、データの前処理と解析およびそれらの解釈までの一連の流れを通じて、生命人間情報健康医療学における基礎的知識の応用力を身につけ、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(32 中析昌弘)

実社会情報健康医療学における専門的研究課題に対し、主体的に研究計画の立案、実施、評価を行う能力を涵養し、修士論文の作成につなげることを目的とする。

(24 山田純生)

慢性心不全の虚弱性に関する全国多施設共同前向きコホート研究、アテローム血栓症の再発予防を目的としたライフスタイル改善、心大血管術後ならびに心不全の骨格筋タンパク分解予防を目的とした神経電気刺激介入における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(49 李佐知子)

中枢神経損傷後の機能不全のメカニズムにおける研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(50 松井佑介)

生命人間情報健康医療学・先端計測情報健康医療学における専門的研究課題に対し、主体的に研究計画の立案、実施、評価を行う能力を涵養し、修士論文の作成につなげることを目的とする。

(28 辛島千恵子)

発達過程作業療法における介入効果や新たな治療技術の構築における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(29 千島亮)

生活支援技術応用の進展に即応して、作業療法学の専門領域確立に向けた研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(1 寶珠山稔)

大脳高次機能に関連した脳波などの脳反応とリハビリテーション効果における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(30 飯高哲也)

精神医学領域の疾患と作業療法との関わりを中心に、臨床応用の可能な研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(51 上村純一)

作業療法領域およびリハビリテーション領域の学術的發展に繋がる（特に運動-感覚機能に関連する脳機能ネットワーク）研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(57 星野藍子)

精神障害に対するリハビリテーションにおける研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(用紙 日本工業規格A4縦型)

## 授 業 科 目 の 概 要

(医学系研究科総合保健学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	基盤医科学実習	<p>実際の研究に用いる高度かつ最新の技術や手法についてマンツーマンの指導形式を中心とした技術修得型実習形式で学習する。 開講されるコースの中から4コースを受講することで2単位を認定する。</p> <p>コース1 脳磁計による脳反応測定 コース2 細胞培養の実際 コース3 MRIの基本操作実習 コース4 パラフィン切片標本作製と免疫染色法の実際 コース5 SPSSを用いた統計学実習(応用編) コース6 DNA塩基配列解析の実際 コース7 レーザー共焦点顕微鏡を用いた生体分子の観察 コース8 実験動物を用いた毒物動態解析の実際 コース9 SDS-PAGE, Western blotting解析の実際 コース10 リンパ球機能解析: ELISPOT法 コース11 生体情報計測手法とその解析の実際 コース12 NGSデータを用いた腸内細菌メタゲノム解析の実際 コース13 ゲノムワイド関連解析による新規疾病関連遺伝子の実際 コース14 マウスジェノタイプピング手法の実際 コース15 マウス胎仔肝臓細胞からの巨核球分化誘導の実際</p>	
専門科目	コース共通科目 先端生命情報学特講	<p>新たな研究テーマ創生につながることを意識した先端的な研究論文を題材として、新たな先端計測技術により得られる測定データによりどのようなヒトの生命メカニズムを抽出できるのか、また高度情報社会におけるメディア情報技術と融合した健康医療への橋渡し応用技術について発展的に学習し、またそれらを実現するために必要なデータ科学の方法論の実践的概念とその実装スキルを習得する。また、異分野融合領域としての性質を実践的に理解するための、異分野連携コミュニケーションのスキルおよび社会実装に必要な産学連携の方法論についても実践的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (50 松井佑介/5回) (32 中柄昌弘/5回) (18 近藤高明/5回)</p>	オムニバス方式
	先端生命情報学特講演習	<p>新たな研究テーマ創生につながることを意識した先端的な研究論文とそれらのアプローチおよびデータを題材として、新たな先端計測技術により得られる測定データによりどのようなヒトの生命メカニズムを抽出できるのか、また高度情報社会におけるメディア情報技術と融合した健康医療への橋渡し応用技術について実装スキルを習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (50 松井佑介/5回) (32 中柄昌弘/5回) (18 近藤高明/5回)</p>	オムニバス方式

先端社会健康情報学特講	<p>新たな研究テーマ創生につながることを意識した先端的な研究論文を題材として、新たな先端計測技術によるリアルワールドデータによる人の健康と高度情報社会におけるメディア情報技術を融合させた新たな予防医療のあり方について学習し、またそれらを実現するために必要な先端的データ科学の方法論の実践的概念とその実装スキルを習得する。また、異分野融合領域としての性質を実践的に理解するための、異分野連携コミュニケーションのスキルおよび社会実装に必要な産学連携の方法論についても実践的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(50 松井佑介／5回) (32 中柄昌弘／5回) (18 近藤高明／5回)</p>	オムニバス方式
先端社会健康情報学特講演習	<p>新たな研究テーマ創生につながることを意識した先端的な研究論文におけるアプローチとデータを題材として、新たな先端計測技術によるリアルワールドデータによる人の健康と高度情報社会におけるメディア情報技術を融合させた新たな予防医療の実装スキルを習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(50 松井佑介／5回) (32 中柄昌弘／5回) (18 近藤高明／5回)</p>	オムニバス方式
保健医療データ活用法特講	<p>近年はレセプト、検診、疫学調査などから電子化された大規模な多次元情報が入手されるようになり、それらを統合して疾病管理や予防に有効活用する研究の促進が期待されている。本講義ではデータベースの操作と統計解析の基礎的な手技や用法を学び、疫学的考察を通して社会への還元という意義を理解することを目的とする。また保健医療分野で汎用される無料解析ツール (R) の操作に慣れるよう演習形式も取り入れる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18 近藤高明／4回) (7 玉腰浩司／4回) (50 松井佑介／3回) (32 中柄昌弘／4回)</p>	オムニバス方式
看護学コース	<p>看護実践場面の基盤となる身体ならびに心理・社会面のアセスメント, ならびに患者の看護ケアの根拠となるエビデンスの構築の2つに着目し, 科学的探求心を深め, 独創性と自律性があり国際水準となる研究テーマを考え, 研究デザインができることを目標とし, 独創性のある研究課題の立て方, 国際水準となる研究デザインや研究目的の理解といった, 研究方法についての視点や研究遂行において高度な水準での修得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 本田育美／4回) 疾病管理における健康行動のアセスメントについて (4 太田勝正／3回) 看護実践場面の基盤となる身体ならびに心理・社会面のアセスメント (31 大島千佳／4回) 睡眠のアセスメントについて (36 竹原君江／4回)</p>	オムニバス方式

	糖尿病患者の足のアセスメントについて	
看護システム・ケア開発学特講演習	<p>(5 本田育美・4 太田勝正・31 大島千佳・36 竹原君江・56 竹野ゆかり・58 中西啓介) (共同)</p> <p>看護実践場面の基盤となる身体ならびに心理・社会面のアセスメント, ならびに患者の看護ケアの根拠となるエビデンスの構築の2つに着目し、各自の研究内容についてプレゼンテーションを行い、十分なディスカッションを行うことにより、研究を推進するとともに、研究実践能力を高い水準に高めることを目標とし、普段接する機会の少ない、他の研究室の教員や学生と議論や交流を深めることにより、幅広い視点での考察や討論、倫理性や科学的論理性の理解ができるようになることを狙いとする。</p>	共同
高度実践看護開発学特講	<p>高度実践看護開発学に関する研究テーマに関して、内外の文献の抄読を行い、必要な基礎知識・技術、プロセス、理論等の習得と実践能力を培い、研究計画を立案する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(3 安藤詳子・57 杉田豊子) 共同 がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアの研究方法を実践的に理解し、様々な研究計画を立案するための基本的・発展的な知識を習得する。</p> <p>(2 池松裕子) 生命危機状態にある患者およびその看護について哲学的に考察し、クリティカルケア看護の目指す方向性を明確にする。</p> <p>(34 佐藤一樹・57 杉田豊子) 共同 がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアの研究方法を実践的に理解し、様々な研究計画を立案するための基本的・発展的な知識を習得する。</p> <p>(35 青石恵子) 精神保健医療福祉の現状と課題に着目し、必要な基礎知識・技術、プロセス、理論等の習得と実践能力を培う。</p> <p>(52 中山奈津紀) 高度実践看護に関する研究テーマについて、Research Questionを導くために内外の文献の抄読を行い、明確化したうえで、倫理的な配慮を意識した研究指導を実施する。</p>	複数開講 共同 (一部)
高度実践看護開発学特講演習	<p>高度実践看護開発学特講において学んだ知識・技術、プロセス、理論等を踏まえ、現状と課題を吟味し、高度実践看護開発学研究に必要な事例やデータの分析法、評価法に関する理解を深め、研究を推進する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(3 安藤詳子・57 杉田豊子) 共同 がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアに関する重要な研究動向を系統的に理解し、国際的な研究者と最先端の研究についてディスカッションできる能力を習得する。</p> <p>(2 池松裕子) クリティカルケア看護の将来を見据え、現状を吟味して、あるべき姿とのギャップを埋めるための研究を立案する。</p> <p>(34 佐藤一樹・57 杉田豊子) 共同 がん患者に対する緩和ケアに専門領域を焦点化し、緩和ケアに関する重要な研究動向を系統的に理解し、国際的な研究者と最先端の研究についてディスカッションできる能力を習得する。</p> <p>(35 青石恵子)</p>	複数開講 共同 (一部)

	<p>高度実践看護開発学特講において学んだ精神保健医療福祉の現状と課題から看護研究に必要な事例やデータの分析法や評価法を習得する。</p> <p>(52 中山奈津紀)</p> <p>研究テーマと解析方法の検証のために、内外の文献を精読し、調査・データの収集と分析によって研究を実施し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して研究成果をまとめる。</p>	
次世代育成看護学特講	<p>スペシャルニーズをもつ子どもと家族の看護実践の本質や理論的背景を探求し、次世代育成に寄与する看護の改革／発展のために必要なコア能力を培う。</p> <p>1) 養育期の家族、慢性疾患や障がいをもつ子どもとその家族の特徴および看護の基盤となる諸理論について包括的に理解し、その研究開発方略について論述できる。</p> <p>2) 次世代育成の観点から家族ライフサイクルにわたる看護支援に関する諸理論を理解する。</p> <p>3) グローバルな視点で家族を捉え、課題を見出し変革に向けて自らの考えを発展させる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 浅野みどり／7回)</p> <p>スペシャルニーズをもつ子どもと家族の健康と予防的育児支援、家族中心の看護と家族全体のウェルビーイング、家族の価値観や強みを重視した看護実践と研究</p> <p>(6 浅野みどり・7 玉腰浩司／1回) 共同 前半まとめ</p> <p>(7 玉腰浩司／1回)</p> <p>DOHaD理論に基づく生活習慣病予防</p> <p>(8 入山茂美／2回)</p> <p>HIV母子感染対策と母子支援の国際的動向</p> <p>(37 島明子／1回)</p> <p>女性のライフサイクル、生活と健康</p> <p>(38 高橋由紀／2回)</p> <p>出生直後の健康な母子のskin-to-skin contactと早期授乳、子どもと家族と看護専門職とのパートナーシップ</p> <p>(6 浅野みどり・8 入山茂美／1回) 共同 後半まとめ</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
次世代育成看護学特講演習	<p>(6 浅野みどり・7 玉腰浩司・8 入山茂美・38 高橋由紀・37 島明子) (共同)</p> <p>国内外の多様な看護実践事例や研究事例文献購読を通じて、次世代育成看護学特講で学んだ諸理論を学際的な視点より討議するとともに、各自の研究内容についてプレゼンテーションを行い、十分なディスカッションを行うことにより、研究を推進するとともに、研究実践能力を高い水準に高めることを目標とし、普段接する機会の少ない、他の研究室の教員や学生と議論や交流を深めることにより、幅広い視点での考察や討論、倫理性や科学的論理性の理解ができるようになることを狙いとする。</p>	共同
地域包括ケア開発看護学特講	<p>研究テーマに関する国内外の文献検討を行い、研究の動向と課題を分析し、研究目的を明確にする。また、研究の概念枠組みを検討し、研究目的に適した研究方法、分析方法を学び、研究計画書を作成する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(10 西谷直子)</p> <p>地域看護学の理論的基盤、構成概念を整理するとともに、ヘルスプロモーション理念や看護理論に基づいた研究開発と方法論を学び、研究課題を明確にする。</p>	複数開講

		<p>(9 林登志雄) 地域看護学の理論的基盤、構成概念を整理し、地域看護研究と今後の課題について展望し、ヘルスプロモーション理念や看護理論に基づいた研究開発と方法論を学び、研究課題を明確にする。また、在宅看護の目的、特徴を踏まえた在宅看護研究と今後の課題及び終末期医療、介護負担等、地域在宅看護研究を通じ、現在の課題について検討・展望する。</p> <p>(39 星野純子) 在宅看護学の理論的基盤、構成概念を整理するとともに、ヘルスプロモーション理念や看護理論に基づいた研究開発と方法論を学び、研究課題を明確にする。</p> <p>(33 澁田英津子) 老年看護領域における研究テーマに焦点化し、研究目的に適した研究方法、分析方法を学び、研究計画書を作成する。</p>	
	<p>地域包括ケア開発看護学特講演習</p>	<p>博士論文研究の遂行に必要な国際外の最新の論文を精読し、自己の研究テーマに関連する研究の動向と課題を検討する。担当教員と討論しながら研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(10 西谷直子) 地域看護研究における理論的基盤や倫理、規範について学習するとともに、研究課題の明確化、研究意義、研究方法等の研究デザインを明らかにする。</p> <p>(9 林登志雄) 研究課題の地域在宅看護研究における理論的基盤や倫理、規範について学び、研究課題の明確化、研究意義、研究方法等の研究デザインを明らかにする。また、公衆衛生活動に必要な疫学的研究方法の基礎を理解し、実際問題への適用について学び、地域の健康問題の現状、在宅医療/終末期医療における現状をを概観し、看護活動と今後の課題について展望する。</p> <p>(39 星野純子) 在宅看護研究における理論的基盤や倫理、規範について学習するとともに、研究課題の明確化、研究意義、研究方法等の研究デザインを明らかにする。</p> <p>(33 澁田英津子) 老年看護領域における研究テーマに焦点化し、研究目的に適した研究方法、分析方法を学び、研究計画書を作成する。</p>	<p>複数開講</p>
<p>医療技術学コース</p>	<p>医用画像工学特講</p>	<p>画像診断では、X線CT、MRI等の多くの医用画像が用いられている。臓器別・疾患別にそれぞれの医用画像の果たす役割や、各種画像の特徴、生成過程さらには、コンピュータ支援診断技術や医用画像撮影時の被ばくなど、医用画像工学に関する諸課題について、国内外の関連する文献を通して諸理論を学ぶと共に、専門領域における新技術や、種々の問題解決のための方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(16 礪田治夫) 神経系・頭頸部画像診断、MR診断、MRを用いた機能解析技術に関する課題を主に扱う。</p> <p>(44 小山修司) 放射線計測、線量評価、放射線管理、放射線物理などの課題を主に扱う。</p> <p>(42 砂口尚輝) 各種画像処理やコンピュータ支援診断技術などの課題を主に扱う。</p>	<p>複数開講</p>

<p>医用画像工学特講演習</p>	<p>画像診断では、X線CT、MRI等の多くの医用画像が用いられている。臓器別・疾患別にそれぞれの医用画像の果たす役割や、各種画像の特徴、生成過程さらには、コンピュータ支援診断技術や医用画像撮影時の被ばくなど、医用画像工学に関する諸課題について、博士論文研究の遂行に必要な国内外の最新の論文を精読し、この分野における最新の知識・技術を習得すると共に、担当教員と討論しながら問題意識を明確にし、研究計画の立案、実験、ならびに解析方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(16 磯田治夫) 神経系・頭頸部画像診断、MR診断、MRを用いた機能解析技術に関する課題を主に扱う</p> <p>(44 小山修司) 放射線計測、線量評価、放射線管理、放射線物理などの課題を主に扱う。</p> <p>(42 砂口尚輝) 各種画像処理やコンピュータ支援診断技術などの課題を主に扱う。</p>	<p>複数開講</p>
<p>医用画像解析学特講</p>	<p>各種画像の特徴、生成過程、画像の演算、画質の改善や画像の再構築を含む画像処理、さらには医用画像による診断技術や医用画像撮影時の放射線被ばく等の医用画像解析学分野に関する諸課題について、国内外の関連する文献を通して諸理論を学ぶと共に、専門領域における新技術や、種々の問題解決のための方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(14 今井國治) 各種画像の画質改善や画像再構築などの画像処理に関する課題を主に扱う。</p> <p>(11 島本佳寿広) 乳腺画像診断に関わる諸問題やモニタ診断一般における画像認識にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(53 川浦稚代) 放射線画像診断検査時の放射線計測、線量評価などの放射線防護にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(54 藤井啓輔) 画質評価、被ばく線量評価など放射線診断検査における線量の最適化に関わる課題を主に扱う。</p>	<p>複数開講</p>
<p>医用画像解析学特講演習</p>	<p>各種画像の特徴、生成過程、画像の演算、画質の改善や画像の再構築を含む画像処理、さらには医用画像による診断技術や医用画像撮影時の放射線被ばく等の医用画像解析学分野に関する諸課題について、博士論文研究の遂行に必要な国内外の最新の論文を精読し、この分野における最新の知識・技術を習得すると共に、担当教員と討論しながら問題意識を明確にし、研究計画の立案、実験、ならびに解析方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(14 今井國治) 各種画像の画質改善や画像再構築などの画像処理に関する課題を主に扱う。</p> <p>(11 島本佳寿広) 乳腺画像診断に関わる諸問題やモニタ診断一般における画像認識にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(53 川浦稚代) 放射線画像診断検査時の放射線計測、線量評価などの放射線防護にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(54 藤井啓輔)</p>	<p>複数開講</p>



	画質評価、被ばく線量評価など放射線診断検査における線量の最適化に関わる課題を主に扱う。	
医用量子科学特講	<p>放射線治療では生物学的効果を取り入れた最適な線量分布が望まれ、それに最も近い線量分布をもたらす照射の方法・条件が、十分に検討された後決定される。また、線量は種々の方法で測定・計算されるが、科学的論理性に基づいた測定による実証が不可欠である。放射線治療に関連した諸課題について、国内外の関連する文献を通して諸理論を学ぶと共に、専門領域における新技術や、種々の問題解決のための方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(13 山本誠一)</p> <p>放射線による医学的な診断・治療に必要な放射線計測システムの技術開発にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(41 小口宏)</p> <p>悪性腫瘍を中心とした疾患に対する放射線治療の技術的な分野に関する課題を主に扱う。</p> <p>(40 小森雅孝)</p> <p>放射線治療に関連した吸収線量の計測やシミュレーションによる計算にかかわる課題を主に扱う。</p>	複数開講
医用量子科学特講演習	<p>放射線治療では生物学的効果を取り入れた最適な線量分布が望まれ、それに最も近い線量分布をもたらす照射の方法・条件が、十分に検討された後決定される。また、線量は種々の方法で測定・計算されるが、科学的論理性に基づいた測定による実証が不可欠である。放射線治療に関連した諸課題について、博士論文研究の遂行に必要な国内外の最新の論文を精読し、この分野における最新の知識・技術を習得すると共に、担当教員と討論しながら問題意識を明確にし、研究計画の立案、実験、ならびに解析方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(13 山本誠一)</p> <p>放射線による医学的な診断・治療に必要な放射線計測システムの技術開発にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(41 小口宏)</p> <p>悪性腫瘍を中心とした疾患に対する放射線治療の技術的な分野に関する課題を主に扱う。</p> <p>(40 小森雅孝)</p> <p>放射線治療に関連した吸収線量の計測やシミュレーションによる線量計算にかかわる課題を主に扱う。</p>	複数開講
医用機能画像評価学特講	<p>画像上に表現された形態から異常な病変部位を診断するのが画像診断である。本講義では放射性物質を生体に投与し生体内の動態を検査することによって診断する方法や放射性医薬品の特性、さらにはシミュレーション技術による放射線計測システムなど医用機能画像分野に関する諸課題について、国内外の関連する文献を通して諸理論を学ぶと共に、専門領域における新技術や、種々の問題解決のための方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(12 加藤克彦)</p> <p>核医学分野における診断・治療装置、放射性医薬、新しいデータ収集法にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(15 古川高子)</p> <p>放射性薬品にかかわる放射能計測、分子プローブ設計、生物学的検討にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(43 平野祥之)</p> <p>シミュレーション技術による放射線計測システム設計や医療被ばく、放射線治療効果にかかわる課題を主に扱う。</p>	複数開講

<p>医用機能画像評価学特講演習</p>	<p>画像上に表現された形態から異常な病変部位を診断するのが画像診断である。本講義では放射性物質を生体に投与し生体内の動態を検査することによって診断する方法や放射性医薬品の特性、さらにはシミュレーション技術による放射線計測システムなど医用機能画像分野に関する諸課題について、博士論文研究の遂行に必要な国内外の最新の論文を精読し、この分野における最新の知識・技術を習得すると共に、担当教員と討論しながら問題意識を明確にし、研究計画の立案、実験、ならびに解析方法を習得することを目標とする。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(12 加藤克彦) 核医学分野における診断・治療装置、放射性医薬、新しいデータ収集法にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(15 古川高子) 放射性薬品にかかわる放射能計測、分子プローブ設計、生物学的検討にかかわる課題を主に扱う。</p> <p>(43 平野祥之) シミュレーション技術による放射線計測システム設計や医療被ばく、放射線治療効果にかかわる課題を主に扱う。</p>	<p>複数開講</p>
<p>生体防御情報科学特講</p>	<p>感染症、がん、免疫疾患の発症機構には、遺伝要因、環境要因など複数の要因が関与する。その発症機構に関わる要因について分子レベルでの分析法について学び、また得られた膨大な分子情報の統合解析法を取り上げ、文献的な考察のもと議論検討することで科学的論理性を涵養することを目的とする。さらに、実際の応用方法について具体例を通じて理解を深めることも目標とする。この講義では、通して現代社会の中に存在する臨床検査学のさまざまな局面や問題点を倫理的な側面をも考慮して考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(17 川部勤／6回) アレルギー疾患の病態の理解と標的分子に対する新しい検査・治療法</p> <p>(22 佐藤光夫／3回) 腫瘍生物学の進歩とコンパニオン診断薬</p> <p>(45 川村久美子／6回) 薬剤耐性グラム陰性桿菌の疫学と検査</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>生体防御情報科学特講演習</p>	<p>生体防御機構に関連する最新の文献を講読し、適切な部署において関連する実習を行い、教員と討論することにより研究を進めるための知識・技術を習得する。研究の結果については文献的な考察のもとで議論検討することで科学的論理性を涵養し、その結果について独創性を備えた視点から思索を行う。既知の分子の遺伝子・蛋白レベルでの統合された情報をもとにして標的とする分子が実際の生体内で病変形成にいかに関わるかを解明する。実習を通して臨床検査学のさまざまな局面や問題点を倫理的な側面をも考慮して研究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(17 川部勤／6回) アレルギー疾患の病態の理解と標的分子に対する新しい検査・治療法</p> <p>(22 佐藤光夫／3回) 腫瘍生物学の基礎的な実験手法とコンパニオン診断薬</p> <p>(45 川村久美子／6回) 薬剤耐性グラム陰性桿菌の疫学と検査</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>病態情報科学特講</p>	<p>疾患の病態解明は、生理学的手法や病理学的手法に加えて細胞、分子および遺伝子レベルの解析手法を併用して多面的な解析を行うことにより急速に進歩している。本特講では、形態・機能解析に関する臨床および基礎的な生理学および病理学的解析手法について学ぶとともに、具体例を通じて実際の応用法についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 永田浩三／6回) 循環器疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた生理学的解析技術の応用法 (19 長坂徹郎／6回) 生殖器、造血器疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた分子病理学的解析技術の応用法 (48 川井久美／3回) 神経内分泌腫瘍の発症・進展のメカニズム解明に向けた病理学的解析技術の応用法</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>病態情報科学特講演習</p>	<p>疾患の病態解明は生理学的手法や病理学的手法に加えて細胞、分子および遺伝子レベルの解析手法を併用して多面的な解析を行うことにより急速に進歩している。本特講演習では、形態・機能解析に関する臨床および基礎的な生理学および病理学的解析手法の選択法と応用法を演習形式で学び、実践可能なレベルまで理解を深めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 永田浩三／6回) 循環器疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた生理学的解析技術の選択法と応用法 (19 長坂徹郎／6回) 生殖器および造血器疾患の発症・進展のメカニズム解明に向けた分子病理学的解析技術の選択法と応用法 (48 川井久美／3回) 神経内分泌腫瘍の発症・進展のメカニズム解明に向けた病理学的解析技術の選択法と応用法</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>細胞遺伝子情報科学特講</p>	<p>遺伝子の異常はその遺伝子がコードする蛋白の機能の障害を通して細胞の機能の障害を引き起こす。遺伝性疾患や腫瘍のほとんどは遺伝子の異常によっておきている。それ以外の疾患でも遺伝子の異常が何らかの形で発症に関与している疾患は多い。本特講では血液疾患を中心として遺伝子の異常が疾患の発症につながるメカニズム、および疾患の遺伝子の異常を解析する手法について具体例を学び、応用方法を交えて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23 早川文彦／6回) 血液疾患と遺伝子異常 (21 石川哲也／3回) 消化器疾患と遺伝子異常 (22 佐藤光夫／3回) 呼吸器疾患と遺伝子異常 (48 川井久美／3回) 腫瘍と遺伝子異常</p>	<p>オムニバス方式</p>

細胞遺伝子情報科学特講演習	<p>遺伝子の異常はその遺伝子がコードする蛋白の機能の障害を通して細胞の機能の障害を引き起こす。遺伝性疾患や腫瘍のほとんどは遺伝子の異常によっておきている。それ以外の疾患でも遺伝子の異常が何らかの形で発症に関与している疾患は多い。本特講演習では血液疾患を中心として遺伝子の異常が疾患の発症につながるメカニズム、および疾患の遺伝子の異常を解析する手法について演習形式で学び、解析を実践可能なレベルにまで理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23 早川文彦／6回) 血液疾患と遺伝子異常</p> <p>(22 佐藤光夫／3回) 呼吸器疾患と遺伝子異常</p> <p>(21 石川哲也／3回) 消化器疾患と遺伝子異常</p> <p>(48 川井久美／3回) 腫瘍と遺伝子異常</p>	オムニバス方式
生体分子情報科学特講	<p>健康障害の発生、疾患の発症・進展には多様な環境要因や宿主要因が関与している。本特講では、消化器系、神経系疾患を中心に、その発症・進展に関与する環境要因、宿主要因について、種々の分析技術を駆使して集積した分子情報の統合解析技術について学ぶとともに、実際の応用方法について具体例を通じて理解を深めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 石川哲也／3回) 消化器系疾患の発症・進展機序解明に向けた分子解析技術の応用法</p> <p>(46 平山正昭／6回) 神経系疾患の発症・進展機序解明に向けた分子解析技術の応用法</p> <p>(47 上山純／6回) 健康に影響を与える化学的環境要因の理解に向けた質量分析計の応用法</p>	オムニバス方式
生体分子情報科学特講演習	<p>健康障害の発生、疾患の発症・進展には多様な環境要因や宿主要因が関与している。本特講演習では、消化器系、神経系疾患の発症・進展に関与する環境要因、宿主要因の種々の分析技術、統合解析技術について、その適切な選択法、応用方法を演習形式で学び、実践可能なレベルまで理解を深めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 石川哲也／3回) 消化器系疾患の発症・進展機序解明に向けた分子解析技術の選択と応用法</p> <p>(46 平山正昭／6回) 神経系疾患の発症・進展機序解明に向けた分子解析技術の選択と応用法</p> <p>(47 上山純／6回) 健康に影響を与える化学的環境要因の理解に向けた化学分析法の選択と応用法</p>	オムニバス方式
リハビリテーション療法学特講Ⅰ	<p>リハビリテーション領域における科学的探究心を深め、独創性と自律性があり国際水準となる研究テーマを考え、研究デザインが立案できることを目的とする。具体的には、独創性のある研究課題（臨床疑問など）の立て方、国際水準となる研究デザインや研究目的の理解といった、研究方法についての視点や研究遂行において高度な水準での修得を目指す。関連する研究論文のまとめを提示することで、研究の具体的方法論について討論する。</p>	複数開講

	<p>(複数開講)</p> <p>(24 山田純生) 障害が最も顕著にみられる心不全を取り上げ、その病態をポンプ障害のみでなく、神経体液性因子、種々の反応調節、骨格筋、呼吸様式、睡眠障害、運動耐容能、身体活動量、健康関連QOLなどの視点から理解し、改善方策としての理学療法を開発すると同時に、在宅サービスなど社会システムの有効活用に関する検討を行う。</p> <p>(25 内山靖) 機能的制限である広義の動作障害について理解し、症候障害学的な臨床思考過程から主な病態ならびに臨床評価指標について習得する。</p> <p>(27 杉浦英志) さまざまな骨・関節疾患に対し、高度かつ専門的な視点から、それらの病態・診断・検査・治療・リハビリテーションについて総合的に理解を深めることを目的とする。</p> <p>(26 亀高諭) 細胞生物学（特に細胞内の代謝）についての理解を深め、研究方法論について検討する。</p> <p>(49 李佐知子) 中枢神経系疾患（特に脳梗塞や脊髄損傷）後の運動機能回復およびその回復を阻害する因子の発現機序について実験するための手技、知識を習得する。</p>	
<p>リハビリテーション療法学特講II</p>	<p>リハビリテーション領域における科学的探究心を深め、独創性と自律性があり国際水準となる研究テーマを考え、研究デザインが立案できることを目的とする。具体的には、独創性のある研究課題（臨床疑問など）の立て方、国際水準となる研究デザインや研究目的の理解といった、研究方法についての視点や研究遂行において高度な水準での修得を目指す。関連する研究論文のまとめを提示することで、研究の具体的方法論について討論する。</p> <p>(複数開講)</p> <p>(29 千島亮) 身体障害を有する人の生活支援や機器開発に関する研究論文の系統的レビューを行って、研究の動向を把握する。さらに当事者や専門家からも情報収集して、顕在・潜在する重要な課題を把握して、自らの研究テーマの抽出につなげる。</p> <p>(28 辛島千恵子) 人生の初期の段階（一般に胎児期から18歳頃までの発達期）で受けた障害が発達過程において大きな影響を及ぼし、個人の活動制限や参加制約を引き起こす可能性がある場合を対象とした作業療法の理論と実践について学ぶ。</p> <p>(1 寶珠山稔) ヒトの高次脳機能における情報処理機構の基礎的理解に基づいて高次脳機能障害の病態と研究手法について講義を行う。</p> <p>(30 飯高哲也) 精神障害に関する研究の現状を講ずるとともに、疾患の病態解析について機能障害、能力障害、社会的不利益の各レベルでどのように探求すべきか、研究のあり方について把握することを目的とする。</p> <p>(51 上村純一) 精神認知機能について、脳の働きとその障害という観点で理解し、臨床的側面における高度な専門知識と技術を習得する。また、その中で最近の動向と臨床的問題点を抽出し、研究的側面から疑問を解明するための知識を習得する。</p>	<p>複数開講</p>

		(55 星野藍子) 精神障害に対するリハビリテーションに関する研究の基礎となる学術的背景及びリハビリテーションに関する応用の可能性を理解する。	
	リハビリテーション 研究実践特講セミナー	(24 山田純生・25 内山靖・27 杉浦英志・26 亀高論・29 千島亮・28 辛島千恵子・1 寶珠山稔・30 飯高哲也・49 李佐知子・51 上村純一・55 星野藍子・59 井上倫恵・60 長谷川隆史・61 足立拓史・62 五十嵐剛・63 吉田彬人) 共同  リハビリテーション療法学の学位指定必修科目である。各自の研究内容についてプレゼンテーションを行い、十分なディスカッションを行うことにより、研究を推進するとともに、リハビリテーション領域における研究実践能力を高い水準に高めることを目的とする。特に、普段接する機会の少ない、他の研究室の教員や学生と議論や交流を深めることにより、幅広い視点での考察や討論、倫理性や科学的論理性の理解ができるようになることをねらいとする。	共同・集中
	特別研究	保健医療学分野（先端情報医療学領域と包括ケアサイエンス領域）における専門的研究課題に対し、主体的に研究計画の立案、実施、評価を行う能力を涵養し、博士論文の作成につなげることを目的とする。  (6 浅野みどり) スペシャルニーズを持つ子どもと家族への看護における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。  (3 安藤祥子) 臨床がん看護学領域、慢性疾患看護において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。  (2 池松裕子) 生命危機状態にある患者の回復促進、二次障害予防、QOL向上に貢献できる研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。  (8 入山茂美) 世界における母子健康の向上させることに貢献できる研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。  (7 玉腰浩司) 周産期を含めた女性の健康及び健康事象の性差における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。  (10 西谷直子) 地域看護学関連領域において自ら選んだ研究課題に関して、調査、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。  (9 林登志雄)	複数開講

在宅看護学関連領域において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(5 本田育美)

基礎看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(31 大島千佳)

看護技術において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(35 青石恵子)

精神看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(34 佐藤一樹)

臨床がん看護学領域、慢性疾患看護において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(37 島明子)

Women's Healthにおける研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(38 高橋由紀)

母性看護学・助産学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(36 竹原君江)

臨床看護へ参与観察、実践を通して自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(33 淵田英津子)

老年看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(39 星野純子)

在宅看護学関連領域、高齢者看護において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(52 中山奈津紀)

臨床看護学領域において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(14 今井國治)

診断情報工学において自ら選んだ研究課題に関して、実験遂行など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(12 加藤克彦)

核医学及びPET（ポジトロン核医学）において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集・分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(11 島本佳寿広)

乳腺画像診断またはモニタ診断において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集・分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(15 古川高子)

放射線計測、放射線エネルギー測定、線量の測定評価／計算評価において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(13 山本誠一)

放射線による医学的な診断・治療や医療被ばく・環境放射線管理に必要な放射線計測システムの技術開発において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、分析、評価など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(16 礪田治夫)

脳機能解析、MRを用いた血流解析・心筋運動解析、凍結治療装置開発、MR撮像技術・MR画像診断、神経系・頭頸部画像診断において自ら選んだ研究課題に関して、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(41 小口宏)

放射線治療技術学において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(40 小森雅孝)

標的腫瘍への線量集中性が高い放射方法、線量分布の測定やモンテカルロシミュレーションを用いた評価において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(42 砂口尚輝)

診断に有用な生体情報を得るための測定法や解析法の開発において自ら選んだ研究課題に関して、実験、解析、理論構築など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(43 平野祥之)



医療被ばくや放射線治療効果、放射線影響の原子分子レベルから細胞レベルに関する分野において実験的あるいはシミュレーション手法を用いた研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(44 小山修司)

放射線計測・管理学関連分野において自ら選んだ研究課題に関して、実験、理論計算、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(53 川浦雅代)

放射線感受性の高い小児に対する放射線医学診断検査および治療時の医療被ばくと検査の最適化における研究課題に関して、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(54 藤井啓輔)

放射線診断検査における被ばく線量の最適化における研究課題に関して、実験、計算シミュレーション、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(21 石川哲也)

消化器・肝疾患の発症進展機序の解明に関して自ら選んだ研究課題について、計画立案、モデル構築、解析手法の選択、解析の実践など、研究の実践について指導、論文作成の指導を行う。

(17 川部勤)

アレルギーおよび自己免疫疾患など生体防御機構の異常を対象とし、分子生物学的な手法を用いた解析を通じた病態の解明における研究課題に関して、実験、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(18 近藤高明)

ヘルスケア分野での保健・医療技術の疾病・健康管理への活用という研究課題に対し、情報メディア技術との融合をめざした研究の実践、指導を行い、博士論文の作成につなげることを目的とする。

(22 佐藤光夫)

胸部悪性腫瘍に関する研究課題を設定し、初期の段階では、立案の仕方、実験手技、データの整理・解釈等の事項を指導し、研究に着手させる。週ごとにデータをまとめ、問題点を整理し、それらを踏まえながら進めさせ、データ全体をまとめる。

(19 長坂徹郎)

生殖器および造血器疾患の発症・進展のメカニズムの解明に関する研究課題について、計画立案、モデル構築、解析手法の選択、解析の実践など、研究の実践についての指導および論文作成の指導を行う。

(20 永田浩三)

循環器疾患の発症・進展のメカニズムの解明に関する研究課題について、計画立案、モデル構築、解析手法の選択、解析の実践など、研究の実践についての指導および論文作成の指導を行う。

(23 早川文彦)

造血器悪性腫瘍、血栓止血領域の疾患、造血幹細胞からの血球発生などの研究課題に関して遺伝子解析、分子生物学的手法を用いた解析などの実践、指導を行い、論文作成指導を行う。

(47 上山純)

環境要因解析に必要な検体中のバイオマーカーや代謝産物の網羅的な高感度分析、情報のデータベース化、多変量解析を含む統計学的解析等から研究課題を設定し、計画立案、研究の実践、論文作成の指導を行う。

(48 川井久美)

神経内分泌腫瘍の発症・進展機序の解明に関して自ら選んだ研究課題について、計画立案、モデル構築、解析手法の選択、解析の実践など、研究の実践について指導、論文作成の指導を行う。

(45 川村久美子)

分子生物学的な研究方法の最新知識を学び、薬剤耐性菌の分子メカニズムの解明を試みる。さらに、研究遂行を通して、研究手法の理論的背景の基本や研究の実践的知識、さらには自立的研究実施のための研究計画の立案・実践・評価法を修得させる。

(46 平山正昭)

神経疾患の病態発症機序や病態進展因子の解明のための関連文献の検討、必要なデータ取得、モデル構築や解析手法などの研究実践や指導を行い、また基本的に必要なバイオインフォマティクスの知識とUnixを用いた解析ソフトの導入を指導し論文指導を行う。

(25 内山靖)

運動と姿勢の制御と学習、臨床評価指標の開発ならびに信頼性・妥当性に関する検証、理学療法の介入効果における研究課題に関して、データ収集、解析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(26 亀高諭)

筋芽細胞の膜融合過程の調節機構、遺伝性痙性対麻痺の原因遺伝子群の機能解析、筋分化におけるオートファジーの役割、筋芽細胞の筋分化を制御する化合物の探索における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(27 杉浦英志)

リハビリテーション理学療法学において自ら選んだ実践的研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(24 山田純生)

慢性心不全の虚弱性に関する全国多施設共同前向きコホート研究、アテローム血栓症の再発予防を目的としたライフスタイル改善、心大血管術後ならびに心不全の骨格筋タンパク分解予防を目的とした神経電気刺激介入における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(49 李佐知子)

中枢神経損傷後の機能不全のメカニズムにおける研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(50 松井佑介)

生命人間情報健康医療学・先端計測情報健康医療学における専門的研究課題に対し、主体的に研究計画の立案、実施、評価を行う能力を涵養し、博士論文の作成につなげることを目的とする。

(32 中柄昌弘)

実社会情報健康医療学における専門的研究課題に対し、主体的に研究計画の立案、実施、評価を行う能力を涵養し、博士論文の作成につなげることを目的とする。

(28 辛島千恵子)

発達過程作業療法における介入効果や新たな治療技術の構築における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(29 千島亮)

生活支援技術応用の進展に即応して、作業療法学の専門領域確立に向けた研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(1 寶珠山稔)

大脳高次機能に関連した脳波などの脳反応とリハビリテーション効果における研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(30 飯高哲也)

精神医学領域の疾患と作業療法との関わりを中心に、臨床応用の可能な研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(51 上村純一)

作業療法領域およびリハビリテーション領域の学術的發展に繋がる（特に運動-感覚機能に関連する脳機能ネットワーク）研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。

(55 星野藍子)

精神障害に対するリハビリテーションにおける研究課題に関して、データ収集、分析など、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。